

科目名	宗教学の人間学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
担当教員	福島 寛太郎			
開講期	後期			
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。			
達成目標	「到達目標」 ・宗教学的”ものの見方”を理解する。 ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。			
受講資格	家政学部人間生活学科 1年	成績評価 方法	試験成績（60点）出席状況（60%以上）・授業への理解度8割、台とする。	
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのもがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。	初回に当たり、とくになし 1.5
2	神中心の宗教	神に視点を置いてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。	1.5
3	人間主義的宗教	人間に視点を置いてみると、宗教の中には、人間中心のものがあ、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれである。	1.5
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。	1.5
5	汎神的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。	1.5
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教との関わり方を明らかにしたい。	1.5
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。	1.5
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。	1.5
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。	1.5
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。	1.5
11	救済の原理と価値観の転倒	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。	1.5
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。	1.5
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。	1.5
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。	1.5
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
16	期末試験	期末試験を行う	0

科目名	哲学的人間学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄		
開講期	後期		
授業概要	本授業のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてさらに思想的思索をを深めて行くことにあります。前期では、歴史上の哲学者が人間をどうとらえたか、たとえば「人間は考える葦」(パスカル)とか、人間は知性的に行動するとか、人間は自由意志をもつなどを取り上げました。本講義は、前期における「人間の理解」を基礎にして、さらに人間の尊厳と倫理的課題を追究し、そしてボルノーの著書を基にして、哲学的人間学の学的内容を解明することを中心に進めて行きます。		
達成目標	1 受講者は人間の尊厳と倫理的課題を把握することができたか。 2 受講者はボルノーの考え・思想の下にあって「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できたか。 3 受講者はボルノー思想に関する講義を聴いて自身の「人間としての生き方やあり方」を述べることでできたか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	毎回、ワーク・シートを活用し、ゼミ形式で発表する方法の中で評価する。評価内容は、事前調べ・レジュメ作成・発表・討議など、とする。これらの評価を含めて、学期末でまとめ作成で100点とする。
教科書	ボルノー著/峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』（理想社、1966年、再版もあり）。この著書は学内の図書館にある。葛生栄二郎他共著『新・いのちの法と倫理』（改訂版、法律文化社、2017年9月を使用するが、この本は当方でコピー物で用意する。		
参考書	特になし		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。専用のノートを準備すること。		
オフィスタイム	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。ugg28553@m4.dion.ne.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。少人数の受講者数の場合は、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとります。いずれにするかは、受講者の皆さんと相談の上、決定する。	60
2	人間の尊厳と人権尊重・福祉理念	人間としての尊厳の考え方とその習得、人権思想・福祉理念の歴史的変遷とその意義、人権尊重・権利擁護の考え方とその習得。	60
3	自立の概念	人間にとっての自立の意味、人間尊重の主体的保持、介護を要する人における自己決定の考え方とその理解。	60
4	ボルノーの人物とその哲学	ボルノーという人物の紹介、教育学における人間学的見方。	60
5	ディルタイの生の哲学と教育学	ディルタイの生涯と思想、ディルタイの哲学と教育学、ディルタイの思想と位置。	60
6	ボルノーの実存哲学と教育学	序論—出発点としての実存哲学、二つの根本的な教育観、教育における非連続的形式の可能性。	60
7	ボルノーにおける非連続的事象（1）	危機（1）—身体的・精神的発達における非連続的事象、危機の本質はなにか、病気における危機。	60
8	ボルノーにおける非連続的事象（2）	危機（2）—道徳的危機、生における危機の位置、危機にたいする教育学態度。	60
9	ボルノーにおける非連続的事象（3）	覚醒—教育学的概念としての覚醒、肉体的・感覚的事象、覚醒の教育学的側面。	60
10	ボルノーにおける非連続的事象（4）	助言—生活における助言の役割、助言と決断、教育としての助言	60
11	ボルノーにおける非連続的事象（5）	出会い（1）—出会いの概念（出会い、あたらしい出会い概念の二つの段階、二つの出会い概念の相違、出会いの実存的概念）。	60
12	ボルノーにおける非連続的事象（6）	出会い（2）—出会いの実存的概念、出会い概念の拡張、出会いの精神科学的概念。	60
13	ボルノーにおける非連続的事象（7）	出会い（3）—教育学上の問題としての出会い（出会いと陶冶との対立、出会いと陶冶との補助関係、教師との出会い）。	60
14	ボルノーにおける非連続的事象（8）	教育における冒険と挫折—教育の本質的契機としての冒険、試行・賭け・冒険、教育への転用、挫折。	60
15	授業のまとめ	倫理やボルノー思想の学習を通して何を学んだかをまとめる。	60

科目名	人間発達学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達には、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して子どもや大人の姿が目に見えるように伝えます。授業は毎回、対話式双方向型で進めていきますので、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多めに語り合ってください。 実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。			
受講資格	人間生活学科 2年生 (生活総合コースは必修)	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 発言内容・受講態度、普段のレポート（20%）	
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。			
参考書	テーマ別に授業で紹介する。			
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
オフィスタイム	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。	次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。	30
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	子どもの発達 I	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	子どもの発達 I 乳児期（0～1歳）	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔吐力と離乳食など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	子どもの発達 II 幼児期（2～3歳）の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がり。「ごっこ」遊びなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	子どもの発達 III 幼児期（4～5歳）の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	子どもの発達 IV 児童期の発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	子どもの発達 IV 子どもの道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデューラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	青年期・成人期・高齢期の発達	アイデンティティの獲得、モラトリアム、青年期の心理的危機と精神疾患。 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	愛着理論 I 愛着と基本的信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	愛着理論 II 愛着と共感する力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	発達をつまづき	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30

科目名	家政学原論Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	安田 純子			
開講期	前期			
授業概要	<p>家政学原論 (Principles Home Economics) は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門的各論の土台となる科目です。</p> <p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。</p>			
達成目標	<p>家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。</p> <p>本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。</p> <p>履修カルテの評価項目：評価項目は、以下の3点です。</p> <p>①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦勞や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。</p> <p>②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。</p> <p>③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。</p>			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	成績評価 方法	試験60%、レポートは40%	
教科書	日本家政学会 家政学原論部会編「やさしい家政学原論」建帛社 （授業の準備や参照に使用する）			
参考書	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。			
学生への要望	<p>学問的要望 授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。</p> <p>日常的要望（守るべきこと） 授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とのおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。</p>			
オフィスタイム	月曜日と木曜日の午後 場所は、創学館N.O. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス 家政学への接近	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の構成と進め方 ・その他の説明、受講生の確認 ・授業への導入 ・家政学とはどういう学問か 	はじめての学問であり、基軸となる学問なので、授業の内容把握の復習をする。
2	家政学原論とは何か	<ol style="list-style-type: none"> 1 家政学を知ること 家政学とは何か 家政+学 原論とは何か 2 家政学における原論の意味と必要性 	テキストのp.83~p.90 p.91~p.98に目を通す。（読み込む必要はない。）復習をする。
3	家政学入門1 家政学の目的・対象・方法、定義	<ol style="list-style-type: none"> 1 家政学の目的・対象・方法 2 家政学の定義 	テキストのp.10~p.18の2.3.4.5.（授業内容に関連した項目）を読む。復習をする。定義の確認
4	家政学入門2 家政学の領域と独自性	<ol style="list-style-type: none"> 1 家政学の領域 2 家政学の独自性 	テキストのp.10~p.18の6.7.8.（授業内容に関連した項目）を読む。復習をする。
5	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程①)	<ol style="list-style-type: none"> 1 家政学発祥の経緯 2 家政学の変遷 	テキストのp.1ならびに第4章に目を通す。復習をする。
6	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程②)	家政学の変遷（胎動期から現在）	テキストの第4章を読む。復習をする。
7	学問研究と研究者たちの姿勢	<p>学問研究と研究者たちの姿勢 先達から何を学ぶか</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 松島千代野先生 (2) 亀高京子先生 * (3) 関口富左先生 	本学の創始者である、故関口富左名誉学園長について、御著書「家政哲学」などをもとに調べる。復習をする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	人間・福祉・自然を護る家政学	1 人間・福祉・自然を護る家政学 (1) 人間を護る家政学 (2) 福祉を護る家政学 (3) 自然を護る家政学	復習をする。 新聞などから生活に関する身近な諸問題を考える。	60
9	生活の学としての家政学	1 生活とは一生活のとらえ方 (1) 人はなぜ着るのかー衣服がもつ意味 (2) なぜ食べるのかー食物がもつ意味 (3) なぜ住むのかー住まいがもつ意味 (住むということ)	テキストp.50~p.56とp.83~p.90に目を通す。(読み込まなくてもよい。) 復習をする。 課題レポートのテーマについて考え始める。	60
10	家族と生活(1)	1 家族とは何か (1) 家政学がみる家族 2 家族の起源 (1) 家族の基本的概念	テキストp.66~p.82に目を通す。(読み込まなくてもよい。) 復習をする。	60
11	家族と生活(2)	1 日本社会における家族の変遷と諸問題 (1) 核家族の進行と少子化 (2) 家族構成の変化と高齢者世帯の増加 (3) 出生数の低下の問題 (4) 家庭における今日的不安定要因	テキストp.66~p.82に目を通す。(読み込まなくてもよい。) 復習をする。 課題レポートに取り掛かる。	60
12	家庭生活と社会生活(1)	1 生活のバランス (1) ライフコースの多様化 (2) 働くということ (3) 家庭内の仕事(家事)と社会的労働	ライフコースについて簡単に調べる。 復習をしながら自分の将来について考える。 課題レポート作成(途中)	60
13	家庭生活と社会生活(2)	1 ワーク・ライフ・バランス (1) 「仕事と生活の調和憲章」2007年 2 仕事と家庭経営 (1) 時間と空間 (2) 経済的自立 (3) 健康で豊かな生活(豊かさとは) (4) 多様な生き方・働き方	ワーク・ライフ・バランスについて調べる。 復習をしながら自分の生活について展望する。 課題レポート作成(途中)	60
14	家政学のこれから(1)	1 諸問題 (1) 家事の外部化の問題 ・家庭における既製品利用の拡大と危険性について (2) 利便性と効率性に振り回される生活スタイル 2 社会貢献・復興と家政学 3 確認テストに向けての復習	テキスト第6章に目を通す(読み込まなくてもよい) 復習をする。 課題レポートを仕上げる。	90
15	家政学のこれから(2)	1 sustainability(持続可能性)と家政学 2 人間守護 人間が生きるということ 家政哲学へ 3 全体のまとめ 4 確認テストと解説	総復習をする。	120

科目名	家政学原論Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	影山 彌			
開講期	後期			
授業概要	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。			
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①家政学の定義が理解できたか。 ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。 ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。			
受講資格	人間生活学科2年生 食物栄養学科2年生	成績評価 方法	受講態度(10%)、テスト(90%)	
教科書	関口富左編『家政哲学』家政教育社			
参考書	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。			
学生への要望	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をず提起すること。			
オフィスタイト	(影山) 金曜日を除く昼休み(12:00~12:50) 創学館4階No.2研究室 (深谷) 火曜日(12:00~12:40)教務部			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	家政から家政学へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。	60
2	家政学の定義	先学者の定義の比較と意味内容の検討をします。日本家政学会の定義、黒川喜太郎氏、松平友子氏、小池行松氏、中原賢次氏、林太郎氏、山本キク氏、林太郎氏、野口サキ氏、原田一氏の家政学の定義と関口富左氏の定義を比較します。そこから関口富左氏の定義は、個人や家族に視点があてられていること、また家政学は人間守護の学、という家政学の中心概念について理解します。	60
3	家庭生活と人間	文学作品、森鷗外『半日』における家庭を読み、主人公は家庭に何を望んでいるか、また家庭を存続させるには家庭には何が必要か、家族の役割を学びます。また夏目漱石『道草』における家庭を読み、その文学作品から、主人公は家庭に何を望んでいるか、また子どもは家庭に何をのぞみ、子どもが育つためには何が必要かを学びます。	60
4	ボルノーの被護性と本家政学における「人間守護」	本学家政学が、ボルノー哲学を拠り所として捉えた理由と、家政行為・技術の実態的内容の本質的意味について学びます。人間の生活の基本である住むことの哲学から、人間のよりどころとなる家庭や家族の本質を学び私たちの生活から人間を守護する方法を理解します。	60
5	ボルノーの住むことの意味について	ボルノーの住むことの意味について、「住むとは、世界のすべての道がそこから出。またそこに帰ってくるような一定の場所に属しており、そこから自分の世界を作り上げるといことで、簡単に言えば居住地と呼ぶ。この居住地は秩序ある世界の中心であり、人間が住むことのできる限りにおいてのみ、人間の世界は一つの中心とともに整理され多秩序をもつものである」という言葉から住むこととは何かを具体的に学びます。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	家政学と人間所在—居住空間の分析—	人間の体験的生活空間を「内部空間」と「外部空間」との二層に区切っている。内部空間は人間がそこへ帰り、その中で自分が安全だと観ずることができる休息と平和の空間であること、すなわち守護空間です。外部空間は労働と仕事の空間で敵意に満ちた緊張の中の空間であることを理解します。また、人間生活の健全さはこの、2つの領域の均衡が正しく保たれていることにかかっているというボルノーの言の意味について、実例をもって理解します。	講義資料について予習・復習する。 60
7	家政学と人間所在—時間的分析と日常—	生活とは一つの空間を所有することであるが、それと同時に、時間の経過の中に身を置くことでもあります。人間存在における時間性的問題。主観・客観による時間の変化と日常生活の在り方を学びます。くつろいでいる時の時間は、可逆可能な時間、例えば回想・追憶・反省等々と時間をもどしたり、また静止させたりするなど自由な広がりを持つことができます。また、喜びに満たされている時の短いと感じる時間、苦痛を強いられている時の長いと感じる時間があり、これらの時間は主観的時間と言われます。他方、時計で計られる物理的な時間は客観的な時間と言い表すことについて理解します。	講義資料について予習・復習する。 60
8	家政学の独自性 — 二相性の解明 — 、家政学の研究方法論について	個人と家族、合理と非合理、内部空間と外部空間空間、主観的時間と客観的時間等々観点より捉え、これを実生活上より分析し、さらにその解明による実態確認をします。	講義資料について予習・復習する。 60
9	現代の科学の動向	19世紀後半、イギリスで誕生した新しい科学の特色、概要について講じます。	講義資料について予習・復習する。 60
10	現代の科学に対する警告	個別化、高度化を進めてきた、科学に対する科学者自身による反省と警告について解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60
11	本学家政学のパラダイム (1)	本学家政学のパラダイムの概要を説明し、特に本学家政学の理念である「人間守護」について解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60
12	本学家政学のパラダイム (2)	本学家政学の対象及び対象空間について説明をします。	講義資料について予習・復習する。 60
13	本学家政学のパラダイム (3)	本学家政学の方法論について説明をします。	講義資料について予習・復習する。 60
14	本学家政学の政策論 (1)	本学家政学における政策論として、シビル・ミニマムの思想について解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60
15	本学家政学の政策論 (2)	シビル・ミニマムの内容が生活の充実を実現する条件であることを解説をします。	講義資料について予習・復習する。 60

科目名	家族関係学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	前期		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
達成目標	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
受講資格	人間生活学科・食物栄養学科4年生、文化学専攻科1年生他	成績評価 方法	①課題レポート50点 ②筆記試験40点 ③ノート提出10点
教科書	資料を配布する		
参考書	適宜提示する		
学生への要望	資料はノートに貼り付けるなどして、自学自習はノートに記入し最終的に提出。課題レポート(宿題)の提出は5回ある。発表も積極的に行うこと。		
オフィスタイム	木曜Ⅳ限、金曜Ⅴ限、地域創成学科研究室N0.1		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家族の意義について考える。	120
2	家族と法律	結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。明治民法と比較して考える。	120
3	戸籍と家族	戸籍という面から家族を考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」レポート課題提出を確認し代表者が発表する。戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。	120
4	戦後日本の人口変動	戦後日本の合計特殊出生率の変化、生産年齢人口や高齢者人口割合の変化等に注目し、家族の変化について考える。戦後のベビーブーム、高度経済成長期の家電製品の普及と家族の変化について考える。	120
5	少子社会の現状	課題レポート②「少子社会とは何か」を提出確認し代表者が発表する。日本の少子化に関する統計資料を基に、少子化の定義、問題点等について焦点をあて、現代の家族の置かれている状況を考える。	120
6	中間振り返り・ポイント確認	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。	120
7	少子化と子育て支援	課題レポート③「郡山市の子育て支援」の提出確認をし代表者が発表する。少子社会における子育て支援の具体的事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。	120
8	地域における子育て	少子社会の背景の一つに母親の孤立ということが挙げられ、子育ての地域ネットワークづくりが重要である。子育て支援策を欧米諸国の事例から学ぶ。	120
9	家族が抱える諸問題(1)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。	120
10	家族が抱える諸問題(2)	各自が作成した課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」のレポートについて、全員が発表し全体で質疑応答する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	中間振り返り・ポイント確認	少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題という、ここまでの授業内容の確認と補足を行い、ポイントを確認する。	120
12	高齢化と世帯の変化	国勢調査の結果から、人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。様々な事例を読み、高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。	120
13	諸外国の高齢者について(発表)	課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」のレポートについて各自が発表し全体で討議する。後半では諸外国の高齢者の生活を概観した資料を読みまとめる。	120
14	戦後日本の家族の変化と高齢者の生活の変化	戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。また、現在の要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。最終レポートのテーマは「現代家族が抱える諸問題」(副題は各自が決めて焦点を絞ること)。	120
15	まとめ・振り返り	この授業を通して学んだ事項を振り返りまとめとする。家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題、高齢社会の現状、高齢者の生活、高齢者介護と家族について、内容を確認・補足し、筆記試験を行う。	120

科目名	生活経営学Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	大泉 由美, 深谷 笑子			
開講期	前期			
授業概要	<p>本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。</p> <p>「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調和ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調和ある望ましい生活経営の在り方を考える。</p>			
達成目標	<p>履修カルテ</p> <p>①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。 ②私たちは、組織の中にいることが理解できる。 ③家庭経済の仕組みが理解できる。</p>			
受講資格	人間生活学科 2年生以上	成績評価 方法	テスト70%、課題・発表30%	
教科書	必要に応じて資料を配付する。			
参考書	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 『組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fポルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 その他適宜授業中に紹介する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュースなどで情報を収集を採取しながら、社会の状況に興味・関心を持ってください。 ・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。 			
オフィスタイム	深谷 月曜日12時30分～12時45分（教務部） 大泉 火曜日2限 木曜日1限 （創学館4階No.3研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
2	人間の生活する空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・人間が生活するためには家庭（内部空間）と社会（外部空間）は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを理解するとともに、両者の均衡を保つために必要なことは何かをディスカッションする。 	講義資料の予習をしておくこと。講義内容の復習をする。
3	組織体①	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・組織体とは何かということを経過的経過を踏まえ理解する。 	組織とは何かについて予め調べておくこと。講義内容の復習をする。
4	組織体②	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。 	一般企業や学校等の組織図を調べておくこと。講義資料の復習をする。
5	組織体③	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。 	組織に関するニュースを調べておくこと。第2～5回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。
6	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・計画とは何かを具体的に知ることは、家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠である。計画の基本的な内容（意義）について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを理解する。 	計画と予定の違いを調べておくこと。講義内容の復習をする。
7	計画の限界	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについてディスカッションをおこなう。 	なぜ情報を持っていることが大切なのかを考えておくこと。講義内容の復習をする。
8	統制	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・人間は常に何らかの自己統制（管理）を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的（規則・規程）に統制（管理）を行わなければならない。内部空間にあっても理性的な自己規制をはじめとして約束事（規則・規程）がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を定めることになる。統制について基礎的な知識を理解し活用できる。 	統制とは、どのようなものか調べておくこと。講義内容について復習する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	経営の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・経営の要因である「人・物・財貨（金）・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。 	第6～9回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。
10	指導・リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・生活に必要な指導とは、リーダーシップとは何かとすることを学ぶ。現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。講義内容を踏まえて自分が考える理想のリーダーについてプレゼンテーションをおこなう。 	リーダーに必要な要素、影響力について考えをまとめておくこと。講義内容の復習をする。
11	人間と時間、生活と時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・私たちにあって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間、生活と時間について考える。生活時間調査から考える生活の課題についてディスカッションをおこなう。 	配布されたプリントに生活時間調査をおこなってくる。講義内容を復習する。
12	家庭経済	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・家庭経済と経済社会、家庭経済に影響を及ぼす経済動向について理解を深める。 	経済に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をすること。
13	家計の構成・家計簿	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・生活経営と家計、家計の構造（収入・支出・貯蓄）、家計の個別化について理解する。ライフステージに合わせて家計の課題も変わっていくことを理解する、 	総務省『家計調査』データの資料を基に、家計の変化について考えておくこと。講義内容の復習をする。
14	消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・現代の消費生活や消費問題に理解を深める。 ・経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。消費者を取り巻く問題を取り上げ（新聞記事等）、ディスカッションをおこなう。 	消費生活に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をする。
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの発表。 ・講義内容の総括 	講義内容をまとめ、定期試験に備える。

科目名	保育学		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	岡本 宏二			
開講期	前期			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探究する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解することができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
達成目標	<p>【授業の目的・ねらい】本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探究する能力を養うことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>【到達目標】①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解することができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者。	成績評価 方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。	
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。			
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名			
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
オフィスタイム	授業開始前：教室 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。	0
2	保育を学ぶ	1) 保育とは何か ※保育を学ぶ意義や必要性について理解し、自分の子ども時代を振り返りながら人間の発達について考えていく。	0
3	子どもの発達①	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。	0
4	子どもの発達②	1) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。	0
5	子どもの発達③	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。	0
6	子どもの発達④	1) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。	0
7	子どもの心とからだについて①	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	子どもの心とからだについて②	1) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、 休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年 の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、ま た、対策などについて学習する。睡眠の必要性につ いて、研究事例を取り上げて解説する。		0
9	子どもの心とからだについて③	1) 子どもの食事摂取について ※子どもの成長に合わせて必要とされる栄養につ いて献立から考えていく。		0
10	子どもの心とからだについて④	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故に より戸外で活動が制限されたことによって引き起こさ れた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動につ いて考えていく。		0
11	子どもとのふれあい	「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深 める。		0
12	子どものあそび	1) 子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、有効的な遊具の制作体験を する。		0
13	様々なタイプについて	1) 子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている、子どものタイプにつ いて理解を深め、対応方法などを検討する。		0
14	子育て支援	1) 児童福祉について 2) 子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えてい く。		0
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。		0

科目名	社会調査法		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業概要	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。 ○実務経歴 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。			
達成目標	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。	これまでの学修内容を元に、レポートを作成する。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

平成31年度

科目名	社会福祉実習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	地域にある社会福祉施設の役割を理解するとともに、そこで生活する利用者の特徴を学ぶ。 基本的な介護技術を実践できる能力を身に付ける。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先施設の概要を理解する ・実習中の留意点、実習生として遵守すべきことを確認する <p style="text-align: center;">【履修カルテ評価項目】</p> <p>①社会福祉施設の概要を理解できたか</p> <p style="text-align: right;">②社会福祉施設の利用者像を理解できたか</p> <p style="text-align: center;">③基本的な介護技術を習得できたか</p>		
受講資格	福祉コース	成績評価 方法	実習先評価40%、 事前指導レポート30% 事後報告書30%
教科書	宮田和明他編「5訂社会福祉実習」中央法規出版		
参考書	随時紹介する		
学生への要望	実習にあたり、明確な目標を持ち、積極的に取り組んで下さい		
オフィスタイム	水曜日1、2コマ 創学館4階 No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	事前指導	実習施設の法的根拠、目的、組織、運営に関する理解	・実習施設について調べ、まとめる 60
2	事前指導	実習施設の利用者とニーズの理解	・実習施設における利用者について調べる 40
3	事前訪問	実習計画書を持参し、実習内容を確認する	・実習計画書を作成する 30
4	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
5	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
6	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
7	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
8	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
9	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
10	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
11	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
12	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
13	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ 60
14	事後指導	実習報告書の作成	・実習報告書を作成する 90
15	事後指導	実習報告会	・課題をまとめる 60

科目名	社会福祉原論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	現代社会における福祉制度と福祉政策の展開やその概念と意義について学ぶ。 また、現代社会の生活問題に注目しつつ福祉政策の現状と課題について考察する。		
達成目標	現代社会における福祉課題が理解できている。 わが国の社会保障の基本的な仕組みが理解できている。 介護実践に必要な基礎的な知識が習得できている。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース 生活総合コース	成績評価 方法	期末試験 80% 小テスト 20%
教科書	毎週、プリントを配布します		
参考書	現代社会と福祉 中央法規		
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。		
オフィスタイム	火曜日の2時限目・金曜日の4限目（創学館4階 No.6研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業に関するガイダンスを行う。 現代社会問題について考える。 福祉を学ぶ意義について考える。	・授業の復習をし、ノートにまとめる	30
2	福祉制度の概念と理念	現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する	・授業の復習をし、ノートにまとめる	30
3	社会の変化と福祉	社会の変化に伴う福祉ニーズの発生 福祉政策の現代的課題	・授業の復習をし、ノートにまとめる	30
4	わが国の社会保障制度	わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する	・授業の復習をし、ノートにまとめる	30
5	福祉と福祉政策Ⅰ	社会福祉が従来のような高齢者・障害者・児童・困窮者を対象とするものから普遍化し拡大していること、反面、福祉政策から漏れる場合があるという部分も理解する。	・現代社会の福祉の問題について調べまとめる	50
6	福祉と福祉政策Ⅱ	複雑多様化している日本の社会福祉問題に対して、政策の担い手である社会福祉士、介護実践の担い手である介護福祉士にどのような役割と機能があるのかを理解する。	・困難を抱えて生活している人々に対する社会福祉士・介護福祉士のかかわりについて調べる	60
7	地域社会・組織	日常生活における地域とのかかわり、地域社会の集団・組織 地域における組織化、エンパワメント	・地域における支え合いの活動を調べる	40
8	社会構造とライフスタイルの変化	格差社会と社会的排除 コミュニティの希薄化と地域の問題の多様化・複合化 地域における生活支援	・格差社会、社会的排除というキーワードについて、現代社会と照らし合わせて調べ、まとめる	50
9	介護保険制度の概要Ⅰ	介護保険制度の仕組みの基礎的理解	・介護保険制度の仕組みを調べておく	50
10	介護保険制度の概要Ⅱ	介護保険制度の動向 介護保険制度における専門職の役割	・要介護高齢者の増加等、介護保険制度に関連する内容を調べる	60
11	障がい者総合支援法	障がい者支援と障がい児支援 障がい者総合支援法の概要	・障がい児・者がどのような問題を抱え生活しているのかを調べる	60
12	障がい者自立支援制度	障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解	・障がい児・者を取り巻く状況を調べる	50
13	ソーシャルワーク実践・介護実践に関する諸制度Ⅰ	福祉関係職種、保健・医療職種の理解 保健・医療サービスの概要の理解	・社会福祉実践の場における多職種連携について調べる	50
14	ソーシャルワーク実践・介護実践に関する諸制度Ⅱ	個人情報に関する制度、成年後見に関する制度、社会福祉法における権利擁護のしくみ、高齢者虐待防止法、障がい者虐待防止法の概要を理解する	・授業内容の用語について調べておく	60
15	まとめ	講義を振り返り、まとめを行う。	・ノートをまとめ授業内容を整理する	30

科目名	社会保障論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	社会保障は、国民に社会的な危険・事故からの回避と回復を可能とするセーフティネットの制度である。福祉国家の重要な政策である社会保障の理念、目的、機能および手段などを理解し、安定した人間生活に社会保障が果たす役割と、社会保障制度が整備されてきた歴史と背景について考える。			
達成目標	①社会保障制度の全体像（どのような制度が含まれるか）について理解できたか。 ②社会保障の各制度の役割と対象について理解できたか。 ③現代の貧困問題や社会的弱者の生活実態について理解・関心が深まったか。			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース／福祉コース 2年生	成績評価 方法	①レポート30点 ②定期試験70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	「わかる・みえる社会保障論 一事例でつかむ社会保障入門」今井 伸 編、株みらい 「新・社会福祉士養成講座 社会保障」中央法規			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日4コマ 経営管理學研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス 社会保障とは何か①	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。私たちの生活と社会保障について考える。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
2	社会保障とは何か②	少子高齢化社会と社会保障制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
3	社会保障の歴史	欧米と日本における社会保障の歴史を学ぶ。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
4	医療保険制度①	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
5	医療保険制度②	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。（続き）	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
6	雇用保険制度	雇用保険制度の概要と各種給付について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
7	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度（労災保険）の概要について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
8	年金保険制度	年金保険制度の役割と機能、仕組みについて理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
9	介護保険制度	介護保険制度の創設と概要等について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
10	生活保護制度	生活保護制度の目的と基本原理、生活保護の動向等について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
11	社会手当制度	社会手当の概要と各種手当について理解する。	これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。	60
12	社会福祉制度	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、母子・父子・寡婦福祉について理解する。	これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。	60
13	社会保障の財源と費用	社会保障費用統計と国の財政、国民負担率について理解する。	これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。	60
14	諸外国における社会保障制度	ヨーロッパ、アメリカ、アジアの社会保障制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。小テスト実施。	これまでの学修内容を復習し、小テスト、定期試験に備えること。	90

科目名	レクリエーション活動援助法	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択	
担当教員	佐藤 喜也			
開講期	前期			
授業概要	1 遊び・レジャー・レクリエーションの我が国における現代的な意義を伝える。 2 Therapeutic Recreation Serviceの基本的な考え方と、社会福祉領域におけるレクリエーション援助の方法について伝える。 3 学んだ学生が社会福祉の現場に出たとき、実践的に役立つアクティビティを伝える。			
達成目標	1 遊び・レジャー・レクリエーションの我が国における現代的な意義を伝える。 2 Therapeutic Recreation Serviceの基本的な考え方と、社会福祉領域におけるレクリエーション援助の方法について伝える。 3 学んだ学生が社会福祉の現場に出たとき、実践的に役立つアクティビティを伝える。			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	期末テスト 50点 日常の受講態度 50点	
教科書	レクリエーション支援の基礎 (公財) 日本レクリエーション協会			
参考書	特になし			
学生への要望	1 実技があるため活動的な服装で出席すること 2 実技及びグループワークには積極的に参加すること			
オフィスタイム	木曜日授業開始前(創学館2階教務部内非常勤講師室)、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	コミュニケーションワーク 論2	授業の進め方、成績の評価方法等について(ガイダンス) アイスブレイキングの方法と進め方		0
2	基礎理論 演習	レクリエーション支援者の役割 レクリエーションアクティビティの体験		0
3	事業論 演習	レクリエーション事業の基本 レクリエーションアクティビティの体験		0
4	事業論 演習	レクリエーション事業の企画と演出 レクリエーションアクティビティの体験		0
5	事業論 演習	レクリエーション事業の安全管理 レクリエーションアクティビティの体験		0
6	支援論 演習	目的志向型レクリエーションワーク レクリエーションアクティビティの体験		0
7	支援論	コミュニケーションと相互作用 目的にあわせたアクティビティの選択		0
8	支援論	目的にあわせたアクティビティの提供 生活支援とレクリエーション		0
9	支援論	参加者に合わせたアレンジ法		0
10	指導実習	参加者に合わせたアレンジの実際		0
11	コミュニケーションワーク 論1	レクリエーション支援者にとってのホスピタリティーと ホスピタリティートレーニング		0
12	コミュニケーションワーク 論2	アイスブレイキングのプログラミング		0
13	支援論	社会福祉とレクリエーション セラピューティックレクリエーションサービス		0
14	支援論	福祉レクリエーション援助プログラムの展開		0
15	基礎理論	レクリエーション運動の歴史と制度 レクリエーションとは何か		0

科目名	高齢者福祉論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	高齢者の特性や生活実態についてのイメージを、その置かれている社会・経済的状況及び歴史的背景を学ぶことで理解を深める。また、わが国の急速な高齢化に伴う高齢者問題の発生及び福祉ニーズの高まりを捉えるとともに、高齢者福祉とその関連施策について、介護保険制度に焦点をおいて、法制度及び実践の現状を理解する。		
達成目標	高齢者の特性や生活実態について理解する。 高齢者の福祉ニーズについて理解する。 介護保険制度を中心とした法制度及び福祉サービスについて理解する。 【履修カルテ評価項目】 ①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。 ②要介護高齢者を支える介護サービスについてどの程度理解できたか。 ③高齢者福祉施設の種類と役割についてどの程度理解できたか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、課題30%
教科書	社会福祉士養成講座 13 『高齢者に対する支援と介護保険制度』、適宜、プリントを配布します。		
参考書	授業の中で随時紹介します		
学生への要望	日頃から、高齢者に連する新聞記事等に関心を持ってください。		
オフィスタイム	火曜日の1時限目 ・金曜日の3時限目 創学館4階 No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	・高齢者の特性 高齢者の社会的理解 高齢者の身体的理解 高齢者の精神的理解	・高齢者の特性について調べる 30
2	少子高齢社会と高齢者	・少子高齢社会と社会的問題 少子高齢社会と社会的問題 高齢者を取り巻く状況と諸問題 —健康、介護、経済等—	・高齢者を取り巻く状況についてテキストで予習する 30
3	高齢者の雇用	・就労の動向と就労支援制度の概要 ・高齢者等の雇用の安定等に関する法律	・高齢者等の雇用の安定等に関する法律について調べる 30
4	高齢者保健福祉の発展 (1)	・高齢者保健福祉が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ 第2次世界大戦までの高齢者福祉 高齢者福祉の基盤整備期—老人福祉法の制定— 高齢者福祉の発展期—施設福祉から在宅福祉へ— 福祉見直し論と社会福祉改革、	・高齢者福祉の歴史をまとめる 60
5	高齢者保健福祉の発展 (2)	・高齢者福祉の理念が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ ゴールドプランと介護保険制度の創設 今後の高齢者福祉—福祉サービスの質の向上と利用者の権利擁護—	・高齢者福祉の歴史をまとめる 60
6	高齢者支援の関係法規	・老人福祉法 ・高齢者の医療の確保に関する法律 ・高齢者虐待防止法 ・その他の関係法規 バリアフリー新法、高齢者の居住の安定確保に関する法律、権利擁護と成年後見制度	・各法律の目的を調べる 90
7	介護保険制度の基本的枠組み	・介護保険制度の全体像 ・介護保険制度の目的と理念 ・保険財政 ・保険者と被保険者	・介護保険制度の目的、理念、保険者・被保険者について調べる 90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	介護保険制度の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定の仕組みとプロセス ・保険給付 ・介護報酬 ・地域支援事業 ・介護保険事業計画 ・サービスの質の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の仕組みを調べる 	60
9	介護保険サービスの体系	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービスにおける専門職の役割と実際 ・居宅サービス ・施設サービス ・介護予防サービス ・地域密着型サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスについて調べる 	70
10	高齢者を支援する組織と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター ・社会福祉協議会 ・ボランティア団体、NPO 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの組織の役割を調べておく 	60
11	高齢者支援の方法と実際	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援の方法 個人・家族・グループ・地域・ケアマネジメント ・テキストの事例により、高齢者や家族への支援の実際を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例により、高齢者支援の方法をまとめる 	60
12	高齢者を支援する専門職の役割と実際	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職の役割と実際 ・多職種連携 ・専門職の倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携のあり方について事例を調べる 	50
13	認知症施策	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の認知症施策について概観する。 ・地域で行われている取り組みについて調べ、発表する。 ・認知症ケアの1つであるユマニチュードのDVDの視聴 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われている認知症施策を調べまとめる 	60
14	高齢者福祉の課題と福祉専門職の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の展望についてグループワークを行い、福祉専門職の関わり方について各自の考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉の分野における社会福祉士、介護福祉士の役割についてまとめる 	60
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめと補足説明を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のポイントを整理する 	60

平成31年度

科目名	児童福祉論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	近内 直美		
開講期	後期		
授業概要	子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境の変化と、子ども家庭福祉の具体的なニーズについて理解し、子ども家庭福祉の理念、実施体制、サービスの現状と課題について学び、実践に役立てることを目標とする。		
達成目標	①近年の日本における子どもと家庭の諸問題等について、どの程度理解できたか。 ②子ども家庭福祉に関する法律や制度等について、どの程度理解できたか。 ③国内外の子ども家庭福祉の歴史について、どの程度理解できたか。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	定期試験50%、課題50%。
教科書	新・社会福祉士養成講座15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日Ⅲ時限・Ⅳ時限（12：50～16：00） 創学館4F、No. 6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。	0
2	現代社会と子ども家庭	近年の社会状況と、子ども・家庭の諸問題やニーズについて理解する。	0
3	子ども家庭福祉とは何か1	子ども家庭福祉の定義や内容について理解する。	0
4	子ども家庭福祉とは何か2	子どもと家庭の権利保障と歴史について学ぶ。	0
5	子ども家庭福祉にかかわる法制度1	子ども家庭福祉の計画的進展と支援制度について学ぶ。	0
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度2	子ども家庭福祉の法体系と実施体制について理解する。	0
7	子ども家庭福祉にかかわる法制度3	子ども家庭福祉にかかわる専門職について理解する。	0
8	子ども家庭にかかわる福祉・保健1	子どもの貧困防止、母子保健、障害のある子どもとその家庭への支援について理解する。	0
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健2	児童の健全育成や保育制度について理解する。	0
10	子ども家庭にかかわる福祉・保健3	近年の子育て支援施策の動向やひとり親世帯への支援について理解する。	0
11	子ども家庭にかかわる福祉・保健4	社会的養護や非行児童・情緒障害児への支援について理解する。	0
12	子ども家庭にかかわる福祉・保健5	児童虐待への対応や女性の福祉について理解する。	0
13	子ども家庭への援助活動1	相談援助活動の必要性やその方法について学ぶ。	0
14	子ども家庭への援助活動2	施設ケアや地域援助活動、ネットワークについて学ぶ。	0
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。	0

科目名	障害者福祉論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	岡本 宏二		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。 〔授業全体の内容の概要〕 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。</p>		
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。 〔授業全体の内容の概要〕 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。</p>		
受講資格	人間生活学科福祉コース 3年生	成績評価 方法	出席状況・学習態度（50）、定期試験等（50）総合的に評価する
教科書	特に指定しない		
参考書	障害者福祉論（ミネルヴァ書房）		
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、予習復習をすること		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション・障害とは	法律にみる障害の定義、ICFによる障害のとらえ方、しょうがいの表記の仕方などを通して、障害とはどういうことか考える。	0
2	障害者福祉の基本的視点	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなど障害者福祉の新しい視点について学習する。	0
3	障害者福祉のあゆみ	戦前から戦後にかけての障害者福祉、高度経済成長期以後の発展過程、障害者福祉の転換と国際的動向について学ぶ。	0
4	障害者福祉に関する制度や法律	障害者基本法・その改正の動向、身体者障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者健康福祉法等を学習する。	0
5	障害者の生活実態とニーズ	障害者の生活とニーズを理解し、暮らしや就労等の実情把握から現実の支援へとどうつなげていくかを学習する。	0
6	障害者総合支援法の概要	総合支援法の成立の背景や目的・理念について学び、給付や事業の全体像、サービスの実際やこれからの方向について学ぶ。	0
7	障害福祉サービスの利用プロセス	福祉サービス支給決定の流れ、介護給付や訓練等給付、利用者負担、障害支援区分、利用計画や支援者の連携等利用プロセスについて学習する。	0
8	相談支援	総合支援法における相談支援の概要や相談支援専門員の役割、相談支援と協議会の関係など、相談支援にかかわる実際について学習する。	0
9	就労支援	就労支援施策の全体像と雇用の促進について、障害者雇用促進法の概要や関係機関の役割を学び、障害者雇用推進の現状について学習する。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	成年後見制度と 権利擁護	障害者虐待防止法、障害者の権利条約、差別解消法や成年後見制度、日常生活支援事業制度、苦情解決制度等の権利擁護に関する諸制度を学習する。	0
11	障害者プランにおける専門職の役割	市町村計画、当事者参加、民間活動等を学び、ケアマネジメントの手法や障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。	0
12	障害者の文化スポーツ	障害者の社会参加、生活環境の改善及び文化やスポーツ、福祉レクリエーション活動などの地域交流について学習する。	0
13	障害者支援のニーズと対応	身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害等様々な障害について理解し、それぞれの特別な支援ニーズと対応について学ぶ。	0
14	事例研究	個別事例を通して、障害者支援の実際について学ぶ。	0
15	まとめ	障害者福祉の課題とこれからの方向について総合的に学ぶ。	0

科目名	社会福祉援助技術論 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	熊田 伸子		
開講期	後期		
授業概要	<p>1. 相談援助の理念、概念と範囲について理解する。 2. 社会福祉援助技術の必要性を知る。 3. 社会福祉援助技術の体系と主な援助技術の方法及び内容を理解する</p> <p>本科目の担当教員は熊田伸子と近内直美で、下記の通りの分担となる 第1回～第8回 近内直美 第9回～第15回 熊田伸子</p> <p>近内が地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割、援助技術の必要性について授業を行う 実務経歴：社会福祉士として、地域包括支援センター、総合病院に勤務</p>		
達成目標	<p>援助技術の体系及び具体的な方法が理解できている。 【履修カルテの評価項目】 ①ソーシャルワーク専門職として、社会福祉士が果たすべき役割としての援助技術の必要性とあり方を理解できたか。 ②社会福祉相談援助の理念、概念、範囲を理解できたか。 ③社会福祉援助技術の体系と主な援助技術の方法及び内容を理解できたか。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース 1年	成績評価 方法	定期試験80%、課題20%
教科書	新・社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	ソーシャルワークの機能を理解し、実践できるようにしよう。		
オフィスタイム	熊田 月曜日 I 時限、金曜日 I 時限 創学館4F、No.6研究室 近内 月曜日 I・II 時限 創学館4F、No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	社会福祉士の役割と意義	◎社会福祉士の役割と意義 ◎現代社会と地域生活 ◎対人援助でのコミュニケーションの重要性	・社会福祉士の役割について理解する 30
2	社会福祉援助活動の理念	◎相談援助の定義と構成要素 ◎人権尊重、権利擁護、自立支援	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる 30
3	専門職の概念と範囲	◎相談援助の形成過程 I ◎専門職の構造と要素、倫理・哲学、専門知識、専門技術を知る	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる 30
4	援助技術の体系と対象	◎相談援助の形成過程 II ◎体系と対象、直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術	・テキストで授業内容を確認する ・課題を行う（相談援助の体系と対象） 90
5	共通課題 専門職と援助技術の関係 相談援助の理念 I	◎相談援助の理念 ◎福祉専門職と援助技術の関係	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる 30
6	専門援助技術の体系及び内容 相談援助の理念	◎相談援助の理念 II ◎個別援助技術（ケースワーク）の理解を知る	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる 30
7	集団援助技術（グループワーク）の理解 専門職倫理と倫理的ジレンマ	◎1. 専門職倫理の概念 2. 倫理綱領の意義と内容 3. 実践における倫理的ジレンマ ◎集団援助技術（グループワーク）の理解をする	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる 30
8	地域援助技術（コミュニティワーク）の理解 総合的、包括的相談援助の全体像	◎1. 総合的、包括的な相談援助の動向とその背景 2. 地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座、パラダイムシフト 3. 地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、基本的視座 ◎総合的、包括的相談援助を支える理論 1. ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点 2. ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 ◎地域援助技術（コミュニティワーク）の理解をする	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる 30
9	ケアマネジメント技術の基本的理解	◎1. 相談援助専門職の概念 2. 相談援助専門職の範囲	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
10	社会福祉援助活動の展開過程、実践的理解と技術を知る	◎総合的、包括的相談援助における専門職機能の展開 ◎社会福祉援助活動の展開過程、実践的理解と技術	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	30
11	居宅介護支援の理解、居宅サービス計画	◎社会福祉士の行う居宅介護支援の展開過程 実践的理解と技術	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	30
12	チームワーク他	◎関連職種との連携、チームワーク ◎情報の共有と個人情報 ◎ボランティアの活用と育成、ボランティアコーディネーションを学ぶ	・社会福祉士が連携する専門職を調べる	40
13	チームワーク他	◎関連職種との連携、チームワーク ◎情報の共有と個人情報 ◎ボランティアの活用と育成、ボランティアコーディネーションを学ぶ	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	30
14	社会福祉士のための相談援助	◎地域包括支援センターについて学ぶ	・地域包括支援センターの役割を調べる	40
15	施設福祉サービス計画まとめ	◎施設福祉サービス計画を学ぶ 施設利用者のための個別支援計画の作成とその運用を学ぶ ◎まとめ	・授業のポイントをまとめる	40

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	島野 光正		
開講期	前期		
授業概要	<p>1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。</p> <p>実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。</p>		
達成目標	<p>1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。</p>		
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅰの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況(20%)及びレポート(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提にすすめます。		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	・オリエンテーション ・相談援助とは	<p>・講義の概要と到達目標について ・講義の進め方について ・予習復習について</p> <p>◎社会福祉士と社会福祉援助技術 1. ソーシャルワーカーの具体的な事例 2. 仕事からとらえたソーシャルワーカーの定義と枠組み 3. ソーシャルワークを構成する要素 4. ソーシャルワークの職場 5. ソーシャルワーカーが所属する組織</p>	<p>テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。</p> <p>60</p>
2	・社会福祉における援助活動の意義 ・相談援助の構造と機能	<p>◎社会福祉援助技術の意義 1. ソーシャルワークの構造 2. ソーシャルワークにおけるニーズ 3. ソーシャルワークの機能</p>	<p>テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。</p> <p>60</p>
3	・社会福祉士における援助活動の意義 ・人と環境の相互作用	<p>◎社会福祉士における援助活動の意義 1. 人と環境 2. 環境の意味 3. 人と環境の全体性 4. システムの作動とサイバネティクス 5. システム理論によるひとつのソーシャルワーク論</p>	<p>テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。</p> <p>60</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
4	・社会福祉専門職と社会福祉援助技術 ・相談援助における援助関係	◎ソーシャルワーカーとは ◎専門援助活動、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の定義 1. 援助関係の意義 2. 援助関係の形成プロセスに影響する要因 3. 援助構造と援助関係 4. 援助関係の質と自己覚知 5. 援助関係とマイクロからマクロ実践領域	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	・専門援助技術と倫理 ・相談援助の展開過程Ⅰ	◎倫理的ジレンマ、専門性の構造と三つの要素、倫理・哲学、専門知識、専門技術とエンバウメント 1. 相談援助の展開過程の流れ 2. ケース発見 3. 受理面接（インテーク） 4. 問題把握からニーズ確定まで 5. ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで 6. 事前評価から支援目標・目標設定まで 7. 支援目標から支援の計画（プランニング）まで 8. 支援の計画（プランニング）から支援の実施まで	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	・専門的援助関係とコミュニケーション ・相談援助の展開過程Ⅱ	◎援助関係、コミュニケーション、共感、信頼関係 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメントと支援の強化 3. 支援の終結と効果測定、評価、アフターケア 4. 予防的対応とサービス開発	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	・ソーシャルワーカーの専門性 ・相談援助のためのアウトリーチ技術	◎倫理綱領、自己覚知と他者理解 1. アウトリーチの意義と目的 2. アウトリーチの方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	・専門援助技術をめぐるわが国及び諸外国の動向 ・相談援助のための契約の技術	◎社会福祉援助技術の理解と動向、諸外国の動向、日本の動向、歴史 1. 契約の意義と目的 2. 契約の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	・社会福祉援助活動の共通課題 ・相談援助のためのアセスメント技術	◎契約、面談、記録、評価など 1. ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助関係、面接 2. アセスメントで得るべき情報 3. アセスメント面接で得た情報の使い方	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	・社会福祉援助技術の体系と内容 ・相談援助のための介入の技術	◎援助概念、体系、総合化 1. 介入の意義と目的 2. 介入の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	・社会福祉援助技術の構成 ・相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術	◎直接援助技術（個別援助技術、集団援助技術） 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメント 3. 効果測定 4. 評価とサービス開発	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	・間接援助技術 ・相談援助のための面接の技術	◎地域援助技術、社会調査法、運営管理、社会福祉活動法、社会福祉計画法 1. 相談援助における面接の目的 2. 相談援助における面接の展開 3. 面接において用いられる技術とコミュニケーション 4. 面接援助における面接の形態	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	・その他の関連技術 ・相談援助のための記録の技術	◎ネットワーク、ケアマネジメント、カウンセリング、コンサルテーション ◎介護保険法における居宅サービス計画と施設サービス計画 1. 記録の意義とその活用目的 2. 記録の種類と活用 3. 記録の活用目的と種類との関係 4. 記録の方法とIT化（倫理的配慮について） 5. 記録の技術の実際例と今後の課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	・専門職種の多職種連携（チームアプローチ） ・相談援助のための交渉の技術	◎意義と内容、統合化とチームによる対応、社会福祉援助技術の展開過程 1. 交渉の意義と目的 2. 交渉の方法 3. プレゼンテーションの技術	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	・記録と計画	◎記録と計画 まとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	島野 光正		
開講期	後期		
授業概要	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。 また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。</p> <p>実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。</p>		
達成目標	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。 また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。</p>		
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅱの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況(20%)および定期試験(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提に進めます。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション、人と環境の相互作用、相談援助における対象の理解	◎講義の概要の説明 ◎社会福祉援助技術の適用領域と対象分野 1. 社会福祉援助活動の概念と定義 2. 相談援助の対象を動とらえるか。	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	相談援助の対象、ケアマネジメント	◎過程、援助関係、面接技術、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発を理解する 1. ケアマネジメントの基本 2. ケアマネジメントの過程 3. ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴 4. ケアプランの作成・実施の特徴 5. ケアマネジメントの特徴 6. ケアマネジメントとソーシャルワークの関係	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	分野別社会福祉援助技術、グループを活用した相談援助	◎分野別社会福祉援助技術、対象別社会福祉援助技術 1. グループを活用した相談援助 2. 自助グループを活用した相談援助	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
4	個別援助技術の展開過程、コーディネーションとネットワークワーキング	◎インテーク、アセスメントとプランニング、援助の展開期（援助実施、モニタリング）、援助の終結期を具体的に学習する。 1. コーディネーションの目的と意義 2. コーディネーションの方法、留意点 3. ネットワーキングの意義と目的 4. ネットワーキングの方法 5. 地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
5	集団を活用した集団援助技術の展開過程、相談援助における社会資源の活用・調整・開発	◎援助の準備期（グループの計画、形成計画、波長合わせ、援助チームとの合意、他） 援助の開始期（グループの特徴、援助者の役割、援助者の援助技術）援助の作業期（評価） 援助の終結期（終結の評価、終結期の計画の確認、記録まとめ） 1. 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
6	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ I	◎展開過程を学ぶ 1. 実践モデルとその意味 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
7	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉調査法の理論と技術を学ぶ 1. 心理社会的アプローチ 2. 機能的アプローチ 3. 問題解決アプローチ 4. 課題中心アプローチ 5. 危機介入アプローチ 6. 行動変容アプローチ	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
8	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉計画法の理論と技術を学ぶ 1. エンパワメントアプローチ 2. ナラティブアプローチ 3. その他の実践アプローチ 4. 実践アプローチをめぐる課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
9	社会福祉の運営管理、スーパービジョンとコンサルテーションの技術	◎社会福祉の運営管理を学ぶ 1. スーパービジョンの意義と目的 2. スーパービジョンの方法と留意点 3. コンサルテーション	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
10	社会活動の倫理と技術、ケースカンファレンスの技術	◎社会活動の倫理と技術、ネットワーク（多職種、他機関との連携を含む） 1. ケースカンファレンスの意義と目的 2. ケースカンファレンスの運営と展開過程 3. ケースカンファレンスの実際 4. ケースカンファレンスの評価と普遍化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
11	ケアマネジメントとによる直接援助、相談援助における個人情報の保護	◎ケアマネジメントの目的と概念、構成要素、展開過程を学ぶ 1. 相談援助と個人情報保護 2. 個人情報とは 3. 個人情報保護の考え方 4. 個人情報保護制度の展開 5. 個人情報保護の制度 6. 相談援助における個人情報保護の課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
12	介護保険法下でのケアマネジメント、相談援助における情報通信技術（ICT）の活用	◎介護保険法下でのケアマネジメント、ケアマネジャー養成と四角などを学ぶ 1. 情報通信技術（ICT）と福祉情報 2. 相談援助における情報通信技術の活用 3. 事例分析の目的と意義 4. 事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。
13	記録とスーパービジョン、事例研究・事例分析	◎記録とスーパービジョン、個人情報の保護と留意点を学ぶ 1. 事例研究の方法 2. 事例研究の方法と留意点 3. 事例分析の目的と意義 4. 事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	効果測定と評価	◎効果測定と評価を学ぶ ◎事例1～5を学ぶ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	まとめ	◎授業のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

科目名	社会福祉援助技術論Ⅳ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子, 近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉援助技術Ⅰ～Ⅲで学んだ基礎的な援助技術論と援助技術演習、現場実習を結びつけることを目的とする 第1回～第8回 熊田伸子 第9回～第15回 近内直美 ・相談業務の実務経験のある近内が、現場実習で実践できるソーシャルワーク技術を教授する 実務経験：地域包括支援センター及び総合病院での相談業務 			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助に関する知識と技術について理解し、現場実習で実践できる。 			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	定期試験80点 、演習参加状況20%	
教科書	新・社会福祉士養成講座B 「相談援助の理論と方法Ⅱ」（中央法規）			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・ソーシャルワークの機能を理解し、実践できるようにしてください。			
オフィスタイト	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No. 6研究室 近内 月曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No. 6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	相談援助における利用者の理解	・ソーシャルワークの概念と定義を理解する	・授業内容を復習する	30
2	相談援助における利用者の理解	・相談援助の対象である個人、家族、集団、地域の捉え方を学ぶ	・配布資料についてまとめる	30
3	ケアマネジメント①	・ケアマネジメントとは何か、展開過程について理解する	・ケアマネジメントの展開過程をテキストを参考に整理しておく	30
4	ケアマネジメント②	・ケアマネジメントにおけるアセスメント方法を身につける	・アセスメントの方法を整理する	30
5	ケアマネジメント③	・ケアプランの作成・実施	・ケアプランの作成方法を確認する	30
6	ケアマネジメント④	・ケアマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する	・ケアマネジメントとソーシャルワークの関係についてまとめておく	40
7	グループワーク①	・グループワークとは何か、意義、援助展開について理解する	・グループワークの意義と方法についてまとめておく	40
8	グループワーク②	・自助グループワークの例を中心に相談援助の在り方を理解する	・自助グループワークについて調べまとめる	40
9	コーディネーションとネットワーク①	・チームアプローチとしての連携の重要性と必要性を理解する ・コーディネーションの目的、意義、方法、技術を理解する	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
10	コーディネーションとネットワーク②	・コーディネーションの方法と技術を理解し、さらにコーディネーションにおける留意点を知り、実際のコーディネート業務に応用できるようにする	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
11	コーディネーションとネットワーク③	・ネットワークの意義、目的、方法を身につけることができる ・コーディネーションが有効に機能するための連携や協働の基盤となる結びつきが理解できる	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
12	コーディネーションとネットワーク④	・ネットワークを行うにはどのようにしたらよいのか、実際のケースカンファレンスや多職種連携の場面を想定し、理解を深める	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
13	コーディネーションとネットワーク⑤	・地域包括ケアシステムや、地域トータルサポートシステム等の構築、地域福祉を推進していくための総合的なネットワークの形成とシステム化について理解することができる	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
14	相談援助における社会資源の活用・調整・開発①	・利用者のもつ福祉課題やニーズを解決するための社会資源の活用、調整、開発の意義や目的、方法について理解することができる	・テキストで授業内容を確認する。 ・課題（ソーシャルアクションとアドボカシーについて）	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	相談援助における社会資源の活用・調整・開発②	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の活用、調整、開発の意義や目的の理解をし、その方法についてさらに理解を深める。地域資源の開発と利用者の生活を充実していく社会開発・ソーシャルアクションの方法について理解をすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する <p align="right">30</p>

科目名	医学一般	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	大西 弘太郎		
開講期	前期		
授業概要	高齢者の健康管理に必要な医学知識を概説する。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経歴：医師として医療機関に勤務している。		
達成目標	高齢者の健康にかんする基礎的知識が習得されているか。		
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	小テスト (20%) レポート (80%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版株式会社		
参考書	なし		
学生への要望	双方向の授業を期待します。 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 水曜日 08:30~12:00、15:00~17:00。 木曜日 08:30~12:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	健康寿命と平均寿命	主な死因と人口動態	寿命・死因・人口動態などについて予習・復習をしましょう。 120
2	高齢者の健康管理	高齢者の健康と死因	高齢者の疾患・死因などについて予習・復習をしましょう。 120
3	高齢者の感染症	日和見感染症 院内感染症	日和見感染症・院内感染症などについて復習をしましょう。 120
4	認知症の諸問題	認知症とは 認知症の疫学 生理的健忘と認知症の健忘の異同 認知症の中核症状とBPSD(行動・心理症状) アルツハイマー病の概要 脳血管性認知症の概要 認知症の経過と予後	認知症について予習・復習をしましょう。 120
5	認知症とライフスタイル	認知症のリスクファクター 認知症とライフスタイル 認知症の予防	認知症について予習・復習をしましょう。 120
6	脳血管疾患 その1	脳卒中の疫学 脳卒中の分類 脳卒中のリスクファクター	脳血管障害について予習・復習をしましょう。 120
7	脳血管疾患 その2	脳梗塞の症状と治療 脳出血の症状と治療	脳血管障害について予習・復習をしましょう。 120
8	呼吸器 その1	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)について予習・復習をしましょう。 120
9	呼吸器 その2	肺結核	結核について予習・復習をしましょう。 120
10	呼吸器 その3	高齢者と肺炎 嚥下性肺炎 予防とワクチン	肺炎について予習・復習をしましょう。 120
11	運動器 その1	ロコモティブシンドロームとは 疫学 治療と予防	ロコモティブシンドロームについて予習・復習をしましょう。 120
12	運動器 その2	高齢者と骨代謝	骨代謝、骨粗鬆症などについて予習・復習をしましょう。 120
13	運動器 その3	高齢者と骨折 高齢者と易転倒性	骨折・転倒などについて予習・復習をしましょう。 120
14	褥瘡	褥瘡とは 褥瘡はなぜ危険か 褥瘡の予防と治療	褥瘡について予習・復習をしましょう。 120
15	まとめ	要介護のリスク要因 健康寿命とライフスタイル	(主として高齢者の)健康管理について予習・復習をしましょう。 120

平成31年度

科目名	地域福祉論 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	菊地 達美		
開講期	前期		
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
受講資格	人間生活学科福祉コース 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点
教科書	「地域福祉の理論と方法」		
参考書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法 中央法規		
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	講義	地域福祉の発展過程	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	講義	福祉サービスシステムとしての地域福祉	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	講義	地域福祉の概念と体系化	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	講義	地域自立支援と福祉圏域	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	講義	地域コミュニティと社協・自治体の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	講義	地域福祉推進と福祉教育	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	講義	福祉教育の内容及目標	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	講義	地方分権と地域福祉計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	講義	社会福祉協議会と社会福祉法人の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	講義	市民活動とコミュニティビジネス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	講義	コミュニティソーシャルワーク概念とシステム	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	講義	チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	講義	専門職の役割と地域住民の関係	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	講義	地域福祉推進と住民参加	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	講義	市町村自治体と住民参加	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

平成31年度

科目名	地域福祉論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	菊地 達美		
開講期	後期		
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
受講資格	人間生活学科 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点
教科書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法 中央法規		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	講義	ソーシャルサポートネットワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	講義	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	講義	社会資源の活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	講義	福祉サービスの開発	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	講義	まち作りとソーシャルアクション	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	講義	地域生活における福祉ニーズ	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	講義	福祉ニーズの把握	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	演習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	演習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	講義	福祉サービスの評価と背景	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	講義	福祉サービス評価の方法	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	講義	プログラム評価と展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	講義	イギリスの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	講義	アメリカの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	講義	地域福祉論のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

平成31年度

科目名	福祉行財政と福祉計画		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美			
開講期	後期			
授業概要	国や地方自治体における行財政や各種福祉計画の体系及び策定手順を理解し、財政の仕組みと福祉計画の視点を学ぶ。 地域包括支援センターでの勤務経験を活かして、福祉計画が住民の生活にどのように結び付いているのか理解が進むように授業を進める。 実務経験：所長兼社会福祉士、主任介護支援専門員などの職種として地域包括支援センターに勤務			
達成目標	①社会福祉の専門職としてふさわしい福祉行財政および福祉計画の基本的知識を習得できる。 ②福祉行財政および福祉計画を理解し、住民や関係機関の参画による計画策定から評価など運営などの技法について理解する。			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	定期試験50%、課題50%。	
教科書	新・社会福祉士養成講座10 「福祉行財政と福祉計画」中央法規			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	・専門用語など難解な単語を事前に学習し、授業内容の理解に努めてほしい。 ・主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	月曜日Ⅱ時限・Ⅲ時限（10：30～12：00、12：50～14：20） 創学館4F、No. 6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	福祉行財政と福祉計画1	オリエンテーション 福祉行財政の概要 2回目以降、学生自身の考えや発想を発表し、ディスカッションやグループワークを取り入れた双方向型の授業を行う。	45
2	福祉行財政と福祉計画2	社会福祉の法制度の展開について	45
3	福祉行財政と福祉計画3	福祉計画の概要	45
4	福祉行政1	行政の骨格、法制度	45
5	福祉行政2	国及び地方自治体の役割と組織	45
6	福祉行政3	社会福祉基礎構造	45
7	福祉財政	財政と社会保障費	90
8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	地域の相談システムとその機関及び専門職の役割	45
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画の概要目的、福祉現場での援助との連動性	90
10	福祉計画の理論と技法1	福祉計画策定の視点と策定方法	45
11	福祉計画の理論と技法2	福祉計画における住民参加とニーズの把握についてグループワークを行う	45
12	福祉計画の実際1	福祉計画の実際（高齢者分野）についてグループワークを行う	45
13	福祉計画の実際2	福祉計画の実際（障がい者分野）についてグループワークを行う	45
14	福祉計画の実際3	福祉計画の実際（児童分野）についてグループワークを行う	45
15	福祉計画の実際4	福祉計画の実際（地域福祉分野）についてグループワークを行う	45

科目名	福祉サービスの組織と経営		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	社会福祉施設を運営していくうえで必要な制度や管理運営について学び、地域の中で活動を展開するために必要なを学ぶ。 社会福祉法人での勤務経験を活かし、福祉理念に基づく「福祉経営及び運営」の在り方を考える授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人に事業部長として勤務			
達成目標	①福祉サービスに係る組織や団体について知る。 ②福祉サービスの組織や団体における経営に関して知る。 ③福祉サービスの管理・運営について知る。			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	定期試験50%、課題50%	
教科書	新・社会福祉士要講講座1 「福祉サービスの組織と経営」 (中央法規)			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	社会福祉施設や団体の概要とその運営について必要な理念や理論を理解してください。 また、人事管理、運営管理を行う上で、参考となるアプローチについて学んでください。			
オフィスタイム	月曜日Ⅱ・Ⅲ時限(10:30~12:00、12:50~14:20) 創学館4F、NO. 6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	福祉サービスの組織と経営について理解する。授業の進め方について 不明な単語などの自主学習を行った発表や福祉・医療に関する組織の運営や経営について意見交換を行うなど、双方向型の授業を2回目以降も行う。	・授業の内容を復習する	30
2	福祉サービスにおける経営	福祉サービスにおける組織と経営について理解する	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	60
3	福祉サービスにかかわる組織や団体とは(1)	法人とは何かを知り、その特徴を理解する(「社会福祉法人」について)	・不明な単語の意味を調べる ・課題を行う(社会福祉法人について)	90
4	福祉サービスにかかわる組織や団体とは(2)	法人とは何かを知り、その特徴を理解する(「特定非営利活動法人」および「その他の組織や団体」について)	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(1)	福祉サービスの組織や団体における経営について理解する	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(2)	福祉サービスの組織や団体における事業計画について理解する	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(3)	福祉サービスの組織や団体における管理運営とリーダーシップについて理解する	・テキストにて予習する ・課題を行う(リーダーシップ論について)	90
8	福祉サービスにおけるマネジメント(1)	福祉サービスにおけるサービス管理と質について	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
9	福祉サービスにおけるマネジメント(2)	リスク管理と福祉サービス提供上の課題	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
10	福祉サービスの管理運営(1)	人事管理について	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
11	福祉サービスの管理運営(2)	労務管理について	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
12	福祉サービスの管理運営(3)	会計管理と財務管理①	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
13	福祉サービスの管理運営(4)	会計管理と財務管理② 社会福祉法人及び各種団体の特徴について発表を行う	・テキストにて予習する ・課題を行う(社会福祉法人の財務諸表について)	60
14	福祉サービスの管理運営(5)	情報管理と戦略的広報	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
15	まとめ	福祉サービスの組織や団体の特徴を各組織ごとに全体のまとめを行う	・復習を行い、不足している部分をまとめる	60

科目名	公的扶助論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	後期		
授業概要	公的扶助は、現代社会が生み出す貧困・低所得者問題に対応する制度的な取り組みを指し、社会保障・社会福祉制度の最後のセーフティネットと位置付けられている。そこで、公的扶助の概念や意義と、生活保護制度や低所得者対策のしくみとその動向を学ぶとともに、貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を事例を通じて理解し、実践活動に役立てられるようにする。		
達成目標	①公的扶助の概念や意義は理解できたか。 ②生活保護制度や低所得者対策のしくみ、その動向を理解できたか。 ③貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を理解できたか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、課題30%。
教科書	新・社会福祉士養成講座16 「低所得者に対する支援と生活保護制度」中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	生活保護を取り巻く社会の状況に関心を持ってください。 予習・復習を心掛けて下さい。		
オフィスタイム	月曜日・水曜日 I 時限 創学館4F、No. 6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業の概略の説明。	・テキストで低所得者支援の概略を確認する	40
2	貧困・低所得者層の生活実態	貧困・低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実態について理解する。	・低所得者層の生活実態を調べる	30
3	社会保障制度と公的扶助	社会保障制度の仕組みと公的扶助の位置づけについて学ぶ	・社会保障制度（社会保険・公的扶助等）について調べる	60
4	生活保護制度の実施体制	生活保護制度における組織及び団体の役割と実際について学ぶ	・テキストで予習しておく	60
5	生活保護制度の仕組み1	生活保護制度の4つの原理	・生活保護制度の4つの原理を調べておく	60
6	生活保護制度の仕組み2	生活保護制度の4つの原則	・生活保護制度の4つの原則を調べておく	60
7	生活保護の動向1	保護率、被保護人員及び被保護世帯数の動向について学ぶ。	・生活保護制度を利用している被保護世帯の動向について調べる	60
8	生活保護の動向2	保護の開始、廃止の動向や財源について学ぶ。	・生活保護の開始、廃止の理由について調べておく	60
9	低所得者対策の概要	生活困窮者自立支援法と生活福祉資金貸付制度について理解する。	・低所得者施策について調べる	40
10	ホームレス対策	ホームレスの生活実態と相談援助活動の実際	・ホームレスの実態について調べる	50
11	低所得者への就労支援サービス	低所得者の就労の動向と就労支援サービスの内容	・低所得者の就労の動向について調べる	50
12	貧困・低所得者に対する相談援助	生活保護制度における相談援助活動、低所得者対策における相談援助活動	・テキストの事例により、低所得者に対する相談援助のあり方を予習する	50
13	生活保護における自立支援1	自立支援プログラムの目的、作成過程と方法、実際について理解する。	・テキストにより予習しておく	40
14	生活保護における自立支援2	自立支援プログラムの策定と実際について学ぶ。	・テキストにより予習しておく	40
15	低所得者への住宅政策	公営住宅について学習する。	・公営住宅について調べる	30
	まとめ	授業内容のまとめと整理を行う		

科目名	保健医療サービス	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美		
開講期	前期		
授業概要	保健医療サービスの基本的な構造を学びソーシャルワーカーの役割を医療との関係性を理解し、利用者支援について習得する。事例を用いて、支援の理解を深める。		
達成目標	①保健医療サービスにおける法制度、他機関や他職種の機能や役割を学ぶ。 ②地域連携やネットワーク意識をしながら医療ソーシャルワーカーの役割と機能を活用する。		
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	定期試験50%、課題50%
教科書	新・社会福祉士養成講座17 「保健医療サービス」 (中央法規)		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	制度の仕組みを習得し、専門用語の理解に努めてください。		
オフィスタイトム	月曜日Ⅱ・Ⅲ時限(10:30~12:00、12:50~14:20) 創学館4F研究室No.6		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容の説明	授業内容	
1	オリエンテーション	授業概要の説明 医療に関する制度や不明な言葉について発表やグループワークなど双方向型授業を2回目以降も行っていく。	・保健医療サービスの意味を把握する	15
2	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割	・保健医療サービスの構成要素 ・保健医療サービスの変遷と課題	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
3	保健医療サービスを提供する施設とシステム(1)	・医療法 ・医療施設の機能と形態	・不明な単語の意味を調べる ・課題を行う(医療施設の機能・類型)	90
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム(2)	・地域包括ケアシステムと在宅医療 ・診療報酬について	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
5	医療ソーシャルワーカーの役割	・医療ソーシャルワーカーの歴史と業務内容	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
6	医療ソーシャルワーカーの相談・援助方法	・医療ソーシャルワーカーの業務内容	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
7	保健医療サービスの専門職の役割	・保健医療サービスの専門職の概観と機能	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
8	医療保険制度の概要(1)	・入院保険制度の種類と保険給付	・不明な単語の意味を調べる ・課題を行う(高額医療費などの医療給付について)	90
9	医療保険制度の概要(2)	・診療報酬制度の概要	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
10	医療保険制度の概要(3)	・医療施設の類型、機能とその概要等を整理して、発表する	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
11	介護保険制度の概要	・介護保険制度について ・介護報酬について	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
12	公費負担医療制度の概要	・公費負担医療制度について ・自立支援医療について	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
13	保健医療サービスにおける専門職の連携	・連携の方法と意義 ・連携の実際	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
14	保健医療サービスにおける地域との連携	・地域における社会資源の活用 ・地域連携の実際	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
15	まとめ	・保健医療サービスにおける制度や医療ソーシャルワーカーの役割を振り返る	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45

科目名	権利擁護と成年後見制度	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	鈴木 康元		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する [授業全体の内容の概要] 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。		
達成目標	[授業の目的・ねらい] 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する [授業全体の内容の概要] 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう [授業終了時の達成課題（到達目標）] 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解		
受講資格	人間生活学科福祉コース3年	成績評価 方法	ペーパーテスト(80%)と出席状況(20%)
教科書	その都度指定する 配付資料		
参考書	その都度指定する 配付資料		
学生への要望	積極的に授業に臨むこと		
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	1 高齢者・障害者の人権と権利擁護	高齢者・障害者の人権と権利擁護	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 30
2	2 意思能力とは何か（民法の理解を含む）	意思能力とは何か（民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	3 相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	4 相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	5 成年後見制度とは何か（基本理解）	成年後見制度とは何か（基本理解）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	6 成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	7 日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	8 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	9 権利擁護活動の実際	権利擁護活動の実際	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	10 刑事司法、少年法の基本理解	刑事司法、少年法の基本理解	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	11 更生保護制度の概要（その必要性）	更生保護制度の概要（その必要性）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	12 更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	13 更生保護制度における関連機関・団体との連携	更生保護制度における関連機関・団体との連携	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	14 医療観察制度の概要	医療観察制度の概要	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	15 更生保護における近年の動向と課題	更生保護における近年の動向と課題	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

平成31年度

科目名	相談援助演習 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	菊地 達美		
開講期	前期		
授業概要	個人への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	個人への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。		
受講資格	人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	支援計画書等の提出60点、演習姿勢40点
教科書	社会福祉士 相談援助演習 中央法規 及びプリント配布		
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方 中央法規		
学生への要望	PCを使用し各種計画書を作成する。		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	講義	相談援助演習の概要	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	講義	社会福祉サービス体制について(介護保険サービス)	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	講義	社会福祉サービス体制について(障害者自立支援サービス)	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	演習	対人援助における他者の理解	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	演習	対象者と社会診断	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	演習	他者の「思い」の理解	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	演習	支援記録と実習記録	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	演習	相談援助における面接の目的	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	演習	インテーク面接のあり方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	演習	面接の基本と展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	演習	要介護認定と障害程度区分認定について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	演習	福祉サービス利用計画と個別支援計画作成	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	演習	地域包括支援における支援計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	演習	介護計画と地域密着型介護サービス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	演習	障害福祉計画と障害者自立支援協議会の役割	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

平成31年度

科目名	相談援助演習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択	
担当教員	菊地 達美			
開講期	後期			
授業概要	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心にを行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。			
達成目標	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心にを行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。			
受講資格	人間生活学科 3年	成績評価 方法	支援計画書の提出60点 演習姿勢40点	
教科書	社会福祉士 相談援助演習 中央法規			
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方 中央法規			
学生への要望	PCを使用し計画書の作成を行う			
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	講義	地域生活支援のケアプランの特徴	0
2	講義	施設ケアプランの特徴	0
3	演習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネート	0
4	演習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネート	0
5	演習	心理社会的アプローチに関する相談支援	0
6	演習	心理社会的アプローチに関する相談支援	0
7	演習	入所施設ケアプランと相談支援について	0
8	演習	入所施設ケアプランと相談支援について	0
9	演習	触法と与刑者アプローチと相談支援	0
10	演習	触法と与刑者アプローチと相談支援	0
11	演習	見えないニーズと権利擁護支援	0
12	演習	生活目標設定における相談支援	0
13	演習	個別支援計画の作成	0
14	演習	グループ支援計画の作成	0
15	演習	支援会議とモニタリング	0

科目名	相談援助演習Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美, 熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みについて理解する。 ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカー固有の概念に基づいて理解する。 ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際の援助技術の活用について理解する。 第1回～第18回 近内直美 第19回～第30回 熊田伸子 ※上記のとおりオムニバス形式にするが、演習内容によっては適宜、両名で対応する。			
達成目標	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みを理解できたか。 ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカーとして理解し説明できるか。 ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際に援助技術を活用できるか。			
受講資格	相談援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを原則とする。	成績評価 方法	演習への参加姿勢 80%、課題 20%	
教科書	「社会福祉士 相談援助演習」中央法規			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	熊田：火曜日Ⅱ時限・金曜日Ⅳ時限 創学館4F No.6研究室 近内：月曜日Ⅱ時限・Ⅲ時限 創学館4F No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	相談援助とは1	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助を行う上で必要な振り返りを行う 2回目以降も含め、授業内容に応じて、ディスカッションを行うなど、双方向型の授業を行う 	15
2	オリエンテーション②	相談援助とは2	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助のポイントをテキストで振り返りをしておく 相談援助のついてポイントをまとめる 	30
3	地域を基盤とした相談援助演習1	地域福祉計画の策定に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
4	地域を基盤とした相談援助演習1-②	地域におけるサービス提供の発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
5	地域を基盤とした相談援助演習2	地域におけるネットワークングに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
6	地域を基盤とした相談援助演習2-②	地域における権利擁護活動に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
7	地域を基盤とした相談援助演習3	社会資源の把握、活用、調整、開発に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
8	地域を基盤とした相談援助演習3-②	住民参加と組織化活動に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
9	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習1	医学モデル・社会モデル・生活モデルに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
10	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習1-②	ストレングスモデルに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> 不明な単語の意味を調べる 発表担当時には発表の準備を行う 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 2	心理社会的アプローチに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
12	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 2-②	問題解決アプローチに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
13	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 3	危機介入アプローチに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
14	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 3-②	行動変容アプローチに関する相談発表及び援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
15	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 4	認知行動療法に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
16	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 4-②	エンパワメントアプローチに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
17	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 5	ナラティブアプローチに関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
18	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 5-②	家族システム論に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
19	社会問題を基盤とした相談援助演習 1	社会的排除に関する発表及び相談援助演習①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
20	社会問題を基盤とした相談援助演習 1-②	社会的排除に関する発表及び相談援助演習②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
21	社会問題を基盤とした相談援助演習 2	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた発表及び相談援助演習①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
22	社会問題を基盤とした相談援助演習 2-②	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた発表及び相談援助演習②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
23	社会問題を基盤とした相談援助演習 3	サービス評価に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
24	社会問題を基盤とした相談援助演習 3-②	就労支援（障がい者）に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
25	社会問題を基盤とした相談援助演習 4	就労支援（母子）に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
26	社会問題を基盤とした相談援助演習 4-②	病院からの退院に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
27	社会問題を基盤とした相談援助演習 5	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）に関する発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
28	社会問題を基盤とした相談援助演習 5-②	虐待についての発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
29	対象者別にみた相談援助演習	低所得者についての発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30
30	対象者別にみた相談援助演習	高齢者（要介護者）とその家族についての発表及び相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る 	30

科目名	相談援助実習指導 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子, 近内 直美		
開講期	前期		
授業概要	①相談援助実習の意義について理解する。 ②相談援助に係る専門的知識・専門的技術について、具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等への理解を深める。 近内が地域包括支援センターや病院での相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割や専門性について授業を行う 実務経験 地域包括支援センターへ社会福祉士として勤務。相談業務にあたる		
達成目標	①相談援助実習の意義が理解できている。 ②実習施設におけるソーシャルワーカーの役割が説明できる。		
受講資格	社会福祉士課程履修登録者	成績評価 方法	定期試験40%、課題30%、演習30%
教科書	「社会福祉士 相談援助実習」 白澤政和、米本秀仁編（中央法規）		
参考書	適宜紹介します		
学生への要望	明確な目的をもって実習に望めるようにしてください。		
オフィスタイム	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No.6研究室 近内 水曜日Ⅰ時限（8:50～10:20）・金曜日Ⅲ時限（12:50～14:20） 創学館4F、No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	・授業概要の説明 ・社会福祉士の役割、社会福祉士の資格、社会福祉士の働く領域 ・相談援助実習の位置づけと相談援助実習の仕組み	・社会福祉士がどのような場で働いているのかを調べておく ・社会福祉士の専門性について予習する	30
2	専門職としての位置づけと相談援助実習	・社会福祉士の専門性 ・相談援助実習の意義、実習における学習の概要	・テキストの実習の意義について読んでおく	30
3	実習の具体的内容①	・相談援助実習ガイドラインの特徴と構成 ・実習施設の確認	・相談援助実習ガイドラインに目を通しておく	30
4	実習の具体的内容②	・相談援助実習の手引きの配布と内容の確認	・相談援助実習の手引きを確認しておく	30
5	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士	・社会福祉士とソーシャルワーカーの関係 ・社会福祉士の新たな役割と機能 ・社会福祉士の義務	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
6	契約関係の中にある実習①	・実習契約関係の理解	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
7	契約関係の中にある実習②	・実習先機関・施設におけるリスクマネジメント ・契約書について	・テキストで授業内容を確認する ・課題を行う（施設におけるリスクマネジメントについて）	90
8	相談援助実習の場と形態	・法令上の相談援助実習施設 ・フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワーク実習	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
9	社会福祉士としての職業倫理	・日本社会福祉士会の倫理綱領 ・社会福祉士の行動規範	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
10	相談援助実習スーパービジョンの理解	・スーパービジョンの意味と機能 ・実習スーパービジョン関係の理解	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
11	実習計画書の作成	・実習目標と課題の設定 ・実習計画書の作成と提出	・自己の実習目標を立てる ・ガイドラインを参考に、実習計画書を作成する	90
12	実習先決定後の事前学習①	・実習先機関・施設、地域の理解	・実習施設種別、実習施設を調べ、まとめる	60
13	実習先決定後の事前学習②	・実習先機関・施設、地域の理解 ・社会資源エコマップの作成	・実習施設の地域の特徴を調べ、社会資源エコマップを作成する	60
14	実習先への事前訪問の意義	・実習先の様子把握 ・実習内容に関する共通認識づくり	・事前訪問する際の質問項目等を作成する	40
15	まとめ	・実習直前の最終確認	・実習を行うにあたり、ソーシャルワーカーとして実習の目的、意義を復習する ・スーパービジョンの受け方を復習する	45

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	島野 光正		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談援助実習の意義や目的を理解することができ、養成校で学ぶ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう、また、実践的な技術等を体得できるようにする。 実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返る。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら振り返ります。 他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学びます。 また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直します。 上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目標にします。 <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力が習得できるようにする。 <p>実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する。</p>		
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談援助実習の意義や目的を理解することができ、養成校で学ぶ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう、また、実践的な技術等を体得できるようにする。 実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返る。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら振り返ります。 他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学びます。 また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直します。 上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目標にします。 <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力が習得できるようにする。 		
受講資格	人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	出席状況(20点)とレポート(80点)による100点
教科書	「社会福祉士相談援助実習」 中央法規出版		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	自己の相談援助実習の振り返りがしっかりとできていること。		
オフィスタイム	月曜日 授業開始前 創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を学ぶにあたっての基本的な理解。 相談援助実習をめぐる諸課題 授業の進め方について 	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	実習体験の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 学生による実習先の施設のプレゼンテーション 職場・職種・ソーシャルワーク実習について 	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	実習体験の再確認1（職場実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎に職場実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成 〔キーワード〕根拠法、施設基準、職員配置な、利用者理解、法人の理念等 	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	実習体験の再確認2（職場実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎に職場実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成 〔キーワード〕根拠法、施設基準、職員配置な、利用者理解、法人の理念等 	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
5	実習体験の再確認3（職場実習）	・実習先分野毎に職種実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務について	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる	60
6	実習体験の再確認4（職場実習）	・実習先分野毎に職種実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成と意見交換 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務について	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	実習体験の再確認5（ソーシャルワーク実習）	・実習先分野毎にソーシャルワーク実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務とソーシャルワークについて	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	実習体験の再確認6（ソーシャルワーク実習）	・実習先分野毎にソーシャルワーク実習についての振り返りと発表 ・ワークシートの作成と意見交換 〔キーワード〕生活相談員、支援相談員等の業務とソーシャルワークについて	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	施設虐待について1	・虐待について ・施設における虐待の予防と取り組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	施設虐待について2	・実習先施設における虐待の予防と取り組みについて ・事例から考える	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	実習計画の再構築 1	・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学ぶべき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ワークシート	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	実習計画の再構築 2	・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学ぶべき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ソーシャルワークを意識した実習プログラムの作成 ・ワークシート	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	実習計画の再構築 3	・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学ぶべき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ソーシャルワークを意識した実習プログラムの作成 ・ワークシート	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	実習計画の再構築 4	・実習計画の発表と意見交換 ・発表を通じて様々な実習施設での実習体験の再確認を行う	発表の準備をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	・まとめ について ・レポート課題	・講義のまとめと振り返り ・レポート課題について説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

平成31年度

科目名	相談援助実習指導Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	菊地 達美		
開講期	前期		
授業概要	相談援助実習における積極性と福祉サービスを利用する人の背景を感じ取り理解と共感をもつ体験を得ると共に情報の整理や実習の準備、実習計画の作成、記録のあり方などを体験する。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。		
達成目標	相談援助実習における積極性と福祉サービスを利用する人の背景を感じ取り理解と共感をもつ体験を得ると共に情報の整理や実習の準備、実習計画の作成、記録のあり方などを体験する。		
受講資格	人間生活学科 4年	成績評価 方法	実習計画書の作成100点
教科書	社会福祉士シリーズ		
参考書	22相談援助演習・相談援助実習指導		
学生への要望	PCを使用し実習計画書の作成		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	講義	相談援助実習の意義について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
2	講義	相談援助実習までの計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
3	演習	職場・職種実習のための準備	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
4	演習	実習目標の立て方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
5	演習	実習目標の立て方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
6	演習	実習計画の内容設定	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
7	演習	実習計画の内容設定	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
8	演習	実習計画の内容設定	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
9	演習	実習記録の意味と必要性	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
10	演習	実習記録の意味と必要性	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
11	演習	実習におけるスーパービジョンとその活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
12	演習	実習におけるスーパービジョンとその活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
13	演習	実習自己評価	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
14	演習	実習他者評価	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60
15	演習	実習報告書の作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 60

科目名	相談援助実習Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子, 近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現場体験を通して、社会福祉専門職として仕事をする上で必要な「専門技術」、「専門援助技術」、「関連内容」の理解を深める ・社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。 ・近内が地域包括支援センター及び総合病院での相談業務の経験を活かし、スーパービジョンを行う 実務経験：地域包括支援センター及び総合病院での相談業務 ・本科目は、熊田伸子、近内直美の2名で担当し、週に1回の巡回指導を行う。 ・相談援助実習Ⅰは、1日8時間とし、相談援助実習Ⅱと合わせ、8日間継続して行う。 ・実習期間中は、1週間に1度以上、巡回教員が巡回指導を実施する。 			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の役割や機能が理解できている。 ・実習施設の利用者の特徴が理解できている。 ・実習施設の職種について理解できている。 			
受講資格	人間生活学科福祉コース 社会福祉士課程履修者	成績評価 方法	実習施設の評価60% 巡回時の面接20%、実習日誌20%	
教科書	社会福祉士 相談援助実習 社団法人 日本社会福祉士養成校協会 中央法規			
参考書	特になし			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・実習には明確な目的を持って臨むこと。 ・十分な事前学習の上で実習に臨むこと。 ・相談援助実習の時間数は、相談援助実習Ⅱと併せ、8日間（64時間）の実習を行うことが基準として定められている。 			
オフィスタイム	<ul style="list-style-type: none"> ・熊田・近内：月曜日Ⅲ時限・金曜日Ⅲ時限 創学館4階 No.6研究室 			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・実習前指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション時に必要な書類等を 確認する 20
2	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・事業・機関の目的と機能を理解する ・生活相談員の仕事内容についての講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をまとめる 50
3	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・事業・機関の概要を理解する ・利用者とのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
4	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の概況を把握する ・ショートステイ送迎の同行 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
5	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の職種、役割を理解する ・多職種連携について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
6	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、関係施設などとの連携や関連施設見学 などを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
7	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画書の現場での再検討と具体的な内容を 考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
8	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・現場が抱えている課題や方向性、実習生としての 課題意識を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
9	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・現場が抱えている課題や方向性、実習生としての 課題意識を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
10	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回教員の助言及びスーパービジョンを受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等を整理しておく。助言内容を まとめる 60
11	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査への同行訪問 	4 60
12	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアカンファレンスへの同席 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の振り返りと実習ノートの まとめ 60
13	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関連する法制度について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設種別に関連する法制度を調 べる 70

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	現場実習	・地域住民への働きかけの取り組みについて説明を受ける	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ 60
15	現場実習	・実習課題に関するの振り返り	・8日間の実習の振り返りをまとめる 90

科目名	相談援助実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	後期		
授業概要	<p>・現場体験を通して社会福祉専門職として仕事をする上で必要な「専門技術」「専門援助技術」「関連内容」の理解を深める 本科目は、社会福祉施設での現場実習である。1日8時間の実習時間とし、相談援助実習Ⅰとあわせ、8日間（64時間）を継続して行う。その間、熊田・近内が巡回指導を行う。 また、近内は、地域包括支援センター及び総合病院での相談業務の経験を活かし、スーパービジョンを行う。 実務経験：地域包括支援センター及び総合病院で社会福祉士として相談業務の経験</p>		
達成目標	実習施設の福祉的意義、利用者ニーズ、社会福祉士の役割を理解できている		
受講資格	社会福祉士課程履修者	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%
教科書	社団法人日本社会福祉士養成校協会 『社会福祉士 相談援助実習』中央法規		
参考書	必要に応じて紹介します		
学生への要望	・実習課題が達成できるように、積極的な態度で臨んでください		
オフィスタイム	熊田・近内 木曜日の1・2時限 創学館4階No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	現場実習	現場の生活相談員による業務の説明	実習日誌のまとめ 60
2	現場実習	業務内容の観察、同席、同行により、生活相談員の役割を学ぶ	実習日誌のまとめ 60
3	現場実習	利用者や家族との援助関係の形成について学ぶ	実習日誌のまとめ 60
4	現場実習	現場におけるチームアプローチのあり方を学ぶ	実習日誌のまとめ 60
5	現場実習	多職種連携について具体的事例より学ぶ	実習日誌のまとめ 60
6	現場実習	事例検討会・ケースカンファレンス等に同席させていただき、関連する専門職の役割や業務内容について学ぶ	実習日誌のまとめ 60
7	現場実習	利用者へのアセスメントの方法について学ぶ	実習日誌のまとめ 60
8	現場実習	利用者のニーズキャッチ	実習日誌のまとめ 60
9	現場実習	実地調査に同行し、相談員の役割を学ぶ	実習日誌のまとめ 60
10	現場実習	他機関との連携の在り方を学ぶ	実習日誌のまとめ 60
11	事後指導	実習報告書の作成	実習日誌のまとめ 60
12	事後指導	実習報告書の作成	実習日誌のまとめ 60
13	事後指導	実習報告会	実習日誌のまとめ 60
14	事後指導	実習報告会	実習日誌のまとめ 60
15	事後指導	実習の反省と振り返り 日誌のまとめ	実習日誌のまとめ 60

科目名	相談援助実習Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子, 近内 直美		
開講期	前期		
授業概要	<p>現場におけるソーシャルワーカーの役割を個別支援計画の作成、・スーパービジョン・情報公開・第三者 評価・苦情処理・危機管理・運営管理・関連職種との関係の中で体験的に理解する</p> <p>相談援助実習Ⅲは、1日8時間で15日間の学外実習を行う。 同一施設で120時間以上の実習を行うことにより、社会福祉士国家試験の受験資格の要件を満たすことになる。</p> <p>近内が、地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かして、ソーシャルワーク技術についてスーパービジョンを行う。 【実務経験】地域包括支援センターに相談業務（社会福祉士）の立場で勤務</p>		
達成目標	相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的且つ実際に理解し、実践的な技術等を体得できている		
受講資格	相談援助実習Ⅰ・Ⅱ修了者	成績評価 方法	実習施設の評価80% 巡回時の目的達成度の確認20%
教科書	社会福祉士 相談援助実習 社団法人日本社会福祉士養成校協会	中央法規	
参考書	特になし		
学生への要望	<p>実習計画を明確にして、実習に臨むこと</p> <p>相談援助実習Ⅲの実習時間は、15日間（120時間）の実習を行うことが基準として定められている。</p>		
オフィスタイム	熊田、近内 月曜日の3時限目、金曜日3時限目 創学館4階 No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	現場実習	・ソーシャルワーカーの機能・役割を理解する	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
2	現場実習	・多職種連携について、具体的な事例により学ぶ	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
3	現場実習	・苦情処理、情報公開、第三者評価、危機管理、運営管理（アドミニストレーション）などを学ぶ	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
4	現場実習	・利用者やその関係者と援助関係を作る能力を体得する	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
5	現場実習	・利用者やその関係者の問題解決能力を高めるように援助する能力を修得する	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
6	現場実習	・福祉専門職としての職業倫理、施設・事業・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を修得する	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
7	現場実習	・実習先がコミュニティへの機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を修得する	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
8	現場実習	・実習で得た課題、問題点などを整理する	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
9	現場実習	・実習全体の総括を行う	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
10	現場実習	・反省会を通し、今後のためのスーパービジョン・指導・助言を受ける	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
11	現場実習	・実習記録をまとめる ・実習総括レポートをまとめる準備をする	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
12	現場実習	・福祉専門職のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
13	現場実習	・今後の自分の課題を見つける	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ 70
14	事後指導	・報告書の作成と提出	・報告書の作成 90
15	事後指導	・実習報告会、事後指導	・報告会の準備 60

科目名	介護の基本 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	介護の歴史や介護問題の背景を理解し、介護を必要とする人の理解を深めるとともに、尊厳ある生活を支援する専門職として基本となる考え方を学ぶ 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。		
達成目標	介護を必要とする方々の生活環境、身体状況の把握から、自立に向けた介護について理解し、介護を提供する際の基本的視点を学ぶ ①介護の専門職として、介護福祉士が果たすべき役割として尊厳のある生活支援を理解できたか。 ②介護を必要としている人（高齢者・障害者）を理解できたか。 ③自立支援の意味を理解し、具体的な支援方法について学ぶ。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	筆記試験 70% 課題30%
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護の基本 I」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護を展開する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイトム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館 4 階 No.1 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	介護の基本 I の学び方 介護福祉士・社会福祉士としての実践（DVD福祉の現場から）	「介護」と聞いてどのようなイメージがあるかまとめてくる 60
2	介護を取り巻く状況	介護のイメージとは（課題）を発表 介護とは何か__介護について 介護とは何か__介護の目的	家族間等での会話に「介護」をキーワードにどのような会話があったか記録する 60
3	介護を取り巻く状況	身近な介護とは 介護とは何か__介護の基本的な考え方	住まいの周辺にある介護のつく施設、事業所を調べてくる 90
4	介護を取り巻く状況	介護とは何か__介護の社会化 ①介護の歴史の変遷 施設介護の変遷、在宅介護の変遷 ・地域にある介護施設（課題）を発表	介護・福祉の専門職を調べてくる 60
5	介護を取り巻く状況	介護とは何か__介護の社会化 ②介護の歴史の変遷 介護問題の背景と介護福祉士の誕生 ・課題の専門職について発表する	ケアにはどのような意味があるか調べる 60
6	介護とケア	「介護」とケアの意義 ・課題について発表する	福祉の意味を調べる 60
7	介護とケア	介護福祉の意味するもの	授業の中で指示されたことを調べてくる 60
8	介護とケア	ケアにおけるバナーリズム	福祉関係の事件で、疑問、不条理と思われる事件（1件）をまとめてくる 60
9	介護とケア	介護福祉士に求められる職業倫理__専門職と職業倫理、介護福祉士の倫理条項 ・福祉関係事件から倫理について考察する。	授業のなかで支持されたことをまとめてくる 60
10	介護とケア	介護福祉士に求められる職業倫理__事例で学ぶ介護の専門性と職業倫理	学生自身の生活の質を上げるためにどのような方法があるか発表できるようにしてくる 60
11	介護の理念：尊厳を支える介護	QOL（生活の質）の向上と自立支援__尊厳を支える介護とQOLの概念 ・生活の質についてグループワーク	学生自身の自立とは具体的にどのようなことになるのか、まとめてくる 60
12	介護の理念：尊厳を支える介護	QOL（生活の質）の向上と自立支援__自立と自立支援、人間関係を築く ・自立についてグループワーク	認知症とはどのような状態になることか、調べてくる 90
13	介護の理念：尊厳を支える介護	事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】	学生自身がいま認知症になったら、どのような気持ちになるか想像してまとめる 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	介護の理念：尊厳を支える介護	事例から自立支援を本人、家族の視点から考える【ハルさんの物語】	自立支援とはどのようなことか、具体的な事例をあげてまとめる
15	中間まとめ	介護の意義と自立支援に向けた介護の総括	授業のなかで支持されたことをまとめてくる
16	介護の理念：尊厳を支える介護	リハビリテーションの活用 リハビリテーションの概念、リハビリテーションと障害のとらえ方の歴史的変遷	ノーマライゼーションの意味について調べてくる
17	介護の理念：尊厳を支える介護	ノーマライゼーションの実現__ノーマライゼーションの理念と発展	ノーマライゼーションの事例を身近なところで探してくる
18	介護の理念：尊厳を支える介護	ノーマライゼーションの実現__日本におけるノーマライゼーションの実践、ノーマライゼーションの実現	授業のなかで指示されたことをまとめてくる
19	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	生活とは何か__「生活」への視点、ふつうの生活とは	「ふつうの生活」という言葉から連想されることをまとめる
20	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	生活とは何か__生活時間、見直される生活	学生がいままでの人生で一番印象に残っている年代は？また印象深い経験とは
21	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__人生で一番輝くときが戦争の時代、激変する生活	家族で年長の方に、人生で一番印象に残っていること（年代）を聞いてくる
22	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__福祉元年から低成長時代へ、そして高齢社会	学生が過去のことでいつも思い出すことと、思い出した時に気持ちについてまとめる
23	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__回想法からの検証	授業のなかで指示されたことをまとめてくる。
24	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__生活史の変遷（演習）① 各自調べたことを発表する	授業のなかで指示されたことをまとめてくる。
25	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__生活史の変遷（演習）② 各自調べたことを発表する	授業のなかで指示されたことをまとめてくる。
26	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ライフサイクル__生活史の変遷（演習）③ 各自調べたことを発表する	授業のなかで指示されたことをまとめてくる。
27	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	生活福祉の視点__老人観と障害観	健康について、どのように考えているかまとめる
28	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ICFの視点で「生活」をとらえる__ICFの障害観・健康観	身近な医療についてどのようなサービスがあるか調べてくる
29	介護を取り巻く状況必要とする人の理解：介護は人生と生活の質を決める	ICFの視点で「生活」をとらえる__医学モデルから統合モデルへ、ICFの視点	授業のなかで支持されたことをまとめてくる
30	介護の基本 I（まとめ）	介護を必要とする人の生活を支えることについて総括	授業のなかで支持されたことをまとめてくる

科目名	介護の基本Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	<p>介護を必要とする人への理解を深め、介護福祉士としての役割と機能を理解しさらに他職種との協働やケアマネジメントの流れやしくみを学ぶ。また、介護におけるリスクマネジメント理解を深め安全確保の実践が出来得る知識を修得する。介護従事者の健康管理の必要性を理解して実践できるようにする。</p> <p>実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。</p> <p>実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務する。</p>		
達成目標	<p>介護を取り巻く状況を把握し求められる介護福祉士の役割と機能を理解し、専門職としての態度を身につける。さらに介護福祉士の働く場と介護実践におけるリスクマネジメントを学ぶ。</p> <p>①介護福祉士を取り巻く状況や背景を通して、介護福祉士の担う社会的役割が理解できる。</p> <p>②介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための知識や事故への対応を理解できる。</p> <p>③介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できる。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験70% 課題レポート30%
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護の一つひとつの行為には、根拠があります。行為が行われる意義を常に認識してください。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館4階 No.1研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション 介護福祉士の役割	介護の基本Ⅱ概略説明（評価方法） 介護福祉士の現状と養成	介護福祉士の役割について調べてくる	60
2	介護福祉士の役割と機能	求められる介護福祉士像、介護福祉士の定義と義務規定 課題について発表する	自宅周辺の介護サービスが提供されている事業所を5件調べてくる	90
3	介護福祉士の役割と機能	介護サービスの提供の場と介護福祉士の役割 課題について発表する	多職種について介護実習等でどのような連携がなされていたかまとめてくる	60
4	協働する多職種の機能と役割	介護実践における多職種連携 課題について発表する	介護技術、生活支援技術について調べてくる	60
5	要介護者を支える生活支援技術	介護技術と生活支援技術 課題について発表する	介護過程について、展開と方法についてまとめてくる	60
6	要介護者を支える生活支援技術	生活支援技術と介護過程 課題について発表する	生活評価とはどのような意味か調べてくる	60
7	要介護者を支える生活支援技術	生活評価の考え方 課題について発表する	身体拘束について事例をまとめてくる	60
8	身体拘束と虐待	身体拘束はなぜ問題なのか__身体拘束について考える 課題について発表する	身体拘束がもたらす弊害について調べてくる	90
9	身体拘束と虐待	身体拘束はなぜ問題なのか__身体拘束がもたらす弊害 課題について発表する	高齢者虐待の新聞記事を1件調べてくる	60
10	身体拘束と虐待	高齢者虐待の現状と課題__虐待について考える 課題について発表する	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
11	身体拘束と虐待	高齢者虐待の現状と課題__虐待の現状	虐待の予防はできるのか？考えをまとめてくる	60
12	身体拘束と虐待	虐待を起こさないために① 課題について発表する	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
13	身体拘束と虐待	虐待を起こさないために②	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
14	身体拘束と虐待	虐待を起こさないために③	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
15	前期まとめ	前期授業の補足と総括	授業の中で指示されたことを調べてくる	60
16	リスクマネジメントと介護従事者の安全	リスクマネジメントの基本	介護事故について1件新聞等から調べてくる	90
17	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__リスクが事故につながる要因 課題について発表する	リスクの意味について調べてくる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
18	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__福祉サービス事故とは課題について発表する	リスクマネジメントについて具体的に調べてくる
19	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__介護事故事例の検証①課題について発表する	授業の中で指示されたことを調べてくる
20	リスクマネジメントと介護従事者の安全	介護事故とリスク__介護事故事例の検証②	授業の中で指示されたことを調べてくる
21	リスクマネジメントと介護従事者の安全	事故を防ぐために__事故原因の究明と介護技術	授業の中で指示されたことを調べてくる
22	リスクマネジメントと介護従事者の安全	質の高い安全な介護	感染症の意味と授業の中で指示された感染症についてしらべてくる。
23	介護における安全の確保	感染症対策__感染予防の基礎知識①課題について発表する	授業の中で指示された感染症対策について調べてくる
24	介護における安全の確保	感染症対策__感染予防の基礎知識②課題について発表する	日常生活で感じる香りについて記録しまとめてくる
25	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__定義と香育課題について発表する	通学経路で感じた香りについて記録し、その香りから気分の変化をまとめる
26	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__アロマセラピーのメカニズム	授業の中で指示されたことを調べてくる
27	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__精油の基礎知識	授業の中で指示されたことを調べてくる
28	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__安全な精油の使い方課題について発表する	学生自身の1か月間もからだのリズムをまとめてくる
29	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの活用__アロマセラピーと健康	作成したアロマグッズを使用し、その前後での変化をまとめる
30	介護の基本Ⅱ（まとめ）	後期授業の補足と介護の基本Ⅱの総括課題について発表する	授業の中で指示されたことをまとめる

科目名	介護の基本Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	社会で生活する要介護者の理解を基盤として、介護を実践する介護福祉士として基本的な知識・技術の理論を総合的に学ぶ。 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。			
達成目標	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を総合的に修得する。 ①対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を理解する。 ②介護の基本として、介護を実践する様々な場面に必要とされる介護の知識・技術を修得する。 ③介護の実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	課題30% 定期試験70%	
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	授業での学びをもとに、学生自身の「介護観」を構築できるようにする。			
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館4階 No.1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	「介護の基本Ⅲ」の学び方（評価方法）	人間の尊厳と介護について授業の中で指示されたことを調べてくる	60
2	人間の尊厳と介護	人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
3	人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成、介護におけるコミュニケーションの基本	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
4	社会に必要な介護	生活と福祉、社会保障制度における介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
5	社会に必要な介護	介護保険制度と障害者自立支援制度における介護 介護実践に関連する諸制度	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
6	介護とコミュニケーション	介護場面における利用者・家族・チームのコミュニケーション	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
7	生活支援技術における介護の基本	自立支援における居住環境の整備、身支度の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
8	生活支援技術における介護の基本	自立支援における移動・食事・入浴・清潔保持の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
9	生活支援技術における介護の基本	自立支援における排泄・家事・睡眠の介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
10	生活支援技術における介護の基本	終末期の介護の基本	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	90
11	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	90
12	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開実践とチームアプローチ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	90
13	発達と老化の理解	人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	90
14	発達と老化の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 高齢者と健康	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	前期のまとめ	前期授業の補足と確認	90
16	認知症の介護	認知症を取り巻く状況 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	60
17	認知症の介護	認知症介護への多職種連携と協働 家族への支援	60
18	障害の理解	障害の基礎的理解	60
19	障害の理解	障害者介護への多職種連携と協働 家族への支援	60
20	こととからだのしくみ	こととからだのしくみの理解 身支度に関連したこととからだのしくみ	60
21	こととからだのしくみ	移動・食事に関連したこととからだのしくみ 入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみ	60
22	こととからだのしくみ	排泄・睡眠に関連したこととからだのしくみ 終末期のこととからだのしくみ	120
23	介護と医療的ケア	喀痰吸引、経管栄養の基礎知識と介護実践	120
24	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護福祉士を取り巻く状況 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	120
25	介護の基本Ⅲ（まとめ）	尊厳を支える介護 自立に向けた介護	120
26	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護を必要とする人の理解 介護サービス	90
27	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護実践における連携 介護従事者の倫理	90
28	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護従事者の安全	90
29	介護観の構築	介護の基本をもとに、学生それぞれの介護観を構築し 発表する	90
30	介護の基本Ⅲ（まとめ）	後期授業の補足と介護の基本Ⅲの総括	90

科目名	コミュニケーション技術A	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美		
開講期	後期		
授業概要	介護や福祉の現場で必要とされるより良い人間関係形成のためのコミュニケーションの大切さや基本的な理念を理解し、専門職に求められる実践的技術の修得を目指します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や心の動きを解説し、実践的なコミュニケーション技術を指導します。 実務経験：臨床心理士として、医療機関、福祉施設に勤務。授業や対話式双方向型を進めていきますので、自発的で活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたことなどを大いに語り合い、理解を深めてください。		
達成目標	介護職は、利用者を理解して信頼関係を形成し、利用者家族や他職種との協働・連携をおこなって行きます。それらをのスムーズな遂行のために、3つの目標を掲げます。 ①他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 ②円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。 ③的確な記録・記述の方法を身につける。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 受講態度、発表内容、レポート（20%）
教科書	「コミュニケーション技術」中央法規		
参考書	「介護スタッフのための声かけ表現集」凡人社 「介護応対事例集」日総研など		
学生への要望	この授業では、理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきます。学生は、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使して、グループワークやディスカッションに積極的に参加・発言してください。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ限、水曜日Ⅱ限、臨床心理学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等について。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	介護現場におけるコミュニケーションの意義と役割	利用者を人として尊重し、より良い人間関係を築くために、介護におけるコミュニケーションの意義と役割を考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
3	コミュニケーションの基本	「かわかりを示す5つの基本動作」や敬語の使い方、相手に伝わりやすい表現方法、非言語表現（表情、声、しぐさ、ジェスチャー、沈黙）などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
4	話を聞くテクニック（1）	傾聴とは。共感とは。話しやすい&安全な聞き手になること、質問法（Open&Closed Quesution）、感情に触れるアプローチ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
5	話を聞くテクニック（2）	肯定的な言い換え、リフレーミング、焦点化、明確化、要約などの言語的テクニックの使い方について学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
6	相談・助言・指導の方法	バイステックの原則、利用者の意欲を引き出す技法などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
7	障害をもつ利用者への理解（1）	コミュニケーション障害を引き起こす主な疾患、脳疾患によるコミュニケーション障害、観察・理解・アセスメントの方法などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
8	障害をもつ利用者への理解（2）	失語症、視力・聴力障害、発話・構音障害などについて、障害部位や疾患名、コミュニケーション障害の状態などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション（1）	高次脳機能障害、失語症（運動性失語症・機能的失語症）、発話・構音障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方や支援における工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション（2）	認知症、自閉症、知的障害、精神障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方、支援の際の工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
11	チーム・コミュニケーション（1）	専門家チーム（多職種連携）、個別援助計画、報告・連絡・相談・会議、ケアカンファレンス、ミーティングなどについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
12	チーム・コミュニケーション（2）	記録の書き方：要約体と説明体の使い分け、フェイスシート・アセスメントシート、客観的事実と主観的事実などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
13	チーム・コミュニケーション（3）	事故報告書、ヒヤリハット報告書、ハインリッヒの法則などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	チーム・コミュニケーション(4)	守秘義務とチーム内の情報共有、個人情報保護法、情報公表制度などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。 30
15	まとめと補足	ケース・スタディの掘り下げや、総合問題の練習、補足説明、まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。 30

科目名	コミュニケーション技術B		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	佐藤 邦子, 滝田 真紀, 加藤 三保子			
開講期	前期			
授業概要	<p><点字> 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。 視覚障害者の状況について理解する。</p> <p><手話> 聴覚障害者のくらしや歴史・特性を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。 介護を必要とする聴覚障害者にあったコミュニケーション方法を学ぶ。</p>			
達成目標	<p><点字> 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。 視覚障害者の状況について理解する。</p> <p><手話> 聴覚障害者のくらしや歴史・特性を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。 介護を必要とする聴覚障害者にあったコミュニケーション方法を学ぶ。</p>			
受講資格	人間生活学科福祉コース 4年生	成績評価 方法	<点字・手話> 実技及び試験で評価します 学期末テスト：90点 授業中の態度：10点	
教科書	<点字> 「初めての点訳第2版」 <手話> 聴覚・言語障害者とのコミュニケーションろう者との対話のために			
参考書	<点字・手話> 特に指定しない			
学生への要望	<点字> 休まずに出席し、点字に関心を持ってほしい <手話> 積極的な学習意欲 私語厳禁			
オフィスタイム	<点字>木曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後 <手話>水曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	<点字>視覚障害者の状況、点字の歴史と概要<手話>自己紹介、ビデオ	<点字> 授業の進め方、概要について話します 視覚障害の状況と点字の概要について話します <手話> 自分の名前を覚えて会話する。あいさつの手話を覚える。 「私の大切な家族」感想文を書く <見る力、まねる力、ゲーム>	0
2	<点字>点字の仮名遣い<手話>第1、第2講座	<点字> 点字の仮名遣いについて説明と実技を行います <手話> 会話（あいさつ） 「聴覚障害」とは <伝言ゲーム>	0
3	<点字>数字・アルファベット<手話>第3講座	<点字> 点字の数字・アルファベットの仕組みについて説明し、実技を行います <手話> 会話（数字を使って） 「コミュニケーション方法」について <口形ゲーム>	0
4	<点字>分かち書き<手話>第4講座	<点字> 点字の文の仕組みや書き方について説明し、実技を行います <手話> 会話（名前、場所） 「手話」とは <名前組み合わせゲーム>	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
5	<点字>分かち書き<手話>第5講座	<点字> 前回は引き続き、点字の文の仕組みについて学びます <手話> 会話（疑問詞を使って） 「ろう者のくらし」仕事／医療／地域生活	0
6	<点字>点字の文を読む、点字で文を書く<手話>第6講座	<点字> 点字で文を書く練習をします また、実際の点字表示を読んでみます <手話> 会話（時の流れ） 「ろう教育」について <指文字ゲーム>	0
7	<点字>まとめ<手話>第7講座	<点字> まとめと試験に向けて確認を行います <手話> 会話（季節） 「制度、施設」について スピーチの内容を考える	0
8	<手話>第8、第9講座	<手話> 手話劇や歌にチャレンジ スピーチの練習	0
9	<手話>まとめ	<手話> スピーチ発表、手話の読み取り、筆記 劇や歌の発表	0

科目名	生活支援技術A		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子, 茂木 光代			
開講期	前期			
授業概要	<p>生活支援とはなにかを理解し、生活での「動く」ことは生きることの基本であり、暮らしを支えるために不可欠な移動や移乗の動きを支援する技術を具体的に学ぶ。また、身じたくの意義・目的を理解するとともに、利用者の状態や状況に応じて安全で自立・自律を尊重した、満足の得られる身じたくの介護について学ぶ。基本的な技術を実践するなかで、身体状況に合わせた方法をその都度ディスカッションしながら方法の検討を通して身につける。</p> <p><授業担当者> 第1回～第16回：廣野担当 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。 第17回～第30回：茂木担当 実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：福島県立医科大学附属病院において、看護師として看護業務に従事。</p> <p>【履修カルテの評価項目】 ①対象者の機能など状態に合わせ能力を活用・発揮し自立支援するための方法が実践できたか ②移動の介護は日常生活を送るうえで基本となる動作を支える介護であることが理解できたか ③身じたくに関する生活習慣と装う楽しみのための知識と技術を理解できたか</p>			
達成目標	<p>「移動」「身じたく」における生活支援技術の根拠と、知識・技術の基礎から応用まで学び、現場での実践で活用できる能力を身につける。また、利用者の心身状態を理解し、どのような状態であっても尊厳と自律・自立を考慮した、個別に対応できる能力を修得する。</p> <p>①「移動」の意義と目的について理解し、基本的な「移動」支援技術を修得し実践できる。 ②「身じたく」の意義と目的について理解し、基本的な「身じたく」支援技術を修得し実践できる。 ③身体機能、こころの状態に合わせたコミュニケーションを活用して支援することができる。</p>			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	実技50% 定期試験50%	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
参考書	授業の中で、随時紹介			
学生への要望	自学・自習に励み技術については確実に身につけ、介護実習で実践できるようにしておくこと。			
オフィスタイム	・水曜日 Ⅰ時限 ・木曜日 Ⅰ時限 創学館4階No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	①授業概要の説明及び留意点 ②生活支援の考え方 ③生活文化、ライフストーリーなど生活様式の違い	60
2	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	④「生活支援技術」を学ぶことの意義について ⑤自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援の理解 ⑥生活支援に活かすICF ⑦ボディメカニクスを理解した介助	120
3	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（体位変換）	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護について学ぶ。 ①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②体位変換を状態（自立度が高い、一部介助が必要、全介助が必要）に合わせた介助方法 ③介護支援ロボットを着用しての介助	90
4	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（安楽な体位）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②安楽な体位と保持 ③褥瘡の予防について ④自立に向けた「移動」に関する道具・用具等の福祉機器（リフターなど）について ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	60
5	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	60
6	移動・移乗の介護の基本（起居動作）	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	移動・移乗の介護の基本 (車いす介助)	①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③ベッドから車いすへの介助法 ④車いすからベッドへの介助法 ⑤車いす介助法(段差越え、階段の昇降、エレベーター) ⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	車いすの支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
8	移動・移乗の介護の基本 (車いす介助)	①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③ベッドから車いすへの介助法 ④車いすからベッドへの介助法 ⑤車いす介助法(段差越え、階段の昇降、エレベーター) ⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での歩行介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。
9	移動・移乗の介護の基本 (歩行介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	歩行介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
10	移動・移乗の介護の基本 (歩行介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業でのベッドから車いすへの介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。
11	移動・移乗の介護の基本 (ベッドから車いすへの介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	ベッドから車いす介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
12	移動・移乗の介護の基本 (ベッドから車いすへの介助)	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での感覚機能低下に配慮した介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。
13	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②感覚機能低下(視覚、聴覚、等)に配慮した移動の介護について学ぶ。	感覚機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
14	状態に応じた移動の介護	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②運動機能低下(肢体不自由者、等)に配慮した移動の介護について学ぶ。	運動機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。
15	移動の介護(まとめ)	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。
16	移動の介護(まとめ)	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。
17	自立に向けた身じたくの介護	身じたく(整容、口腔ケアを含む)を整えることの意味と目的について学ぶ。 衣類・寝具の管理について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。
18	自立に向けた身じたくの介護	衣類・寝具の管理について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる
19	自立に向けた身じたくの介護	10Fの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。
20	自立に向けた身じたくの介護	整容の介助におけるアセスメントの視点について学ぶ。(洗面・整髪・髪の手入れ・爪の手入れ・点眼・軟膏塗布)	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
21	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
22	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアにおけるアセスメントの視点について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
23	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。基本について学ぶ。 ①ブラッシング法 ②口腔清拭法 ③含嗽法 ④義歯の清掃法	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
24	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの介助の実際について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
25	自立に向けた身じたくの介護	障がいのある人の口腔ケアの実際について学ぶ。(片麻痺・認知症) 口腔リハビリテーションについて学ぶ。 口腔ケアに用いる福祉用具について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
26	自立に向けた身じたくの介護	障がいのある人の口腔ケアの実際について学ぶ。(片麻痺・認知症) 口腔リハビリテーションについて学ぶ。 口腔ケアに用いる福祉用具について学ぶ。	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
27	自立に向けた身じたくの介護	衣服着脱の意義・目的について学ぶ。 衣服の種類と選択について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	60
28	自立に向けた身じたくの介護	衣類の着脱介助の実際(和式、前あき二部式、かぶり式)	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	60
29	自立に向けた身じたくの介護	実技テスト(和式、前あき二部式、かぶり式) 身じたくに関して、国家試験過去問を中心に、身じたくの要点について復習する。	実技テストで指摘されたことを踏まえて、復習する。	60
30	自立に向けた身じたくの介護	身じたくに関する多職種との連携について学ぶ。 身じたくに関して、国家試験過去問を中心に、身じたくの要点について復習する。	国家試験過去問について復習する。	60

科目名	生活支援技術B	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①食事は生活の満足度に大きな影響を与えることを理解し、利用者の健康維持、楽しみを支える支援に関する技術を身につける。 ②排泄に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法について身につける。 ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>＜授業担当＞ 第1回～第14回：茂木担当 実務経歴：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：福島県立医科大学付属病院において、看護師として看護業務に従事。 第15回～第30回：藤田担当担当：藤田 実務経歴：看護師として総合病院に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>【到達目標】</p> <p>①「食事」や「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が理解できる。 ②介護福祉士国家試験に必要な知識の習得。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験(筆記・実技) 90%、レポート10%
教科書	介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと		
オフィスタイム	藤田：月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室 茂木：授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	ガイダンス・食事に関する介護の役割	授業概要の説明および留意点 介護を必要とする人の食事の意義と介護者の役割について学ぶ	シラバスの内容を再度確認する。今回の内容について復習する。	30
2	食事に関する介護の役割	介護を必要とする人の食事の意義と介護者の役割について学ぶ	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	自立に向けた介護	食事のアセスメント：ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	自立に向けた食事の介護	食事のアセスメント：ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
5	自立に向けた食事の介護	食事摂取の基本的な知識：①栄養状態 ②食行為のメカニズム ③美味しく食べるとは口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	自立に向けた食事の介護	食事摂取の基本的な知識：①栄養状態 ②食行為のメカニズム ③美味しく食べるとは口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
7	自立に向けた食事の介護	安全な食事介助の技法	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	自立に向けた食事の介護	誤嚥の予防と対応	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
9	自立に向けた食事の介護	①運動機能が低下している人の食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	自立に向けた食事の介護	②視覚障害者の食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
11	自立に向けた食事の介護	③認知症高齢者の食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	自立に向けた食事の介護	口腔ケア	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	自立に向けた食事の介護	食事、介護技術に関する補足及び総括	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	自立に向けた食事の介護	食事、介護技術に関する補足及び総括	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	排泄の意義と目的	①授業内容に関する説明。 ②排泄の意義・目的 ③排泄のメカニズム	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
16	排泄の意義と目的	①自立に向けた排泄介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
17	自立に向けた排泄の介護	IQFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
18	自立に向けた排泄の介護	IQFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学び、アセスメントシートを作成する。	アセスメントシートを完成させる。 60
19	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
20	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。 30
21	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
22	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。 30
23	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
24	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。 30
25	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツや便器を使った陰部洗浄に仕方について学ぶ。その他の排泄に関するさまざまな介助方法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
26	自立に向けた排泄の介護	介助を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
27	自立に向けた排泄の介護	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
28	自立に向けた排泄の介護	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
29	補足及び確認	「排泄」に関する授業の補足及び国家試験対策	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。 30
30	補足及び確認	「排泄」に関する授業の補足及び国家試験対策	今回の内容を復習し、定期テストに向けた学習を行う。 60

科目名	生活支援技術C		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子, 廣野 正子			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</p> <p>②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。</p> <p>③緊急時の対応を理解する</p> <p>④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〈授業担当〉</p> <p>第1回～第14回 : 廣野担当 実務経験: 社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに生活技術について授業を行う。 実務経歴: 社会福祉法人に介護福祉士として介護業務と生活相談員として勤務。</p> <p>第17回～第30回 : 藤田担当 実務経験: 総合病院で看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 実務経歴: 総合病院に看護師として勤務。</p>			
達成目標	<p>〔授業終了時の到達目標〕</p> <p>①「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。</p> <p>②個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について学ぶ。</p> <p>③終末期におけるチームケアの実践について理解する。</p> <p>④緊急時の対応を理解する</p> <p>⑤介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</p> <p>②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験(筆記・実技) 100%	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」I・II			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で取り組むこと 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	廣野: 創学館No.1 研究室 水曜日 I・II限 藤田: 本館1階保健室 月・水曜日 IV限			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス 清潔保持の意義と目的	①授業内容に関する説明。 ②清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。	今回実施した内容を復習する。
2	清潔保持の意義と目的	①清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。 ②ICFの視点から、入浴援助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。
3	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。
4	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。
5	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
6	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
7	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
8	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
9	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①全身清拭、②陰部洗浄について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①全身清拭、②陰部洗浄について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
13	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。
14	自立に向けた入浴・清潔保持の介助	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。
15	人生の最終段階における介護	人生の最終段階の意義と介護の役割	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
16	人生の最終段階における介護	人生の最終段階におけるケアの意味	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
17	人生の最終段階における介護	演習：人生の最終段階におけるケアの意味について映像等を用いて協議する	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
18	人生の最終段階における介護	人生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
19	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
20	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
21	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護 演習	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
22	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護 演習	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
23	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護 演習：エンゼルケアの実施	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
24	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護 演習：エンゼルケアの実施	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
25	人生の最終段階における介護	人生の最終段階の介護における多職種の役割と協働	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
26	人生の最終段階における介護	①人生の最終段階における多職種の必要性 ②他の職種の役割（かかわり方）	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
27	緊急時の介護	①想定される事故と予防の視点 ②応急手当とは	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
28	緊急時の介護	応急処置・緊急時の対応の実際	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。
29	総括	全体的な授業の補足及び確認	これまでの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。
30	総括	全体的な授業の補足及び確認	これまでの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。

科目名	生活支援技術D		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。 ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。 ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。 ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。 実務経験：看護師として総合病院に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>[授業終了時の到達目標]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。 ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。 ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。 ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験80%、レポート20%	
教科書	中央法規出版 「生活支援技術」			
参考書	授業の中で随時、紹介			
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	水・木曜日 IV時限 本館1階 保健室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	休息・睡眠時の介護	①ガイダンス・授業内容の説明 ②休息・睡眠における介護の意義と目的	30
2	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護—不眠の原因と対応のし方について学ぶ。	30
3	休息・睡眠時の介護	睡眠におけるアセスメントの視点について学ぶ。	30
4	休息・睡眠時の介護	睡眠と薬の関連について学ぶ。	30
5	休息・睡眠時の介護	安眠が得られるための環境づくりと、ベッドメイキングについて学ぶ	30
6	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護に関して、安楽な姿勢について学ぶ。	60
7	休息・睡眠時の介護	①多職種連携 ②これまでの授業内容に関する補足と確認。	30
8	自立に向けた居住環境の整備	住まいの役割と機能 生活空間の構成	30
9	自立に向けた居住環境の整備	快適な室内環境	30
10	自立に向けた居住環境の整備	住まいの維持管理	30
11	自立に向けた居住環境の整備	高齢者・障害者の住まいと取り巻く環境	30
12	自立に向けた居住環境の整備	自立支援のための生活環境 福祉住環境整備	30
13	自立に向けた居住環境の整備	暮らしやすい生活環境作り	30
14	自立に向けた居住環境の整備	居住環境の整備における他職種の役割と協働	30
15	総括	これまでの授業内容に関する補足と確認。	60

科目名	介護過程Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する ②介護過程の理解 介護過程の展開（情報収集・アセスメント・介護計画・介護計画の実施・評価）を学ぶ介護実践における [事業全体の内容の概要] 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。		
達成目標	授業終了時の到達目標 ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する ②介護過程の理解 介護過程の展開（情報収集・アセスメント・介護計画・実施・評価）のプロセスと留意点を理解する [履修カルテの評価項目] 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できたか		
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	筆記試験70%、課題30%
教科書	新・介護福祉士養成講座9『介護過程』 中央法規		
参考書	特になし		
学生への要望	実習を行う上でも重要な科目なので、介護過程の展開の基本的視点を確実に修得してください。		
オフィスタイム	水・木曜日 Ⅲ・Ⅳ時限 本館1階保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	介護過程の意義と基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス・授業内容の説明 ・介護過程のとは 	シラバスの内容を把握する 今回の内容について見直しを行う	30
2	生活支援の考え方と介護過程の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程と生活支援 ・生活支援における介護過程の意義 ・演習 	今回の内容について復習する。	30
3	介護過程の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的と構成 ・考える介護のイメージ 	今回の内容について復習する。	30
4	介護過程の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づく介護過程の展開 	今回の内容について復習する。	30
5	介護過程の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集（傾聴・質問の技法） ・情報収集の方法（ICFモデルの活用） 	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
6	介護過程の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントとは ・介護過程におけるアセスメントの重要性 	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
7	介護過程の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程におけるアセスメントの重要性 演習	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
8	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
9	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	介護過程の理解	・介護過程の立案	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	介護過程の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の実施 ・実施の際の留意点 	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	介護過程の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・評価 ・評価における留意点 	今回の内容について復習する。 次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	介護過程の理解	・評価を踏まえた介護計画の修正	今回の内容について復習する。	30
15	総括	・これまでの授業内容の補足および確認	これまでの内容を見直し、定期テストに向け学習する。	60

科目名	介護過程Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 選択
担当教員	近内 直美		
開講期	後期		
授業概要	介護過程の展開方法の理解をもとに、実習の体験を踏まえ個別の生活支援のあり方を考えることができる。 (授業担当者) 第1回～8回：近内担当 第9回～15回：廣野担当		
達成目標	介護過程実習Ⅰ～Ⅱで介護過程の各様式に情報を整理して記載できるようにする。さらにアセスメント力を身に付ける。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	筆記試験70%、課題30%
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成テキスト 「介護過程」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	・介護実習Ⅰ～Ⅱに向けて、介護過程の展開方法を確実に実践できるように理解してください。 ・グループワークや発表を中心に行うため、積極的に参加してください。		
オフィスタイト	廣野：水曜日Ⅱ時限・木曜日Ⅱ時限（10：30～12：00） 創学館4F No.1研究室 近内：月曜日Ⅱ時限・Ⅲ時限（10：30～12：00、12：50～14：20） 創学館4F No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	介護過程の基本確認	・介護過程の展開とは ・2回目以降、計画書の作成に係る演習やグループワークなどを適宜取り入れ、双方向型の授業を行う	・介護過程Ⅰを振り返るとともに、介護過程Ⅱで行う授業概要を理解する
2	介護過程とチームアプローチ1	・ケアマネジメントとは何か ・介護過程における個別計画と介護支援専門員による計画との関係性について	・ケアマネジメントの意味や方法を予習する ・授業のポイントをまとめる
3	介護過程とチームアプローチ2	・チームアプローチとは ・多職種協働の意義と効果、チームアプローチにおける介護福祉士の役割についてグループワークを行う	・テキストで予習する ・授業で事例を通して学んだことを整理する
4	利用者の特性に応じた介護過程の実践展開	・介護過程の実践展開における、視点や目的、効果について事例を通してグループワークを行う	・介護過程を展開する意味について予習する ・授業で行った事例をまとめ振り返る
5	利用者の特性に応じた介護過程の実践展開	・「アセスメント」の方法と「課題の統合化」について事例を通してグループワークを行う	・テキストで予習する ・統合化の必要性、その方法をまとめる
6	利用者の特性に応じた介護過程の実践展開	・事例を通して「アセスメント」から「課題の抽出」における介護福祉士の判断についてグループワークを行う	・テキストで予習する ・授業で学んだことや気づいたことをまとめる
7	利用者の特性に応じた介護過程の実践展開	・事例を通して、支援目標を明確にする「アセスメント」から「課題の抽出」においてグループワークを行う	・テキストで予習する ・課題を行う（アセスメントから行う課題の抽出について）
8	利用者の特性に応じた介護過程の実践展開	・事例を通して課題解決に向けた支援の内容や方法についてグループワークを行う	・テキストで予習する ・実践に繋がる課題解決の方法を授業を振り返りまとめる
9	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表1の項目意義	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる
10	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表1へ記載し仕上げる	・テキストで予習する ・アセスメント表1へ記載し仕上げる
11	介護過程の展開	アセスメントシート表2の項目意義と記載	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる
12	介護過程の展開	個別援助計画書・実施評価表の意義と記載	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる
13	介護過程の展開	事例を基に、フェイスシート、アセスメント表1に記載	・テキストで予習する ・フェイスシート、アセスメント表1記載で不足している部分を見直し完成する
14	介護過程の展開	事例を基に、アセスメント表2、個別援助計画書の記載	・テキストで予習する ・アセスメント表2、個別援助計画書を見直し完成する
15	介護過程の展開	事例を基に、個別援助計画書の発表。実施評価表記載の留意点	・発表に向けて個別援助計画書仕上げる ・授業のポイントや留意点を振り返る

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

科目名	介護過程Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子, 熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	介護実習Ⅰ-2での介護過程の展開を基に、フェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成とパワーポイントにまとめ発表する。発表に対して毎回のディスカッションを通して不足している情報や伝わる文章表現などを検討し各自の介護過程の展開をまとめる。 廣野 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護過程について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。			
達成目標	「人間の尊厳と自立」、「こころとからだのしくみ」が介護過程にどのように活かされているかについて事例から学ぶ。また、介護過程の展開事例から適切な評価ができるための視点を身につける。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	課題演習70% 発表30%	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護過程」			
参考書	授業の中で、随時紹介			
学生への要望	自学・自習に励み発表では疑問、質問に対しての応答と他者の発表には積極的に質問を発言できるようにする。			
オフィスタイム	水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス・介護過程の実践的展開	①授業の概要について説明 介護実習Ⅰ-2で実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
2	ガイダンス・介護過程の実践的展開	②介護実習での介護過程実践事例からの情報整理 介護実習Ⅰ-2で実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
3	介護過程の展開①	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成	60
4	介護過程の展開①	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成	60
5	介護過程の展開②	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成	60
6	介護過程の展開②	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成	60
7	介護過程の展開③	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	60
8	介護過程の展開③	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	60
9	発表①	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	60
10	発表①	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	60
11	発表②	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	60
12	発表②	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
13	発表③	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
14	発表③	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
15	発表④	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
16	発表④	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
17	発表⑤	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
18	発表⑤	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
19	介護過程の評価①	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
20	介護過程の評価①	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
21	介護過程の評価②	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
22	介護過程の評価②	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
23	介護過程の評価③	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
24	介護過程の評価③	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
25	最終発表①	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッション	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
26	最終発表①	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
27	最終発表②	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
28	最終発表②	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
29	介護過程Ⅲ（まとめ）	介護過程の展開についての実践的な理解度を確認する	授業の中で指示されたことにつまとめる。	60
30	介護過程Ⅲ（まとめ）	介護過程の展開についての実践的な理解度を確認する	授業の中で指示されたことにつまとめる。	60

平成31年度

科目名	介護過程Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	介護過程の視点から、チームアプローチの重要性を理解する。また、事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法について学ぶ。			
達成目標	事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法が理解できている。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	課題70%、発表30%	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護過程」			
参考書	特になし			
学生への要望	介護過程の授業の総まとめとして、介護実習Ⅱの介護過程レポートを確実にまとめてください。			
オフィスタイム	月曜日・水曜日 1時限 創学館4階 No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。		0
2	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。		0
3	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。		0
4	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。		0
5	発表①	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。		0
6	発表②	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。		0
7	発表③	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。		0
8	発表④	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。		0
9	発表⑤	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。		0
10	発表⑥	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。		0
11	事例検討1	・最期を在宅で迎えた高齢者について		0
12	事例検討2	・都心に住む一人暮らしの高齢者について		0
13	事例から学ぶチームアプローチ	・事例から学ぶチームアプローチのしかたについて (グループワーク)		0
14	事例から学ぶチームアプローチ	・事例から学ぶチームアプローチのしかたについて		0
15	まとめ	・介護過程の展開についてのまとめを行う		0

科目名	介護総合演習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	前期		
授業概要	介護実習Ⅰ－１の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う。 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。		
達成目標	①個々の学生の持つ関心や疑問・不安などに焦点をあて、自信を持って実習に臨めるようになる。 ②介護実習の事前に実習施設についての理解を深める。 ③コミュニケーションについて各領域で学んだ知識と技術を統合し実践できるようになる。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	レポート50%課題 演習50%
教科書	介護福祉士養成テキストブック9『介護総合演習』 ミネルヴァ書房		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	・自信を持って実習に臨めるように、場面に応じたスキルを確実に身につけること。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅰ時限 ・木曜日 Ⅰ時限 創学館4階 No.1研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	実習の意義と目的	①介護実習の意義と目的を理解する。 ②介護実習に臨むにあたり、目標をもつことの大切さを理解する。 ③介護実習では、個別ケアの視点をもつことを理解する。 ④「実習前→実習中→実習後」という介護実習の流れと、それぞれの時期における学習のポイントを理解する。	介護実習の意義を理解し、介護実習の目標について考えまとめる。 60
2	多様なニーズと介護サービス	①実習施設や事業の概要について理解する。 ②実習Ⅰ－１の目的を理解する。	施設の理解（事前資料）を熟読して、理解でない用語について質問できるようにまとめる。 60
3	施設の理解	①特別養護老人ホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ②介護老人保健施設のサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ③通所介護、グループホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ④実習Ⅰ－１で学ぶべきポイントを理解する。	本日の授業内容から、学生自身の興味のある施設種別を選択し、またその理由も明確にする。 60
4	介護のコミュニケーション 1	①介護コミュニケーションの意義 演習：あなたのコミュニケーションスタイルは？その後、ディスカッションを行う。	コミュニケーションの意義を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。 60
5	介護のコミュニケーション 2	①介護職に求められる効果的なコミュニケーション ②高齢者への声掛けと傾聴 演習：SOLERの体験後、ディスカッションを行う。	コミュニケーションの傾聴を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。 60
6	介護のコミュニケーション 3	①自己開示と対人関係 ②共感と高齢者による感情表現 ③演習：共感の体験後、ディスカッションを行う。	自己開示と共感について友人、家族間などで意識して会話をしてみる。 60
7	介護福祉士の職業倫理	①介護福祉士としての専門職に求められる福祉の理念と職業倫理について理解する。 ②実習に関わるコミュニケーションの方法 ③実習生としてのマナー、接遇	授業の中で指示されたことについて、まとめてくる。 60
8	介護実習記録	①記録の意義と目的 ②観察記録の方法 ③実習記録の基礎知識	実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。 60
9	介護実習記録の方法	①実習関連の記録の書き方 ②実習記録を書く時の注意点	指摘された点に留意して再度、実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。 60
10	実習生個人票	①実習生個人票についての説明と作成	実習生個人調書の下書きをしてくる。 60
11	実習計画書の作成1	①実習計画書についての説明と作成	実習計画書を作成してくる。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	実習計画書の作成2	①実習計画書について発表	実習施設について調べてくる。 60
13	実習前オリエンテーション 1	①実習施設の確認 ②実習についての心構え、注意点の確認 ③実習施設への礼状の書き方	実習施設について調べてくる。 60
14	実習前オリエンテーション 2	①実習施設職員による講義 ②先輩による体験談 ③質疑応答	本日の体験談から学んだこと、疑問に感じたことなどまとめてくる。 60
15	実習前オリエンテーション 3	①実習事前訪問の留意点と確認事項（健康管理含む） ②実習I-1の評価内容 ③個人情報の取り扱い	事前訪問の準備について書き出し、同施設になる学生間で連携すること。 60

科目名	介護総合演習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	介護実習Ⅰ-2の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う。 廣野 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務する。		
達成目標	①介護実習Ⅰ-1を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて自己の課題を明確にする。 ②実習施設の役割と機能を理解し、対象者とその家族の生活ニーズを考える。 ③対象者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。		
受講資格	介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	試験70%、課題30%
教科書	新・介護福祉士養成講座10 『介護総合演習・介護実習』 その他、随時プリントを配布する		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	実習の実践に必要な知識や、実習生としてのマナーを修得してほしい。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館4階 No.1研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	介護実習Ⅰ-1	・介護実習報告会 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅰ-1を振り返り、報告できるようにまとめる。
2	介護実習Ⅰ-1	・介護実習施設の評価 ・介護実習関係書類の整理	授業の中で指示されたことをまとめる。
3	介護実習Ⅰ-2の展開①	・介護実習Ⅰ-2が始まるまでの流れと事前学習の内容を理解する。 ・実習Ⅰ-2のねらい	介護実習Ⅰ-2の実習施設についてまとめてくる。
4	介護実習Ⅰ-2の展開②	・介護実習Ⅰ-2の実習施設について調べたことを、発表する。	介護実習Ⅰ-1の振り返りから、学生の課題を明らかにする。
5	介護実習Ⅰ-2の展開③	・介護実習Ⅰ-1からの課題を明らかにし、自己目標を明確にする。	介護実習Ⅰ-2の実習計画を作成する。
6	介護実習Ⅰ-2の展開④	・介護実習Ⅰ-2の実習計画を発表する。	介護実習Ⅰ-1での実習記録から良く書けている記録、そうでない記録をチェックする。
7	事前学習の内容と方法①	・実習記録や日誌のまとめ方を学ぶ。	介護過程の展開について、展開方法について確認する
8	事前学習の内容と方法②	・介護実習Ⅰ-2日誌、介護過程の展開レポート ・プロセスレコードの説明	日常生活の一場面から、プロセスレコードを記録する。
9	事前学習の内容と方法③	・プロセスレコードの実際と活用法	食事、整容、入浴での介護技術について実践できるように予習する。
10	演習①	・食事場面における介護技術の展開 ・整容場面における介護技術の展開 ・入浴場面における介護技術の展開	排泄、認知症の方への対応などについて配慮することをまとめる。
11	演習②	・排泄場面における介護技術の展開 ・認知症の方への介護技術の展開	介護過程の展開について、アセスメントの取り方などわからない点を明らかにする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	介護実習 I-2 の展開⑤	・実習における介護過程の展開実践	実習施設の特徴を確認する 60
13	事前訪問準備	・実習先の概況、事前訪問について必要事項をまとめる。	介護実習 I-2 の実習目標を作成する。 60
14	実習前オリエンテーション	・介護実習 I-2 の目的達成のための方法についてグループワーク	事前訪問で確認することをまとめる 60
15	介護総合演習 II の総括	・授業の補足と総括	介護実習 I-2 の準備をする。 90

科目名	介護総合演習Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子, 熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	介護実習Ⅰ-1、Ⅰ-2を通して体験した、様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、介護実習Ⅱに向けて知識や技術を統合していく。 【授業担当者】 第1回～5回、第13、14回：熊田担当 第6回～12、15回：廣野担当 廣野 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護総合演習について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務する。			
達成目標	①これまでの実習体験を包括的に考察し、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させ自己の課題を明確化する。 ②実習施設について地域との関わりを含め事前に理解する。 ③本人主体の生活を継続するための介護過程を展開できるように計画が作成できる。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース 介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	課題レポート100%	
教科書	新・介護福祉士養成講座「介護総合演習」 介護福祉士養成講座編集委員会			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	・介護実習Ⅰ-2の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護実習Ⅱに向けた自身の課題を明確にもってほしい。			
オフィスタイト	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階 No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	介護実習Ⅱのねらい	・介護実習Ⅱのねらいを理解する ・介護実習Ⅱのモデル（目的や目標など）を具体的にイメージする	介護実習Ⅰ-1、Ⅰ-2の介護実習日誌を振り返る 60
2	介護実習Ⅱの施設	実習先の施設種別の特徴を理解する	実習施設について調べてまとめる 120
3	実習モデル（1）介護技術の実践を軸にした介護実習	・目標① 利用者の状態を観察することができる 目標② 利用者の生活の不自由さを理解することができる 目標③ 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる 目標④ 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる 目標⑤ 実習モデルと関連する他科目の学習内容	利用者のこころとからだについて理解したことをまとめ、安全に生活するために必要なことをまとめる。 90
4	実習モデル（2）家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習	・目標① 利用者を取り巻く家族や近隣との関係に注目できる 目標② 利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる 演習を通して、地域の現実とそこで生活するために必要な支援体制を理解する	利用者、家族そじて生活している地域について考察する。詳細は授業中に指示される。 90
5	実習前準備	個別の実習目標を作成する	実習目標を完成させる 60
6	実習前に行う演習①	・食事場面、整容場面、入浴場面、排泄場面における介護技術の展開	実習Ⅰで実践した介護技術について振り返り、今後必要な技術について考察する。 60
7	実習前に行う演習②	・認知症の人への介護技術の展開 ・個別ケアとチームケアのありか方について学ぶ ・個別ケアにおける介護過程の重要性について学ぶ	実習Ⅰでの経験から、介護実習における学びを文章にまとめる。 90
8	グループディスカッション	・利用者理解・自己理解の演習 ・介護実習における学び（KJ法）	実習Ⅰ-2でのプロセスレコードについて発表できるように準備する。 30
9	介護実習記録（プロセスレコード）	・プロセスレコードの発表と振り返り	実習Ⅰ-2の実習日誌を振り返り、記録が良く書けているものなど選択する。 60
10	介護実習記録（実習日誌）	・実習日誌の書き方 体験から考察までの記入方法 良く書けた記録、良く書けていない記録	介護過程の展開でのアセスメントをまとめる。 90
11	記録の確認②	・自分の収集した情報の整理の仕方を学ぶ ・配布[承諾書・実習日誌]	授業の中で指示されたことをまとめる。 60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	実習前指導①	・介護実習Ⅱでの書類作成（個人調書、誓約書など）	授業の中で指示されたことをまとめる。
13	実習前指導②	・実習事前訪問の準備	授業の中で指示されたことをまとめる。
14	実習前指導③	・介護実習Ⅱの目標達成のための具体的な方法をグループワーク	授業の中で指示されたことをまとめる。
15	実習前指導④	・介護実習Ⅱの展開（まとめ）	授業の中で指示されたことをまとめる。

科目名	介護総合演習Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	<p>これまでの介護実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし専門職としての考察を通し、介護観を構築する。</p> <p>廣野 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護総合演習について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p>		
達成目標	<p>①介護実習で学んだ介護福祉士としての知識・技術の確認から自己の課題を明らかにする。 ②介護実習で展開された介護実践について、客観的な視点からの研究を通し実践研究の意義とその方法を理解する。 ③介護実践事例に対しての様々な意見に対して考察を深化させ「介護観」を構築する。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース 介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	レポート課題70% 演習課題30%
教科書	新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 中央法規		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	実習のみならず、これまで学内・学外で学んできた介護福祉に関する学びのまとめとして取り組んでほしい。		
オフィスタイト	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館4階No.1研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	介護実習Ⅱ振り返り1	・介護日誌等の書類整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅱで使用した記録物を整理する	30
2	介護実習Ⅱ振り返り2	・介護実習Ⅱの報告会	介護実習Ⅱの振り返りをまとめる	60
3	介護実習Ⅱ振り返り3	・介護実習施設の評価	プロセスレコードについて発表できるように準備する	30
4	介護実習Ⅱ振り返り4	・プロセスレコードの発表とディスカッション	プロセスレコードについて発表できるように準備する	30
5	介護実習Ⅱ振り返り5	・プロセスレコードの発表とディスカッション	多職種連携とチームケアについてまとめる	60
6	社会生活拡大（参加）への 支援技術－協働・連携－	・実習中に多職種と連携ができたか、同時にケアチームの一員としての役割が担えたかを振り返る	利用者、家族それぞれの視点でそれぞれが抱えている課題をまとめる	90
7	社会生活拡大（参加）への 支援技術－利用者の理解－	・利用者本人はどんな生活を望んでいるのか、家族はどう思っているのか、問題や課題に気づきそれらを解決していくために必要な視点	介護観についてその意義を調べる	30
8	介護観1	・介護観とはなにか	授業の中で指示された箇所を要約する	90
9	介護観2	「介護のプロとして護るべきもの」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	90
10	介護観3	「対人援助の専門職としての誇り」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	90
11	介護観4	「認知症の人々の心に寄り添う」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	90
12	介護観5	「命に寄り添う使命」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	90
13	介護観6	「誇り高き介護を創るために」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	90
14	介護観7	・自身の介護観を構築する	介護観について発表できるように準備する	120
15	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	60

科目名	介護実習Ⅰ-1		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	廣野 正子, 藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	<p>介護を必要とする対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。さらに、介護を必要とする個人を理解するため、対象者や家族とのコミュニケーションを実践し、対象者の状況に応じた適切な生活支援技術を学ぶ。</p> <p>介護実習Ⅰ-1は通所施設での実習となる。</p> <p>実習時間の構成は、1日8時間で10日間、計80時間となる。</p> <p>廣野 実務経歴：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとにスーパービジョンを行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p> <p>藤田 実務経歴：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>①学内で学んだ講義、演習からのコミュニケーション技術の実践にて対象者との関わりを深める。</p> <p>②介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。</p> <p>③対象者、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%	
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習			
参考書	実習施設からの提示される資料			
学生への要望	各自の目標を明確にして、実習の臨んでほしい			
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階 No.1研修室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	学外介護事業所実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
2	学外介護事業所実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
3	学外介護事業所実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
4	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
5	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
6	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
7	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
8	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
9	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
10	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
11	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
12	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
13	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
14	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
15	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
16	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
17	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
18	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護事業所実習	多職種協働の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護事業所実習	多職種協働の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護事業所実習	多職種協働の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護事業所実習	多職種協働の実践④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り①	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
29	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り②	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
30	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り③	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

科目名	介護実習Ⅰ-2	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	<p>多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。</p> <p>介護実習Ⅰ-2は福祉施設での実習となる 実習時間の構成は、1日8時間で23日間、計184時間となる</p> <p>廣野 実務経歴：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経歴をもとに介護実習を担当する。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p> <p>藤田 実務経歴：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし実習を担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>①介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ②介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 ③介護を必要とする対象者の理解のためアセスメント能力を身につける。</p>		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設で配布される資料		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい		
オフィスタイム	・水曜日 II時限 ・木曜日 II時限 創学館4階 No.1研修室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	生活支援技術の実践① 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	生活支援技術の実践② 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	生活支援技術の実践③ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	生活支援技術の実践④ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑤ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑥ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ① 生活相談員、介護援専門員、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ② 医師、看護師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ③ 栄養士、調理師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
13	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ④ 理学療法士、作業療法士、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ⑤ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ⑥ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑦ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑧ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑨ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑩ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑪ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑫ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践① フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
25	学外介護施設実習	介護過程の実践② フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
26	学外介護施設実習	介護過程の実践③ フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
27	学外介護施設実習	介護過程の実践④ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
28	学外介護施設実習	介護過程の実践⑤ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
29	学外介護施設実習	介護過程の実践⑥ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
30	学外介護施設実習	介護過程の実践⑦ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
31	学外介護施設実習	介護過程の実践⑧ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
32	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	介護過程の実践⑨ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
35	学外介護施設実習	介護過程の実践⑩ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
36	学外介護施設実習	介護過程の実践⑪ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
37	学外介護施設実習	介護過程の実践⑫ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
38	学外介護施設実習	介護過程の実践⑬ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
39	学外介護施設実習	介護過程の実践⑭ アセスメント表1関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
40	学外介護施設実習	介護過程の実践⑮ アセスメント表1関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
41	学外介護施設実習	介護過程の実践⑯ アセスメント表1関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
42	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
43	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
44	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
45	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
46	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
47	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
48	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
49	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
50	学外介護施設実習	介護過程の実践⑰ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
51	学外介護施設実習	介護過程の実践⑱ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
52	学外介護施設実習	介護過程の実践⑲ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
53	学外介護施設実習	介護過程の実践⑳ アセスメント表2の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
54	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
55	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
56	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
57	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
58	学外介護施設実習	行事、レクリエーションに参加し、企画・実施・評価の過程を学ぶ。可能であれば、企画し、実施する	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
59	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な多職種の役割を学ぶことで、生活支援のチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。

科目名	介護実習Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子, 藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	<p>介護過程の展開を通して対象者の生活を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。また、専門職としての基本的技術を身につける。 介護実習Ⅱは福祉施設（入所）での実習となる。 実習時間の構成は、1日8時間で24日間、計192時間となる。</p> <p>廣野 実務経験：社会福祉法人での介護職と相談援助の実務経験をもとに介護実習を担当する。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。</p> <p>藤田 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>①対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 ②各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%	
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習			
参考書	実習施設で配布される資料			
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい			
オフィスタイト	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階 No.1研修室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
17	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める実践の記録をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める実践の記録をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める実践の記録をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護施設実習	介護過程の実践を深めるケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護施設実習	介護過程の実践を深めるケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護施設実習	介護過程の実践を深めるケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護施設実習	介護過程の実践を深めるケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
29	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する業務の流れを把握し実践する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
30	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する業務の流れを把握し実践する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
31	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する業務の流れを把握し実践する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
32	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する業務の流れを把握し実践する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
35	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する24時間の利用者状況の把握①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
36	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する24時間の利用者状況の把握②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
37	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する24時間の利用者状況の把握③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
38	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する24時間の利用者状況の把握④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
39	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する緊急時の対応①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
40	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する緊急時の対応②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
41	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する緊急時の対応③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
42	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する緊急時の対応④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
44	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
45	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
46	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
47	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
48	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、医療的ケアの実践に役立てる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
49	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
50	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
51	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
52	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
53	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
54	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
55	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
56	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
57	学外介護施設実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
58	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。
59	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。

科目名	老化の理解	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	紺野 信弘		
開講期	前期		
授業概要	成長・発達の観点から老化を理解し、老人に関する心理や身体機能の変化とその特徴に関する基本的知識を解説する。		
達成目標	老化の定義と共通原則について理解する。 老化に伴う生体の生理的变化について理解する。 高齢者の健康と生活の質（QOL）について理解する。		
受講資格	家政学部 人間生活学科 福祉コース 必修	成績評価 方法	小テスト（50%）および課題（50%）の総合評価
教科書	なし		
参考書	シェパード老年学（ロイ・J. シェパード 著、大修館書店）・発達と老化の理解（長谷川和夫他 編著、建帛社）		
学生への要望	実際に高齢者や障害のある方々に接することを念頭に置いて受講して下さい。		
オフィスタイト	火曜日のI限および木曜日のV限、その他適宜対応します。 臨床生理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	人間の成長と発達（1）	発達の理解	発達と成長の違いについて学ぶ	30
2	人間の成長と発達（2）	発達の各段階の課題	発達の原理と特徴について	30
3	老年期の発達と成熟	老年期の定義、老年期の発達課題	老年学からみた老化について	30
4	老化とは何か	老化の定義と共通原則、老化の事実、老化の学説	老化と学説、生理的老化の特徴	30
5	老化による心身の変化	運動機能変化と日常生活への影響	骨・筋系の構造と加齢変化	30
6	老化による心身の変化	循環器系の変化と日常生活への影響	心臓の構造と機能	30
7	老化による心身の変化 （3）	神経系の変化と日常生活への影響（1）	神経の一般的性質 脳神経・末梢神経の機能	30
8	老化による心身の変化（4）	神経系の変化と日常生活への影響（2）	自律神経系の区分、化学的分類	30
9	生殖系と内分泌系の変化	加齢に伴うホルモン分泌の変化	エストロゲン欠乏と骨粗鬆症	30
10	精神神経系と味覚の変化	認知機能の加齢変化	感情の加齢変化、味覚、咀嚼機能の変化	30
11	消化器系の加齢変化	嚥下機能、肝機能、膵臓の機能	加齢による機能の低下、糖尿病、骨粗鬆症	30
12	高齢者と健康（1）	老人保健、疫学について	主要死因別にみた死亡率	30
13	高齢者と健康（2）	高齢者に多い疾患、虚血性心疾患、脳血管疾患	脳血管疾患、高血圧の疫学	30
14	老人の健康と生活の質	高齢者の健康とは	高齢期の生活機能 健康寿命	30
15	まとめ	全体のまとめと復習	老化について興味ある視点からまとめる	30

科目名	老人の心理	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	影山 彌		
開講期	後期		
授業概要	人間の成長と発達の視点から老化を理解し、老化に伴う心理の変化及びその特徴、影響に関する基礎的な知識を習得する。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①生涯発達についての理解 ②老化の概念についての理解 ③老化による知能・記憶の変化についての理解 ④痴呆性高齢者の心理とその対応についての理解		
受講資格	家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年	成績評価 方法	受講態度 (20%)、レポート (80%)
教科書	介護福祉士養成講座「老人・障害者の心理」		
参考書	介護福祉士養成講座「老人・障害者の心理」		
学生への要望	授業目標を毎回確認すること。		
オフィスタイトム	金曜日を除く昼休み (12:00~12:50) 創学館4階No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	発達の定義 発達段階とその特徴	発達は胎児期から老年期までの発達を含む「生涯発達」であることを理解する。主な発達段階説を理解する。双方向型授業を実施する。	講義資料について復習する。 60
2	発達課題	各発達段階特有の発達課題を理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
3	高齢者の発達現象	高齢者の知的な発達の側面について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
4	老化の概念	老化現象及びそのメカニズムを説明する学説を理解するとともに、老いの生物学的・身体的特徴を理解する。老いと疾病との関係、健康の増進策などを理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
5	老化による心理の変化と日常生活 (1)	心理的变化としての知能の変化とその影響を理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
6	老化による心理の変化と日常生活 (2)	心理的变化としての記憶の変化とその影響を理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
7	高齢者のストレスとライフイベント	高齢者にとってストレスとなるライフイベントについて理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
8	老年期における心の変化と日常生活	老年期における社会的地位と役割の喪失感、退職による経済的不安、自己の価値低下の感情、退屈などが、高齢者の生活とどのように関係するかを理解する。高齢者の社会的活動の意義と課題、雇用・年金の重要性を理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
9	施設高齢者の生活適応 (1)	養護老人ホーム及び特別養護老人ホームにおける高齢者の入居と適応の状況について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
10	施設高齢者の生活適応 (2)	多床室及び個室ユニット型特養ホームにおける生活適応の状況について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
11	痴呆性高齢者の心理とその対応 (1)	痴呆の様々な病態-痴呆の記憶・感情・人格障害の特徴、痴呆性高齢者の心理的特徴、その他-について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
12	痴呆性高齢者の心理とその対応 (2)	痴呆の様々な病態-日常生活動作能力の障害、問題行動、その他-について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
13	老いを生きる (1)	老衰が、それに対する高齢者の態度によって、その速度と範囲、それが人生の総体に及ぼす影響などが変化するのを理解する。 (1) 楽観的態度 (2) 遺恨の感情 (3) 諦めの態度 (4) 不屈の態度	講義資料について予習・復習する。 60
14	老いを生きる (2)	高齢者が、現在、未来という時間とどのようにかわり、どのように受け止め、それぞれのなかでどのように生きるか、高齢者の生の内面について理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
15	老いを生きる (3)	老いが固有の本質あるいは価値を有するものであること、その価値をどのような形で体現しうるかを理解する。	講義資料について予習・復習する。 60

科目名	認知症の理解A	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人を取り巻く状況について理解する。 ②認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらにより引き起こされる日常生活への影響について理解する ③認知症の人を正しく理解し、適切な支援のあり方について学ぶ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>認知症を取り巻く社会的な問題について理解する。また、認知症を引き起こす代表的な疾患を理解する。認知症の症状と生活面への影響を理解し、適切な支援のあり方を考察できる知識と技術を学ぶ 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>授業終了時の到達目標</p> <p>①認知症の原因疾患と生活上の影響を理解する ②認知症が引き起こす症状とその背景について理解する ③認知症の人に対するより良い対応のし方を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①認知症の原因疾患をどの程度理解できたか ②認知症が引き起こす症状（中核症状とBPSD）をどの程度理解できたか ③認知症の人に対する適切な支援のあり方をどの程度理解できたか</p>		
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験70%、小テスト10% レポート20%
教科書	中央法規出版「認知症の理解」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で取り組んでほしい。 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	認知症の人の生きる世界	①ガイダンス・授業内容の説明 ②認知症の人の生きる世界について理解を深める（ビデオ使用）	シラバスを把握する。ビデオの感想を書き次回提出する。 30
2	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症とは 認知症の主な原因となる疾患の理解（アルツハイマー型認知症）	今回の内容について見直しを行う。 30
3	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の主な原因となる疾患の理解（脳血管性認知症・レビー小体型認知症等）	今回の内容について見直しを行う。 30
4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の症状（中核症状・BPSD）の特徴	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。 30
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の人の特徴的な心理・行動障害について理解する	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。 30
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の人の特徴的な心理・行動障害について理解する	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。 30
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の検査・診断と治療	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。 30
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	最新薬の種類と特徴 認知症の原因疾患についてのまとめ	今回の内容について見直しを行い、確認テストに向けて学習する。今回の授業内容について教科書で確認する。 60
9	認知症を取り巻く状況	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解についての確認テスト 認知症を取り巻く状況 ①認知症ケアの歴史について学ぶ	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。 30
10	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点について グループワークし共有し合う	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	認知症を取り巻く状況	認知症当事者の視点から見てくるもの	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症を取り巻く状況についての確認テスト 認知症ケアの実際 ①パーソン・センタード・ケア	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ②認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症の予防法について学ぶ 認知症予防法の演習	今回の内容について見直しを行う。今回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	定期テストに向け学習する。	60

科目名	認知症の理解B	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	【授業の目的・ねらい】 ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解する ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる ③認知症を取り巻く社会資源について学ぶ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 【授業全体の内容の概要】 認知機能障害が及ぼす日常生活への影響や、認知症の人・家族の心の変化や生活面への影響を理解し、その支援のあり方を思考できる知識を身につける 実務経験：看護師として総合病院で勤務した経験を活かし、授業を行う 実務経歴：看護師として総合病院に勤務		
達成目標	【授業修了時の到達目標】 ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が理解できる ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる ③地域のサポート体制、チームアプローチについて理解できる ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得		
受講資格	人間生活学科福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20%
教科書	中央法規出版「認知症の理解」 プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと		
オフィスタイム	水・木曜日 14時30分～16時 本館1階保健室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	①ガイダンス・授業内容の説明 ②前期の内容を振り返る	30
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ①認知症の人へのコミュニケーションについて学ぶ ユマニチュードやバリデーションの実施	30
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ②認知症の人へのケア	30
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ③-1認知症の人へのさまざまなアプローチ	30
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ③-2認知症の人へのさまざまなアプローチ	30
6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ④認知症の人の終末期医療とケア	30
7	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ⑤-1環境づくり	30
8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの実際 ⑤-2環境づくり	30
9	家族への支援	介護者支援 ①家族への支援	30
10	家族への支援	介護者支援 ②ケアラーへの支援	30
11	連携と協働	認知症の人の地域生活支援 ①制度・サービス・地域づくり ②若年性認知症についての理解とサポート体制について学ぶ	30
12	連携と協働	認知症の人の地域生活支援 ③多職種連携と協働	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	認知症の人への対応	演習：事例検討1 事例を通して認知症ケアについて考える	今回の内容を復習する。 60
14	認知症の人への対応	演習：事例検討2 事例を通して認知症ケアについて考える	今回の内容を復習する。 60
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	今回の内容を復習し、定期テストに向けた学習を行う。 60

科目名	障害の理解A	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	岡本 宏二		
開講期	後期		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実践に必要な知識という概念から、からだところのしくみについての知識を養う 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害の分野でひつようとされる心理的なケアについての基礎的な知識を養う <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>障害のある人の体験を理解し、心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができるサポート体制、他職種協働を理解し、実践できる</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①障害のある人の体験を理解したか。 ②心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができたか。 ③サポート体制、他職種協働を理解したか。 		
達成目標	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実践に必要な知識という概念から、からだところのしくみについての知識を養う 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害の分野でひつようとされる心理的なケアについての基礎的な知識を養う <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>障害のある人の体験を理解し、心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができるサポート体制、他職種協働を理解し、実践できる</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①障害のある人の体験を理解したか。 ②心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができたか。 ③サポート体制、他職種協働を理解したか。 		
受講資格	人間生活学科福祉コース2先生	成績評価 方法	①筆記試験50点（10点×5問） ②小論文50点。
教科書	特に使用しない		
参考書	<p>「働く幸せ～仕事でいちばん大切なこと～」 大山 泰弘 著 「こころの処方箋」河合隼雄 著</p>		
学生への要望	ボランティア活動への参加 (場面や機会は、こちらから沢山提示します。できる範囲で可能な限り選択してください)		
オフィスタイム	授業開始前 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	障害の基礎的理解：傷害に関する基本的な考え方	障害の基礎的理解：傷害に関する基本的な考え方		0
2	障害の基礎的理解：ノーマライゼーションの考え方	障害の基礎的理解：ノーマライゼーションの考え方		0
3	障害の基礎的理解：障害受容の過程	障害の基礎的理解：障害受容の過程		0
4	障害の基礎的理解：障害の捉え方や生活支援のあり方（ICIDHからICFへ）	障害の基礎的理解：障害の捉え方や生活支援のあり方（ICIDHからICFへ）		0
5	障害の基礎的理解：自立支援に向けた地域における取り組み	障害の基礎的理解：自立支援に向けた地域における取り組み		0
6	障害の医学的側面の基礎的理解	障害の医学的側面の基礎的理解		0
7	運動と協働：リハビリテーションの意義及び医療職との運動のあり方	運動と協働：リハビリテーションの意義及び医療職との運動のあり方		0
8	運動と協働：障害や特性に応じた医療職との運動	運動と協働：障害や特性に応じた医療職との運動		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
9	家族への支援：家族へのレスパイトケアについての基本的視点	家族への支援：家族へのレスパイトケアについての基本的視点		0
10	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：知識とアセスメント能力	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：知識とアセスメント能力		0
11	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：障害の知識、具体的な症状とその背景から自立に向けてどのような介護が望まれるか	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：障害の知識、具体的な症状とその背景から自立に向けてどのような介護が望まれるか		0
12	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：本人の意欲や主体的な行動を支え、地域で安心して暮らしていけるような生活支援を考える	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：本人の意欲や主体的な行動を支え、地域で安心して暮らしていけるような生活支援を考える		0
13	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存の力・潜在能力の活用を含めた生活支援を考える	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存の力・潜在能力の活用を含めた生活支援を考える		0
14	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：ライフステージに応じた自立支援のあり方	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：ライフステージに応じた自立支援のあり方		0
15	まとめ	まとめ		0

科目名	障害の理解B	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	茂木 光代		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目標・ねらい〕 障害の医学的側面からの基礎知識を習得し、障害者の体験を理解し、その心理的な影響や障害の受容、日常生活の「生活のしづらさ」を理解し、その自立に向けてのさまざまな支援のあり方をまなぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携を中心とした授業。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携の概要を理解し、今後の自らの生活や福祉的な仕事に参考として生かしていけること。</p>		
達成目標	<p>〔授業の目標・ねらい〕 障害の医学的側面からの基礎知識を習得し、障害者の体験を理解し、その心理的な影響や障害の受容、日常生活の「生活のしづらさ」を理解し、その自立に向けてのさまざまな支援のあり方をまなぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携を中心とした授業。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携の概要を理解し、今後の自らの生活や福祉的な仕事に参考として生かしていけること。</p>		
受講資格	人間生活学科福祉コース2年生	成績評価 方法	筆記試験100%
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集 13「障害の理解」中央法規		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	積極的の授業に臨むこと。		
オフィスタイム	火曜日 授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	序論	「障害者の概論と基本理念」を学び、基礎的理解をする。地域における障害者の生活や医療保健福祉関係者との連携を理解する。	0
2	序論	「障害者の概論と基本理念」を学び、基礎的理解をする。地域における障害者の生活や医療保健福祉関係者との連携を理解する。	0
3	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人	0
4	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保険福祉の理念を理解する。（障害者の人	0
5	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人	0
6	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人	0
7	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をとおして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。	0
8	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をとおして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。	0
9	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をとおして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。	0
10	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。	0
11	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。	0
12	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。	0
13	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。	0
14	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。	0
15	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。	0

科目名	こころのしくみと機能		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は皆、人間らしく生きたいという欲求を持っています。そして様々な環境で刺激を受け、感情や記憶や知能を働かせ、適応し、あるいは葛藤を抱えて生きていきます。行動の理由、不安の原因、言葉の背景など、こころの働きを理解することにより、介護や福祉で質の高い支援を行っていくことができるでしょう。この授業は、介護福祉士および教職（高等学校福祉科）の資格必修科目に位置づけられ、こころに関する基礎知識を習得します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や複雑なこころの在り様を実践的に指導します。授業は毎回、対話式双方向型で進めていきますので、活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたこと等を大いに語り合い理解を深めてください。 実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①心の働きに関する用語を正しく言える。 ②学習理論や記憶のしくみなど、学んだ理論が日常でどう活用され、福祉や教育の場でどのように役立っているかを理解している。 ③加齢による人格や健康への影響と、高齢者の権利、自立と尊厳、欲求と自己実現などについて、理解している。			
受講資格	介護福祉士の資格取得を目指す者（必修） 教職（高等学校1種福祉）を目指す者（必修）	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%） 授業態度・発言内容・レポート（20%）	
教科書	授業中にプリントを配布。			
参考書	テーマごとに授業で紹介する。			
学生への要望	理解を深めるために、体験的・実践的ワークを取り入れていきます。積極的に参加して、ディスカッションで多めに発言をしてください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ、木曜日Ⅰ・Ⅲ 臨床心理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	自己概念と尊厳・人間の欲求とは	マズローの欲求階層、自己実現、社会的欲求、心理的欲求、高齢者の権利、自立と尊厳などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	心の構造	心の層構造（フロイト、ユング等）、脳の構造、こころの要素（知能、記憶、人格、感覚）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	適応のしくみ	フロイトの防衛機制を中心とした適応のしくみについて、やさしい例題を使って覚えていきます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	人格理論	人格のタイプ論、家族や環境と人格形成、人生劇場、人格特性と自己一致などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	心理検査	色々な心理検査（人格検査・知能検査・発達検査・認知症検査、質問紙法・絵画法・投影法）など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	発達理論	主要な理論家による生涯発達理論（エリクソン、ハヴィガースト）や認知発達理論（ピアジェ）、愛着理論（ボウルビィ）等を学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	記憶のしくみ	記憶の貯蔵モデル、短期記憶、長期記憶、長期記憶の種類、作動記憶などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	感情のしくみ	感情理論、情動の抑制と行動化、気分障害、動機づけ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	心理療法	いろいろな心理療法（遊戯療法、芸術療法、精神分析療法、家族療法、SST）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	学習理論と行動療法	行動療法の原理、学習理論（レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ）と認知行動療法。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	死の受容・障害の受容	キューブラ・ロスの「死」の受容プロセス、コーンの障害受容のステージ理論、介護する家族などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	カウンセリングの理念と方法	ロジャーズの人間中心療法の基本理念、カウンセリングのプロセスと行動変容、カウンセラーの言葉など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
14	ストレスと対処	ストレスとストレッサー、ストレス症状とストレス・コーピングについて学び、日常生活と心の健康について考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	まとめ補足	補足解説、掘り下げ討論、練習問題、まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。 30

科目名	医療的ケア I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	通年		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①医療的ケアに関連する制度②安全な療養生活 ③清潔保持と感染予防 ④健康状態の把握 ⑤高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論 ⑥「たん吸引」実施手順 ⑦高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑧「経管栄養」実施手順を理解する 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた経験を活かし、喀痰吸引や経管栄養等について授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得する</p>		
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20%
教科書	中央法規出版「医療的ケア」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 国家試験にかかわる復讐を行う（小テストで確認） 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	医療的ケア実施の基礎	①ガイダンス ②医療的ケアとは	シラバスの内容を確認し、今回の内容について見直しを行う。 20
2	医療的ケア実施の基礎	①医行為について ②喀痰吸引制度	今回の内容について見直しを行う。 30
3	医療的ケア実施の基礎	①医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ②その他の制度	今回の内容について見直しを行う。 30
4	安全な療養生活	①たんの吸引や経管栄養の安全な実施 ②救急蘇生法(生活支援技術での復習を兼ね、救急蘇生法については学生がまとめて発表する。質疑応答も含む)	今回の内容について見直しを行う。 30
5	清潔保持と感染予防	①感染予防（感染症について調べ発表する。質疑応答を含む） ②介護職の感染予防	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
6	清潔保持と感染予防	①療養環境の清潔、消毒法 ②消毒と滅菌 手指消毒や滅菌手袋の着用方法について演習する。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
7	健康状態の把握	①身体・精神の健康 ②健康状態を知る視点 お互いのバイタルサインを測定し体感する。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
8	健康状態の把握	①急変状態について ②呼吸のしくみとはたらき	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
9	医療的ケアの基礎知識	前回までのまとめと確認テスト	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30
10	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸のしくみとはたらき ②いつもと違う呼吸状態	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①喀痰吸引とは ②人工呼吸器と吸引	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
12	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①子どもの吸引について ②吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
13	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸器系の感染と予防 ②たん吸引により生じる危険、事後の安全確認	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
14	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①急変・事故発生時の対応と事前対策 ②呼吸器系についてのまとめ	今回までの内容を見直すとともに、次回の確認テストに向け、教科書や配布プリントを見直し試験に向けた学習を行う。	60
15	前期総括	1～13講義までの確認テスト及び解説	試験の内容を見直す。	60
16	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 演習：喀痰吸引の器具や器材を使用し清潔保持等について考える ②喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
17	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点 喀痰吸引で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
18	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
19	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点 喀痰吸引で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
20	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引に伴うケア ②報告及び記録 ③口腔ケア	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
21	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点のまとめ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
22	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	消化器系のしくみとはたらき	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
23	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①消化・吸収と、よくある消化器の症状 ②経管栄養法とは	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
24	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①注入する内容に関する知識 ②経管栄養実施上の留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①子どもの経管栄養について ②経管栄養に関する感染と予防 ③経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
26	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 ②急変・事故発生時の対応と事前対策	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
27	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	経管栄養の種類としくみまとめと確認テスト	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
28	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経管形容で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 ②経管栄養の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
29	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	経管栄養の技術と留意点 経管栄養で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
30	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経管栄養の技術と留意点 ②経管栄養に必要なケア ③経管栄養のまとめ	今回の内容を見直すとともに、定期テストに向けて教科書や配布プリントで学習する。	60

科目名	医療的ケアⅡ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する</p> <p>②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①「喀痰吸引」「経管栄養」について、根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する ②救急蘇生法についての手技を学ぶ</p> <p>第1回 : 講義形式 第2回～11回 : 講義30分・演習形式60分 第12回～14回 : 演習評価 第15回 : 講義30分・演習形式60分</p> <p>実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>			
達成目標	<p>〔授業終了時の到達目標〕</p> <p>①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する</p> <p>②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する</p>			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	実技試験80%、レポート20%	
教科書	中央法規出版「医療的ケア」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」「経管栄養」実施手順	①ガイダンス・授業内容の説明 ②たんの吸引・経管栄養の技術と留意点	シラバスの内容を確認する。今回の内容を見直し、次回の授業内容を確認する。
2	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
3	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
4	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
5	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
6	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
7	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経鼻経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経鼻経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
11	基高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。
12	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	実技テストに向け練習する。
13	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	実技テストに向け練習する。
14	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	救急蘇生について教科書等で確認する。
15	基本演習	救急蘇生法	喀痰吸引や経管栄養についての実施手順や留意点をまとめて提出する。

科目名	人体の構造と機能	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	大西 弘太郎		
開講期	前期		
授業概要	解剖学についての基本的な知識を学ぶ。 生理学についての基本的な知識を学ぶ。 主な疾患の成り立ちについて学ぶ。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。実務経歴：医師として医療機関に勤務している。		
達成目標	解剖・生理学の基本をどの程度理解できたか。 主な生活習慣病の成り立ちをどの程度理解できたか。		
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年	成績評価 方法	小テスト (20%) レポート (80%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病 新・社会福祉養成講座 中央法規		
参考書	なし		
学生への要望	双方向の授業を期待します。 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 木曜日 08:30~12:00。 金曜日 08:30~12:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	栄養と代謝 糖尿病の諸問題	栄養と代謝 糖尿病はいまや社会問題 糖尿病はなぜ危険か 糖尿病とは 糖尿病の分類	糖尿病について予習・復習をしましょう。
2	栄養と代謝 糖尿病の諸問題	糖代謝の動態とインスリンの働き 糖尿病慢性合併症 糖尿病にならないライフスタイル	糖尿病について予習・復習をしましょう。
3	消化管	食道の構造と機能 胃の構造と機能 ピロリ菌感染と消化器疾患 ピロリ菌感染の臨床的意義 予防と治療	消化管の主な疾患について予習・復習をしましょう。
4	肝臓	肝臓の構造と機能 主なウイルス性肝炎 慢性肝炎と肝臓がん 脂肪肝 予防と治療	肝臓の主な疾患について予習・復習をしましょう。
5	虚血性心疾患、不整脈	心臓の働きと急性冠症候群 突然死とは 不整脈	虚血性心疾患、不整脈について予習・復習をしましょう。
6	神経	神経系の構造と機能 脳卒中とは 脳卒中の分類	神経の主な疾患について予習・復習をしましょう。
7	高血圧	高血圧はなぜ危険か 高血圧の現状 高血圧と減塩	高血圧について予習・復習をしましょう。
8	動脈硬化 その1	動脈硬化とは 動脈硬化の種類 動脈硬化はなぜ危険か	動脈硬化について予習・復習をしましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
9	動脈硬化 その2	動脈硬化とライフスタイル	動脈硬化について予習・復習をしましょう。	120
10	認知症	認知症は社会問題 認知症の症状 認知症の分類 認知症とケア	認知症について予習・復習をしましょう。	120
11	運動器	運動器の構造と機能 サルコペニア ロコモティブシンドローム 廃用症候群の概要と予防	運動器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
12	感染症	主な感染症	主な感染症について予習・復習をしましょう。	120
13	血液	白血病とは 白血病の分類 白血病の治療 分子標的薬の登場と寛解率の向上 成人T細胞性白血病型リンパ腫	血液の悪性腫瘍について予習・復習をしましょう。	120
14	腎臓の構造と機能 糸球体腎炎	糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能 急性糸球体腎炎 慢性糸球体腎炎	腎臓の構造・機能、糸球体腎炎について予習・復習をしましょう。	120
15	慢性腎臓病	慢性腎臓病の概念 慢性腎臓病の病理 慢性腎臓病の臨床 慢性腎臓病の予防	慢性腎臓病について予習・復習をしましょう。	120

科目名	こころとからだのしくみA	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>生活支援（移動・身じたく・食事）に必要な基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>①人体の構造と働きを理解する ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①人体の構造と働きを理解できたか ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患による影響を理解できたか ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する</p>		
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	こころのしくみの理解	①ガイダンス・授業内容の説明 ②健康の定義 ③人間がもつ（1）基本的欲求（2）社会的欲求について学ぶ	30
2	こころのしくみの理解	自己概念と尊厳について学ぶ ①自己概念に影響を与える要因について理解する ②自立への意欲と自己概念の関係について理解する ③自己実現、生きがいについて理解する	30
3	こころのしくみの理解	こころとからだの関係について理解する ①こころとは何か ②脳のしくみ ・学習・記憶・思考のしくみ ・認知・適応のしくみ	30
4	からだのしくみの理解	からだのしくみ ①脳・心臓などの基本的な解剖、生理、生命維持のしくみを理解する	30
5	からだのしくみの理解	からだのしくみ ②骨・関節など、からだの動きのメカニズムを理解する ボディメカニクス、関節可動域等	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	移動に関連したところとからだのしくみ	「こころ」と「からだ」のしくみについて、確認テスト 移動を理解する上で必要な基本的内容として ①良肢位や安全な移動 ②歩行のしくみについて学ぶ 人が移動する必要性や移動の効果について学ぶ ①移動に関連したところのしくみ ②移動に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
7	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響として ①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下、これらが移動にどのような影響を及ぼすのか、 ④移動における多職種との連携等について学ぶ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
8	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下や障害が及ぼす移動への影響について学ぶ (骨折や廃用症候群等)	移動に関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。 60
9	身じたくに関連したところとからだのしくみ	移動に関連したところとからだの確認テスト 身じたくのしくみ ①身じたくを整えることの意義・目的 ②身じたくに関連したところとからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
10	身じたくに関連したところとからだのしくみ	①老化による機能低下 ②病気による機能低下 ③障害による機能低下 が身じたくにどのような影響を及ぼすのか ところとからだの面から学び、よりよい支援について考える	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
11	身じたくに関連したところとからだのしくみ	①老化による機能低下 ②病気による機能低下 ③障害による機能低下 が身じたくにどのような影響を及ぼすのか ところとからだの面から学び、よりよい支援について考える 演習：機能低下や障害が及ぼす整容行為への影響を学ぶ	身じたくに関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。 30
12	食事に関連したところとからだのしくみ	身じたくに関連したところとからだのしくみの確認テスト 食事は、活動や生命を維持するために必要な最も基本的な日常生活行為である。 食事に関連したところのしくみ ①なぜ食事をするのか ②食事に関連したところのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30
13	食事に関連したところとからだのしくみ	食事に関連したからだのしくみ ①摂食のメカニズム、等について学ぶ 心身の機能低下・障害が及ぼす食事への影響について学ぶ ①老化による機能低下	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。 30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	食事に関連したところとか からだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響について、 ①病気による機能低下 ②障害による機能低下 ③食事における他職種との連携、等について学ぶ。 ④食事制限が必要な人の食行為、嚥下障害に気づく観察のポイント、 演習：誤嚥を予防するための日常生活での留意点、等について学ぶ	食事に関する内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。
15	総括	食事に関連したところとかからだのしくみの確認テスト これまでの授業内容の補足及び確認	今回の復習を行い、定期テストに向けた学習を行う。

科目名	こころとからだのしくみB	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を学び生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>生活支援技術（入浴・清潔保持、排泄、睡眠、終末期）を安全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的な知識について理解できたか ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解できたか ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等について、安全に介助できるための根拠を理解できたか ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解できたか</p> <p>実務経験：看護師として総合病院に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。</p>		
達成目標	<p>〔授業修了時に到達目標〕</p> <p>①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的な知識について理解する ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解する ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等について、安全に介助できるための根拠を理解する ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p>		
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	入浴・清潔保持	①ガイダンス・授業内容の説明 ②なぜ入浴・清潔保持を行うのか ③清潔がもたらす効果 ④高齢者や障害者にとっての清潔保持の意義と楽しみ方について	30
2	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみについて理解する ①皮膚の構造としくみ ②発汗のしくみ ③皮膚の汚れのしくみ	30
3	入浴・清潔保持	心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ①老化による皮膚機能の変化と影響 ②疾患による機能低下：褥瘡・高血圧・心疾患・呼吸器疾患 ③障害による機能低下：視覚機能低下と影響、運動機能低下と影響	30
4	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持における観察のポイント ①変化の気づきと対応 ②心身の状態に応じた入浴・清潔の方法 ③入浴・清潔保持における医療職との連携	60
5	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持に関する演習問題 入浴・清潔保持に関する確認テストおよび要点を復習	30
6	排泄	排泄に関連したこころとからだのしくみ：なぜ排泄を行うのか、排泄の意義	30
7	排泄	排泄に関連した「こころ」のしくみ 排泄に関連した「からだ」のしくみ 演習課題	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	排泄	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響として、 ①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。
9	排泄	生活場面におけることとからだの変化の気づきと医療職との連携 ①排泄における観察のポイント ②排泄における医療職との連携 演習課題	排泄の内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。次回の項目を教科書で確認する。
10	排泄	排泄に関する演習課題 排泄に関する確認テストと要点の復習	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。
11	休息・睡眠	睡眠に関連したところとからだのしくみ ①睡眠のしくみ ②睡眠に関連したところのしくみ・からだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。
12	休息・睡眠	心身機能の低下・障害が睡眠に及ぼす影響 ①睡眠に影響を及ぼす心身の機能低下 ②睡眠障害 こととからだの変化の気づきと医療職との連携 ①睡眠での観察ポイントと連携のポイント 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。
13	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	人生の最終段階のケアに関連したしくみ ①死を理解する ②終末期から「死」までの変化と特徴 ③死に対するところの変化	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。
14	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	医療職との連携のポイントについて学ぶ 演習課題	休息・睡眠と人生の最終段階に関連した内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。
15	総括	休息・睡眠と人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみについての確認テストと復習 これまでの授業内容の補足及び確認	これまでの内容を確認し、定期テストに向けた学習を行う。

科目名	海外生活実習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 1単位 選択
担当教員	難波 めぐみ		
開講期	後期		
授業概要	諸外国を訪問して様々な文化に触れるとともに、衣・食・住・福祉・経営・情報などの生活に関わる施設や研修先を訪れ、見聞を広げる。事前研修において、各自与えられた内容を調べ発表しながら、渡航地の歴史、文化、について学びを深める。		
達成目標	諸外国を訪問し、訪問国の文化の理解を深めることを目的とする。		
受講資格	人間生活学科 3年生	成績評価 方法	①訪問前調査20% ②訪問時の観察・交流・行動50% ③レポート30%
教科書	なし		
参考書	関係資料の配布		
学生への要望	訪問国や訪問先について調べ、疑問点を明らかにしておくこと。 また、訪問国の生活や文化について調べておくこと。		
オフィスタイム	被服学研究室 前期：火曜日Ⅰ、Ⅱコマ、水曜日Ⅳコマ 後期：水曜日Ⅳコマ 金曜日Ⅲコマ		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	海外生活実習の目的および訪問時期の説明を行う。 またこれまでの海外生活実習の訪問国を提示する。	シラバスを確認する	30
2	オリエンテーション	海外生活実習の訪問国や訪問地域の候補を提示する。 また視察先の例を示し、これまでの実習先での様子を学ぶ。	希望渡航地を確認する。受講生による 担当分野の発表用PP作成	30
3	手続き方法	旅行会社による積立や手続き方法の説明会を実施する。 また海外生活実習を行うための予備調査として参加希望調査・訪問希望地域調査を行う。	発表用PP作成	30
4	訪問国の選定	訪問希望調査結果を提示する。 初回の調査で訪問希望地域が多岐にわたっている場合には、初回の希望調査結果の上位2か国ないしは3か国に限定した希望調査を行う。	発表用PP作成	30
5	事前学習	旅行会社による説明会を実施する。 訪問予定国の気候・文化・政治などを学び、訪問予定国に関する理解を深める。	発表者の内容をまとめる	30
6	渡航の意義	渡航に向けての手続きに関する説明会を行い、訪問日程などを確認する。 ビザやパスポートの役割などを理解し、その意味と重要性を認識することとする。 また電圧などが国ごとに違うことを理解し、国ごとに違いがあることを理解する。	発表者の内容をまとめる	30
7	訪問国の理解 1	渡航直前の説明会を行う。 国際的にどのような問題が発生しているか国際状況を理解する。また訪問地域と日本の文化・気候等の違いを再度確認する。これらの確認により、日本が世界の中でどのように位置づけられているか理解を図る。	事前学習内容をノートにまとめる	60
8	訪問国の理解 2	渡航に際し、これまでの説明会や訪問国・訪問先について調べたことから生じ疑問をまとめる。また出国時と入国時における手続きの違いや為替などについて学ぶ。	事前学習内容をノートにまとめる	60
9	海外生活実習 1	車窓から町並み等を観察することで、建築物や道路などの施設の違いを確認する。とくに日本の建造物と訪問国の建造物の差に注意を払い確認をする。	研修地レポート作成	60
10	海外実習 2	宿泊ホテル周辺を散策しスーパーマーケットなどで買い物をしてみることで、販売されているもの、購入方法、通貨の違いを理解する。訪問国の生活について実体験を通して学ぶこととする。	研修地レポート作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	海外実習 3	食文化の違いを理解するため、訪問国のマーケットを訪れ特産品や販売方法を確認する。日本の食文化と比較することで、国ごとに特色があることを学ぶ。また販売されている衣料品を観察し、日本との販売方法の違いや商品の違いが何か学ぶ。	研修地レポート作成 60
12	海外実習 4	福祉施設を訪問し、施設の状況や施設周囲の環境がどのようなものか学ぶ。また施設の職員から制度や問題点について説明を受けて日本との制度の違いを学び、日本での改善を行うための一助とする。	研修地レポート作成 60
13	海外実習 5	宗教と関わる施設（寺院など）を訪れ、建築物としての機能性を確認する。またこれらの建造物を通して、宗教が文化や習慣及ぼす影響を確認する。	研修地レポート作成 60
14	海外実習まとめ 1	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。	報告会PP作成と提出用ノート作成 180
15	海外実習まとめ 2	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。	研修のまとめと報告書作成 120

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。 また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、被服の汚れや洗浄、家庭用品の安全性の考え方、などの講義を行う。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。 2. 繊維の種類と特徴を理解できた。 3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布資料		
参考書	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること、そうすることで、講義内容の理解が深まること、などを解説する。	30
2	被服着用の目的と機能	主要な被服着用目的は、①生理的・物理的目的、②美的・心理的目的、③社会的目的、である。これらの被服着用品の目的と具体的な被服の着用事例とを結び付けて理解を深める。	30
3	衣生活実態調査の実施	各自の衣生活実態調査の課題を課すにあたり、調査目的と実施方法の説明を行う。 調査は、①所有被服枚数、②死蔵被服枚数(1年間着用しなかった被服)、③保管状況、④衣生活実態についての自己評価点とその理由、の各項目について実施する。実態調査をするにあたり、被服の保管の目的や方法を説明する。	120
4	実態調査結果の報告と問題点・課題の抽出	各自の衣生活実態調査結果を発表すると共に、他の学生の調査結果を聞き、各自の実態とを比較しながら、自分自身の問題点と課題を考える。	60
5	衣生活(被服)と環境(1)	死蔵被服を減少するという課題解決のために、被服と環境との関わりについて、ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方から考察する。 繊維、布や被服の製造と流通、生活者の被服購入、着用、手入れ・洗濯、保管、廃棄・リサイクルという被服のライフサイクル全体における環境との関わり(資源、エネルギーの消費と炭酸ガス他廃棄物排出)について学び、現在の自分の衣生活について考察し、環境負荷低減に向けた衣生活のあり方をまとめる。	60
6	衣生活(被服)と環境(2)	前回の授業内容を更に実生活に即して学び、死蔵衣服や繊維原料の資源問題、廃棄とリサイクルなどの現状を考えながら、環境負荷低減を目指した衣生活行動を、5R(Reduce, Recycle, Reuse, Remake, Repair)の視点から考察し、具体的な実践行動を抽出する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	被服の生理的・物理的機能	人体生理、被服内気候、被服圧などから被服の快適性の意味を理解する。恒温動物の人間がどのような生理機能で恒温を保つか、そこにおける被服の役割を認識する。さらに、人体の形状と運動変形における動き易い被服の条件、被服圧について理解する。また、高齢者や乳幼児、身障者の被服、スポーツ・労働用・農業・消防用、などの機能服の被服要件を学ぶ。	配布資料を参考にしながら、本日の講義内容についてまとめる。
8	被服着用と安全性	被服は第二の皮膚といわれるように皮膚と直接接触するために、皮膚刺激やアレルギー等の皮膚障害上の安全性問題が存在する。さらに、被服の人体に対する安全性としては、静電気障害・燃焼障害やヒモ等の付属品による事故発生のリスクがあり、これらの発生原因とその対策を学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
9	被服の心理的・社会的機能	被服の心理的機能には、美しく装いたい、流行の服を着たいという装身の機能が考えられる。一方、社会的機能としては服装のシンボルとしての象徴性や風俗・習慣・道徳などの社会的規範による容儀の機能が存在する。それぞれについて意味を知り、被服着用目的を再確認する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
10	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と機能や特徴を学ぶ。実際に映像を見たり、布サンプルを手にとりながら理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。自分の所蔵衣服の素材について調査する。
11	被服の製造・流通・購入（市場調査）	被服・繊維の製造・流通の歴史を学び、現状を把握し問題点を考察する。特に、現在の様々な流通経路を通じての被服購入のメリットやデメリットを明らかにする。さらに、市場調査を実施し、被服に付けられている標示のわかりやすさや見やすさなどを生活者視点で評価し、問題点や課題を抽出する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。市場調査結果についてまとめ、レポートを作成する。
12	被服の着用による汚れ付着	被服着用による被服に付着する汚れの種類や付着状態、汚れの身体や被服への影響を学ぶ。また、汚れたままにしておいた場合のニオイ発生メカニズムを学ぶ。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。
13	汚れ除去メカニズム	被服に付着した汚れの除去方法として、現在実施されている家庭洗濯とドライクリーニング洗濯の違いを学ぶ。より理解を深めるために実験、映像を用いる。期末レポートの課題を提示する。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、関心があったニュースについて自分の考えをまとめる。期末レポート対応。
14	汚れ除去と被服の快適性を付与する剤の種類と特徴（市場調査）	現在市販されている洗剤類、繊維・布・被服の機能を回復し快適性を付与する柔軟剤、糊剤、漂白剤などの種類と特徴、効果的な使い方を知る。また、市場調査で店頭に並べられている洗剤類を見ながら、理解を深める。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、理解を深める。また、自宅の洗濯機や使用洗剤・関連品について実態を把握する。期末レポート対応。
15	総括	ヒト（生活者）とモノ（被服）、それを取り巻く環境との関係から健康・快適、安全・安心、環境負荷低減型衣生活をデザインするための要点をまとめ、望ましい衣生活のあり方をまとめる。	本日の講義内容を配布資料にしたがって復習し、自分自身の望ましい衣生活のあり方を考え、実践していく。

科目名	被服管理学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	後期		
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。また、企業における企画・研究開発部門の勤務経験を活かし、被服管理の要件(汚れと洗浄や保管方法、など)や人体・環境安全性に関して講義する。実務経歴：衣食住生活関連の家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布プリント		
参考書	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の所蔵図書		
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。		
オフィスタイム	火曜日(Ⅱ時限)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。
2	繊維・被服の生産・流通	世界的にみた繊維の生産状況を知る。ファストファッションの生産、流通の現状を把握し、考察する。ファストファッションの製造国での状況を映像で確認する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。
3	被服の選択と購入	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。前回のファストファッションに続き、ベトナムモン族の民族衣装や日本のゆかたの着装を映像で見ることにより、スローファッションのメリット・デメリットを考える。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服購入方法と失敗経験などについてまとめ、次回の講義に備える。
4	購入方法に関する事例研究	各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。これらの失敗事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。衣料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。
5	着用と汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶ。また、汚れの人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。
6	着用とニオイ	汚れがどのようにニオイに変化するのかその発生原因を学ぶ。ニオイと香りの科学を学び、最近の香りフュームやスメルハラメント等の問題点と課題に関して議論し理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。さらに、自分や家庭の中のニオイについて考えてみる。
7	被服の色と変化、色の基本とカラーユニバーサルデザイン	染色の歴史と科学を学ぶ。被服の色は、着用や洗濯、保管時において色落ち、色移り、色泣きなどの変退色の変化が見られる。そのメカニズムを把握し、防止・予防方法を確認する。また、色の基本やカラーユニバーサルデザインについても理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。
8	日本の染織文化(映像)	前回の講義内容をより理解し深めるために、日本の染織文化に関する映像を鑑賞し、感想を発表する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。
9	被服の手入れ 家庭洗濯とドライクリーニング	家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の被服の手入れ実態について調査する。
10	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史的変遷を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。 ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法 ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法 ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30
12	被服の保管 (市場調査)	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の市場調査結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13		日常使用しているタオルの望ましい管理について学ぶ。 タオルの製造と種類、購入時の注意点、使用時の問題点、手入れと洗濯、保管の項目について各自が調査をして結果を発表する。タオルの望ましい管理についてまとめる。期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自宅に保管されているタオルについて調査し、その種類や問題点・課題や抽出する。期末レポート対応。	120
14	被服管理の事例研究(2)	市場調査結果について報告する。履物の望ましい管理について学ぶ。履物が足に合わないための外反母趾などの足の被害状況、履物の購入時の問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい履物管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅の履物をチェックし、問題点を抽出する。期末レポート対応。	120
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。	30

科目名	衣造形学演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	難波 めぐみ		
開講期	前期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 快適な衣生活を創造し実践できるよう生活空間の中での衣生活を見つめていく。また、実習制作を通しより良い衣生活の創成をするために必要なものは何か考えていく。特に、本時では平面構成（和裁）とは何かという基本理念にふれながら、実習を通してその衣服の機能や形態を考察し、現在ほとんど着用されなくなった和服の存在について理解を深める。更に、これからの衣生活を構築する人材の育成を計るため、確実な技術の修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 和服の基本理念にふれながら、和裁技法を取り入れた基礎縫い制作及び大裁女物単衣長着（浴衣）の制作を行う。実習を通して和服について理解を深め、確実な技術の修得を目指す。</p>		
達成目標	<p>①生活の中の衣生活が果たす大きな役割を理解することができたか。 ②平面構成（和服）とは何かを理解することができたか。 ③和服の機能や形態を理解して制作し、その技術を修得することができたか。</p>		
受講資格	教職（家庭科）履修学生及び上記対象学生。	成績評価 方法	①授業に取り組む姿勢20点 ②途中課題（基礎縫い、袖）20点 ③完成作品（基礎縫い、浴衣）30点 ④課題（レポート、テスト）30点 ①から④の総合評価60点以上で合格となる。
教科書	被服構成実習（平面構成）担当者作成資料の配布。		
参考書	授業内で随時紹介。		
学生への要望	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え完成できるように心掛けること。		
オフィスタイム	火（Ⅰ、Ⅱコマ）、水（Ⅳコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	演習内容と留意事項	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ	30
2	演習内容と留意事項	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。平面構成について理解を深めるために、グループで話し合いながら作ることを理解する。 2) 本時、平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ	30
3	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。	30
4	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、運針の仕方及び縫い方の実習。 b、くけ方。 ※針のもち方、縫い方の基本を修得する。	30
5	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。	30
6	見本帳製作（技法を学ぶ）	1) 基礎縫い（見本帳制作） a、しつけのかけ方。 b、糸のとめ方、つぎ方など基本的な技法を学ぶ。	30
7	大裁女物単衣長着製作	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、お互いに話しあいながら理解を深められるようグループワークを実施する。	30
8	大裁女物単衣長着製作	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 4) 材料・用尺について 5) 裁つ前の準備 ※日本の民族衣装である着物について、理解を深め伝えていける人材の育成を目指す。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
9	大裁女物単衣長着裁断	1) 裁ち方(柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。) a、糸じるし、キズや染むらの確認。b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。	裁ち方をプリントで事前確認し、イメージをつかむ。	30
10	大裁女物単衣長着裁断	1) 裁ち方(柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。) a、糸じるし、キズや染むらの確認。b、裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衿2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受け裁断。※一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。	裁ち方をプリントで事前確認し、イメージをつかむ。	30
11	製作(背縫い、袖)	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ(アイロン)を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄あわせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。	縫い方の名称を確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
12	製作(背縫い、袖)	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ(アイロン)を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄あわせ方法を学び、美しい着物の制作を目指す。	縫い方の名称を確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
13	製作(袖完成及び提出)	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方(同じ袖を作らないよう注意)。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
14	製作(袖完成及び提出)	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方(同じ袖を作らないよう注意)。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。授業後は、縫い方を再確認する。	30
15	製作(身頃印付け、肩当て、居数当て)	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。(内揚げとくりこしとは。) 2) 身頃の印つけ 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 3) 肩当て、居数当作り 折り伏せ縫い方法を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
16	製作(身頃印付け、肩当て、居数当て)	1) 身頃の内揚げ 和服独自の仕立て方法を学ぶ。(内揚げとくりこしとは。) 2) 身頃の印つけ 身丈、肩幅、袖付け、身八ツ、後ろ幅の印をつけ、揚げ、襟肩明きの構成を学ぶ。 3) 肩当て、居数当作り 折り伏せ縫い方法を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
17	製作(衿印つけ及びつけ)	1) 肩当て、居数当て付け 肩当て、居数当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衿作り 衿の柄合わせをし、上前、下前を決め躰けをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衿の柄あわせ方法をしっかりと身につける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
18	製作（衿印つけ及びつけ）	1) 肩当て、居敷当て付け 肩当て、居敷当てを付ける意味を学ぶ。 2) 衿作り 衿の柄合わせをし、上前、下前を決め襷掛けをかけ、襟下を三つ折りぐけする。 ※前身頃と衿の柄合わせ方法をしっかりと身につける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
19	製作（衿始末・襟付け準備）	1) 衿つけ、衿の始末をし、衿製作を学ぶ。 2) 衿つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
20	製作（衿始末・襟付け準備）	1) 衿つけ、衿の始末をし、衿製作を学ぶ。 2) 衿つけの準備 a、上前の柄合わせをして、共衿と衿のしるしをつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
21	製作（襟の印付け及びつけ）	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
22	製作（襟の印付け及びつけ）	1) 襟つけ a、襟つけのつけ方を理解し、まち針の打ち方を学ぶ。まち針の打ち方、つり合いを教員に確認後製作。 2) 襟の整え a、三つ襟芯を入れる（三つ襟芯を入れる意味を知る）	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
23	製作（襟の整え、脇縫い）	1) 襟先整え（襟先留めを学ぶ） a、左右襟先の整え b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
24	製作（襟の整え、脇縫い）	1) 襟先整え（襟先留めを学ぶ） a、左右襟先の整え b、襟寸法を整え本ぐけ技法を用いて襟を留める。 2) 脇縫い a、脇縫いの後、脇の始末をする。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
25	製作（脇始末）	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
26	製作（脇始末）	1) 脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
27	製作（裾作り、袖付け）	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
28	製作（裾作り、袖付け）	1) 裾の始末 a、裾を整え三つ折りぐけ。 b、裾のつま先角の作り方。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。	和服の仕立て方法を事前確認する。 ノートをまとめる	30
29	着装実習及び評価	1) 着装実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。お互いに着付けすることを通して、美しい装いについて考える。また、和服の成り立ちの意味を発表する。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。	着装方法を事前に確認する。着装実習後、1人で着用が可能になるように練習する。	30
30	着装実習及び評価	1) 着装実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、寸法確認後レポートを作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導していけるように学修する。	着装方法を事前に確認する。着装実習後、1人で着用が可能になるように練習する。	30

科目名	衣造形学演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	難波 めぐみ		
開講期	前期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 立体構成（洋裁）学を基に、平面裁断と立体裁断における裁断方法の違いを学び、作品完成の違いについての理解を深める。また、文化式原型、新文化式原型の製図方法を習得することにより、体型変化を理解し、機能にあった快適な着心地の良い作品作り、及び生活空間における衣の重要性を学ぶ。介護福祉士として快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成対策として、立体構成の基本知識を深め、応用能力、多くの技術修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 立体構成と平面構成の違いを理解する。人体の理解を深め、製図方法を学ぶ。ブラウス・女児服の製作を通し技術の修得及び、快適な衣生活を創造提案できるようにする。</p>		
達成目標	<p>①立体構成（洋裁）とは何かを理解できたか。 ②体の機能や形態を理解できたか。 ③立体構成（洋裁）技術の修得から、衣生活の新たな提案が可能となったか。</p>		
受講資格	上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修	成績評価 方法	①授業への取り組みなど 20点 ②途中課題（袖、衿）20点 ③完成作品（ブラウス、女児服、刺繍）30点 ④課題（レポートやまめテストなど）30点 ①～④の総合評価60点以上で合格となる。
教科書	『立体構成（洋裁）』など随時プリント配布。		
参考書	『文化ファッション大系2』文化服装学院、他授業内で随時提示。		
学生への要望	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。		
オフィスタイム	月（Ⅲコマ）、木（Ⅱ、Ⅲコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する 15
2	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する 15
3	原型製図—文化式、新文化式—	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）	採寸方法について事前に調べる。 20
4	原型製図—文化式、新文化式—	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）	採寸方法について事前に調べる。 20
5	旧文化式原型	1) 旧文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	原型とは何か調べノートに記入する 20
6	旧文化式原型	1) 旧文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	原型とは何か調べノートに記入する 20
7	新文化式原型	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	新旧文化式原型の違いをノートに記入する 20
8	新文化式原型	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ	新旧文化式原型の違いをノートに記入する 20
9	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する 20
10	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する 20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ	20
12	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ	20
13	ブラウス製作②ー仮縫いー	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟系について b. ぐし縫いについて※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。	20
14	ブラウス製作②ー仮縫いー	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟系について b. ぐし縫いについて※仮縫いが出来上がりを左右することを実習を通して学ぶ。	20
15	ブラウス製作③ー本縫いー	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a、仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン c、端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）	20
16	ブラウス製作③ー本縫いー	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a、仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。b、ロックミシン c、端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）	20
17	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ	20
18	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ	20
19	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。	20
20	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。	20
21	ブラウス製作⑥ー相互評価ー	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出	20
22	ブラウス製作⑥ー相互評価ー	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
23	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍系の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍の活用を調べるノートに整理する 20
24	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍系の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍の活用を調べるノートに整理する 20
25	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、技法について※ 装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍以外の装飾方法を調べてノートに整理する 20
26	刺繍を学ぶ	1) 刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、技法について※ 装飾方法や装飾場所により出来上がりがイメージが変化することを学ぶ。	刺繍以外の装飾方法を調べてノートに整理する 20
27	刺繍を学ぶ	1) 刺繍、装飾の方法を学ぶ a、始末方法を学ぶ※ 成形の方法を学ぶ。	形の整え方を調べ、ノートに整理する 20
28	刺繍を学ぶ	1) 刺繍、装飾の方法を学ぶ a、始末方法を学ぶ※ 成形の方法を学ぶ。	形の整え方を調べ、ノートに整理する 20
29	総合評価	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	快適な衣生活とはどのようなことか、ノートにまとめる 30
30	総合評価	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	快適な衣生活とはどのようなことか、ノートにまとめる 30

科目名	食生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	鍛野 信子		
開講期	前期		
授業概要	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。		
達成目標	<p>「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】を達成することを目標とする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。</p> <p>②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。</p> <p>③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。</p>		
受講資格	家政学部 人間生活学科 1年	成績評価 方法	①ノートまとめ20% ②課題30% ③期末試験50%
教科書	①指定の資料を各自コピーして持参する。 ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。		
参考書	①必要に応じて、授業内で案内する。		
学生への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。 3. ノートをしっかりとって下さい。 4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。 		
オフィスタイム	月曜日3時限および木曜日3時限目のNo.1食品学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。	復習：1回目の授業内容についてノート整理をしてください。
2	消費者庁と食品表示の目的	食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して掌握していることを理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	<p>予習：mocalに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。</p> <p>復習：2回目の授業内容についてノート整理をしてください。</p> <p>課題：課題①に取り組んでください。</p>
3	JAS法に基づく食品表示関係の制度	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	<p>予習：mocalに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。</p> <p>復習：3回目の授業内容についてノート整理をしてください。</p> <p>課題：課題②に取り組んでください。</p>
4	食品衛生法による食品表示	食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	<p>予習：mocalに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。</p> <p>復習：4回目の授業内容についてノート整理をしてください。</p> <p>課題：課題③に取り組んでください。</p>
5	健康増進法による食品表示	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	<p>予習：mocalに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。</p> <p>復習：5回目の授業内容についてノート整理をしてください。</p> <p>課題：課題④に取り組んでください。</p>
6	食の安全について	食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。	<p>予習：mocalに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。</p> <p>復習：6回目の授業内容についてノート整理をしてください。</p> <p>課題：課題⑤に取り組んでください。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。	60
8	食嗜好の形成	食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。	60
9	食生活と健康	我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。	60
10	日本人の食事摂取基準（2015）	日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2015年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2015）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。	60
11	食料と環境問題	「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイルージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。	60
12	照射食品の安全性とその利用	我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。	60
13	食空間の基礎	食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートについて、理解する。	60
14	店舗、飲食店、キッチンの食空間	食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。	60
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。	60

平成31年度

科目名	食品栄養学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	高橋 徹		
開講期	前期		
授業概要	この講義では、健康な生活を送るために重要な栄養学の基礎を学ぶ。 ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とする栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）が、どのような役割を果たしているかを理解するため、各栄養素の消化・吸収、代謝（体内での分解や合成）とその調節機構について学ぶ。		
達成目標	生活の中で必要な栄養学の考え方を養う。		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 選択	成績評価 方法	レポート（60%）、出席および授業態度（40%）の総合評価
教科書	なし		
参考書	知っておきたい！ 栄養の基本がわかる本（発行：一般社団法人栄養検定協会）		
学生への要望	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。		
オフィスタイム	火曜日のIII限および月曜IV限、その他適宜対応します。 No. 1 栄養学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	栄養の概念	栄養の定義、栄養素の種類と働き、栄養学の歴史	講義内容の振り返り 60
2	エネルギーについて	エネルギーの定義、ヒトのエネルギー、エネルギーとATP	講義内容の振り返り 60
3	エネルギーと栄養素	エネルギーと栄養素の関係	講義内容の振り返り 60
4	体の大きさとエネルギー	体の大きさと維持エネルギーの関係、食べ物の質と体の大きさの関係	講義内容の振り返り 60
5	糖質の栄養	エネルギーと糖	講義内容の振り返り 60
6	たんぱく質の栄養	たんぱく質とアミノ酸、食後・食間のたんぱく質・アミノ酸の代謝、アミノ酸の代謝	講義内容の振り返り 60
7	脂質の栄養	脂質の種類、脂肪酸の種類、脂肪酸の代謝経路	講義内容の振り返り 60
8	消化・吸収と血糖値	消化・吸収の機序、食後血糖の調節	講義内容の振り返り 60
9	消化・吸収が悪い食べ物	食物繊維の機能性、消化・吸収が悪い食べ物の機能性	講義内容の振り返り 60
10	水とタンパク質	カンガルーネズミ、イルカ、ラクダの水代謝	講義内容の振り返り 60
11	コレステロールに対する考え方の変遷	コレステロールの考え方は時代による変遷、コレステロールで儲ける仕組み	講義内容の振り返り 60
12	消化管の形態と食餌戦略	食べ物の質と消化管形態、体の大きさと消化管形態	講義内容の振り返り 60
13	体の大きさを表す指標	BMIが意味するもの、体型を示す指標、無単位の意味、体型指標の作成方法	講義内容の振り返り 60
14	栄養学の複雑さの表現	グラフ理論、一般線形理論、バックヤード理論	講義内容の振り返り 60
15	まとめ	栄養学についての振り返り、レポート作成	講義内容の振り返り 60

科目名	調理学演習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	様々な健康状態の高齢者がおいしく楽しめる介護食をつくるための基礎的な調理知識と技術を学修する。そのために、まずは一般的なスローフードに配慮したレシピでの調理を経験し、基礎を修得する。さらに、自宅での実践で応用力を身につける。演習する調理内容は、高校家庭科教科書に採用されている料理レシピやスローフード視点から選択した世界各国の代表的な料理をグループワークで学ぶ、15回の演習を通じて、調理学の基本的な知識や技術修得とともに食材の栄養価や色・形・味・香などの調理による変化とその理由を五感で理解する。さらに、レポートを作成することにより、観察力とレポートの書き方を学ぶ。また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かして、食品容器や食品の安全性、食生活全般の清潔衛生に関する講義を行う。実務経歴：衣食住生活に関連する家庭用品製造販売企業において、企画開発や研究開発、安全性評価や技術広報活動を担当。		
達成目標	①野菜や魚など食材の高齢車を意識した切り方を習得し、実践できる。 ②ダシ（和食・洋食）の取りかた、煮物、和え物、など料理の基本を理解し、実践できる。 ③加熱の仕方、洗い方など基本を理解、実践できる。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	①授業態度：30点 ②実技：30点 ③レポート：40点
教科書	プリント配布		
参考書	No2被服学研究室所蔵図書		
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。		
オフィスタイム	火曜日（Ⅱ時限）：NO2被服学研究室 水曜日（全日）：NO2被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での復習が重要であることを理解する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。	30
2	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での復習が重要であることを理解する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオにて学ぶ。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。	30
3	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方洗い方の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
4	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方洗い方の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
5	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、プラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
6	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、プラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
7	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、プレーンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイオンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
8	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、プレーンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイオンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
9	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤カステラのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
10	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤カステラのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
11	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
12	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
13	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペンネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
14	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペンネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
15	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
16	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
17	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルコギ、チャブチェ、キムチチゲ、チャブサルバブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
18	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルコギ、チャブチェ、キムチチゲ、チャブサルバブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
19	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
20	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
21	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的な菓子のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況（種類、鮮度、価格、など）を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
22	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的な菓子のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
23	日本食 旬のいわしの手開き、同じ素材でおかずとお澄しつくり	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒のつくり方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮のつくり方 ③寒天の使い方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
24	日本食 旬のいわしの手開き、同じ素材でおかずとお澄しつくり	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒のつくり方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮のつくり方 ③寒天の使い方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
25	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮(ラタウユ)、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
26	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮(ラタウユ)、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチのつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
27	自由課題(米料理)	米料理をテーマとした夕食献立を実践する。予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購入、調理までをグループで実施、実践力を身につける。	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
28	自由課題(米料理)	米料理をテーマとした夕食献立を実践する。予算(350円/人)内で献立を作成から材料の購入、調理までをグループで実施、実践力を身につける。	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
29	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん(付け合せ:野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味)のつくり方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら(かきあげ)のつくり方 ③和菓子(ずんだ)のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60
30	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん(付け合せ:野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味)のつくり方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら(かきあげ)のつくり方 ③和菓子(ずんだ)のつくり方	本日の演習内容結果をレポートにまとめる。次回の演習内容で使用する食材の店頭での販売状況(種類、鮮度、価格、など)を確認する。さらに、学んだ料理を自宅で実践する。	60

科目名	住生活概論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。			
達成目標	①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	①定期試験 70% ②提出図面 30%	
教科書	豊かな住生活を考える一住居学（彰国社） 小澤紀美子編 小澤紀美子・荒川千恵子・川島平七郎・渡辺彩子著			
参考書	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ダイニングキッチンがこうして誕生した」技報堂出版			
学生への要望	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。			
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限（14：30～16：00） 水曜IV時限（14：30～16：00）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活をとりにくく問題について考える。	新聞等に目を通し、日頃から住生活における問題に目を向ける。	60
2	住生活と諸問題	多様化する住生活について理解し、様々な住生活の諸問題について考える。	住生活の諸問題を取りあげ、自分の考えをまとめておく。	60
3	住生活と住まいの変遷	日本の風土的特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。	日本の気候風土、地域性についてまとめる。	60
4	家族と住まいの変遷	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。	住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。	60
5	高齢者と住環境	高齢者の身体的特徴を踏まえながら、住居内での事故を防止するための手すりや段差解消の方法について学ぶ。また、現代社会における基礎的問題として、介護保険制度について理解し、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を目的とした居住環境整備について考える。	介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。	60
6	間取りの重要性 1	本来最も安心して過ごすべき住まいが子供の犯罪行為の場となった事例から、住まいにおける子供空間の位置付けについて考察する。	子どもの自立と子ども部屋の関係について調べる。	60
7	間取りの重要性 2	間取り（空間構成）と家族問題とを関連付けながら、心（ワト）と住まい（ノド）との関係が皆無ではないこと、さらには両面から人間を守護しなければならないことを確認する。	家族の問題と間取りの重要性について考えをまとめる。	60
8	住宅と衛生	換気と結露（表面結露・内部結露）との関連について理解し、結露を発生させない住まい方を考える。	住まいの衛生について考え、住まい方を考察する。	60
9	住宅設計製図の基礎	模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。	設計製図における線の引き方を練習する。	60
10	線の引き方、製図文字の練習	前授業に引き続き、線の引き方と、製図文字を練習する。次にダイヤモンドリング作成について説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180
11	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、ダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180
12	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、引き続きダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成した後、住宅図面トレースについて説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	60
13	住宅図面のトレース 1	模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。	平面図・配置図をトレースする。	180
14	住宅図面のトレース 2	前授業に引き続き、2階平面図、立面図を完成させる。	2階平面図と立面図のトレースを完成させる。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	住宅図面のトレース3	前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。	製図記号等の基礎的知識を理解し、トレースを完成させる。 180

科目名	家庭電気・機械	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	後期		
授業概要	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができている。しかし、これらの機器は利便性を与えるだけでなく、時には危険性も与える。そこで機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理および構造を学ぶ。		
達成目標	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点からは、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996) ・小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002) ・横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993) 		
学生への要望	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 火曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	15
1	イントロダクション	講義の目的と内容・成績評価の方法などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習すること。	15
2	基礎物理	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。	30
3	基礎物理および機械の構成要素	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原則を学ぶ。モーメント・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。本時では様々な道具を実際に触ることで道具への理解を深めることとする。またノギスやマイクロメーターを用いて様々な物体の長さ・厚さ・深さを測り、道具の使用方法を学ぶ。	60
4	機械の構成要素	機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。	30
5	熱力学基礎	人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。	60
6	熱を利用した機器	燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。パーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	ヒートポンプ	実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることとする。	本時の復習として、ヒートポンプのサイクルにおける各過程での熱の出入り及び温度の高低を再確認すること。またヒートポンプの特徴を再確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
8	冷蔵庫	現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。	復習として、冷却方法を整理すること。また電気冷蔵庫の冷却方法とヒートポンプのサイクルにおける過程を対応をまとめてみる。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
9	課題 1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。
10	電磁気の基礎	日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気的基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。	本時の復習として、電気と磁気の関係や電磁気学における各種法則について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
11	電力生成	電気エネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気エネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると考えがちであるが、家庭でも電力を生成することがある。電気を利用した機器を理解するため、ここでは電力の生成方法について学ぶ。	本時の予習として、本授業の前半で学んだエネルギー保存則を確認しておくこと。本時の復習として、電力生成を電磁気学の基本法則で説明できるよう、電力生成の原理を確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
12	電磁気を利用した調理システム	家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器(IH)・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。	本時の復習として、誘導加熱と誘電加熱の原理を確認すること。また両加熱方法の違いを確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
13	電気を利用した発光システム	現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode(LED)の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。本時では圧電素子や電子レンジを利用して蛍光灯を光らせる簡易実験を行い、蛍光灯の発光原理を理解する。また本簡易実験により、前回の授業で学んだ電子レンジの加熱原理を確認する。	本時の復習として、発光原理とエネルギーの利用効率について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
14	液晶と情報の記録	液晶が実用化されたことで、ディスプレイなどの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶の原理を学び、液晶がどのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶこととする。	本時の復習として、本時で説明したデータ保存用の機器の実物を、Webなどで確認すること。またその際に示されている接頭辞を確認すること(接頭辞は本授業当初の説明事項である)。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	これまでの学修や体験、また専門的な知識・技術を基に自らの疑問を明らかにして、研究テーマを確定する。		
達成目標	自らのテーマに対して、その答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得することができる。 1. 明確にしたい解決すべき現象・問題などを絞り込み、研究課題を決定する。 2. 研究目的を明らかにする。 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。 4. 研究計画にそってデータを収集する。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%
教科書	ありません。随時、印刷物の配布		
参考書	ゼミの中で随時紹介		
学生への要望	疑問をどのようにもつのか、そのプロセスを認識して主体的に発表すること。		
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 I 時限 創学館4階 No.1 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス	卒業研究の意義、進め方について学ぶ。 これまでの授業、体験から興味のあることについて発表する。	現在、興味のある事象やテーマについてその理由を含め具体的に発表できるように準備する。
2	テーマ設定に向けて (1)	研究テーマの設定についての方向性を明確にする。 各自、調べたことを発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
3	テーマ設定に向けて (2)	学生が興味を持っている研究内容についてディスカッション	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
4	論文の書き方 (1)	卒業論文の書き方について解説する。 ・論文のきまり ・引用文献 ・専門用語の定義のしかた 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
5	論文の書き方 (2)	文献の必要性 ・文献などの探し方 ・データの収集方法 ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
6	論文の書き方 (3)	参考文献の活用法 ・参考文献の読み方 ・データのまとめ方 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
7	研究手法について (1)	量的研究 ・アンケート調査に関する基本的知識について 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
8	研究手法について (2)	量的研究 ・アンケート調査の方法について 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
9	研究手法について (3)	質的研究 ・面接調査に関する基本的知識 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
10	研究手法について (4)	質的研究 ・面接調査の方法について学ぶ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。
11	テーマ設定に向けて (3)	研究テーマを決定する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。 60
13	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。 120
14	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、抱えている課題などについて確認する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。 120
15	学外学習（8～9月実施）	県内の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。 60
16	学外学習（8～9月実施）	県内の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。 60
17	学外学習（8～9月実施）	県内の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。 60

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	熊田 伸子		
開講期	通年		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている 卒業研究 I では、先行研究を調査、分析することで、自身のテーマ・目的を明確にし、テーマに即した研究手法を習得する 		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> テーマに関する基礎的な知識が理解できている テーマに即した研究手法が習得できている 		
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%
教科書	特になし		
参考書	地域福祉情報、月刊福祉等の月刊誌 その他、随時紹介する		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関するテーマについて、日常生活においても常に意識を持っていることが大切です。 自主的に取り組んでください 		
オフィスタイム	前期：火曜日1・2時限 後期：木曜日1・2時限 創学館4階No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の意義 卒業研究の進め方 研究室のこれまでの論文の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定のために課題を探る 	60
2	卒業研究のテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> 学生が問題意識や関心を持っているテーマについてディスカッションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のテーマについて新たな気づき等をまとめる 	60
3	卒業研究のテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> 福祉分野の問題や課題について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における問題や課題について、これまで学んできたこと、今後学びたいことなどについてまとめる。 	60
4	研究手法① 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> 文献などの探し方 データの収集場所 新聞記事の切り抜きと辞書の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学会誌（日本社会福祉学会）に目を通し、研究方法について予習しておく 	60
5	研究手法② 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> 参考文献の活用法 参考文献の読み方 データのまとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> 学会誌（社会福祉学会）に目を通し、参考文献の用い方を予習しておく 	60
6	研究手法③ 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索の方法について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索の方法について、予め調べておく 	60
7	研究方法Ⅳ④ 量的調査	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査に関する基本的知識について 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の1つの手法である量的調査についてテキストを読んでおく 	60
8	研究方法⑤ 量的調査	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の方法について 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉学会誌を参考に、量的調査の方法を学ぶ 	60
9	研究方法⑥ 質的調査	<ul style="list-style-type: none"> 面接調査に関する基本的知識 	<ul style="list-style-type: none"> 面接調査の方法についてテキストを読んでおく 	60
10	研究方法⑦ 質的調査	<ul style="list-style-type: none"> 面接調査の方法について 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉学会誌を参考に、どのようなテーマの研究で面接調査の方法が用いられているかを学ぶ 	60
11	テーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> 地域における福祉の問題や課題について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活する地域や大学のある郡山市における福祉課題を調べておく 	60
12	テーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> 地域における福祉の問題や課題の中から関心のあるテーマや問題意識を持っているテーマについてまとめ、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の準備 質問を受けた内容について調べておく 	90
13	先行研究調査	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究について調べる 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のテーマに関する先行研究を調べる 	90
14	研究計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> おおよその研究計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を調べ、その手法を学ぶ 	90
15	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究 随時、進捗状況を報告する 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる 	60
16	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる まとめた内容を報告し、指導を受けた点を加えておく 	60
17	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる まとめた内容を報告し、指導を受けた点を加えておく 	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
18	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を加えてまとめる	60
19	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を加えてまとめる	60
20	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を加えてまとめる	60
21	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
22	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
23	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
24	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
25	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
26	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
27	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
28	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
29	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
30	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究 ・4年次に向け、研究計画を再検討する	・研究計画について見直しを行う	40

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	通年			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>このゼミでは、学生にとって身近な問題意識や「知りたい」気持ちを大切にテーマ設定を心がけています。指導可能な内容は、虐待関連問題、施設の相談支援の在り方、女性の生き方や家族の問題、大学生の友人・恋愛・家族関係、電子メディアとメンタルヘルス、各種意識調査など。担当教員の福祉施設や病院での実務経験を活かし、福祉や心理に関する今日的な問題を取り上げ、指導します。授業（ゼミ）の中では、調べたことを発表したり、トピックスを議論したり、他の学生と情報交換を行ったり、学外の施設や機関に行き調査やインタビューを行うこともあります。 実務経験：臨床心理士として、医療機関、福祉施設に勤務。</p>			
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>3年次は、周辺の問題を俯瞰しながら、漠然としたテーマをどんどん絞り込んでいき、4年次は少し前にはテーマが設定される（仮タイトルができる）ことが目標です。そのための文献探索、資料あつめ、先行研究の把握がこのゼミの主な柱となります。</p>			
受講資格	なし	成績評価 方法	ゼミにおける調査・発表内容（30%）、3年終了時「研究計画」の具体性・独自性・論理性等（40%）、文献・資料探索調査努力（30%）	
教科書	テーマ別に提示			
参考書	テーマ別に提示			
学生への要望	<p>テーマを絞り込む過程では、迷ったり、壁にぶつかったり、戻ったりしながら、1年をかけて自分の知りたいことをクリアカット（明確化）していきます。3年生の学習方法は文献探索が中心となります。なるべく多くの資料に触れ、良い文献を見つけ出してください。ゼミは定期的に開講しますので、必ず出席してください。</p>			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限、臨床心理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	卒業研究ゼミの進め方、卒業研究の発表時期と方法、テーマ設定のプロセスや、3年次に行くことなどについて。	60
2	仮テーマ設定（1）	自分にとって興味関心のある分野、知りたいこと、掘り下げたいテーマ等について発表または討論し、文献を探す。	60
3	仮テーマ設定（2）	文献にあたり、調べてきたことを報告・発表する。	60
4	仮テーマ設定（3）	文献探索の中で分かったことを整理し、もっと知りたいことを探究する。	60
5	仮テーマ設定（4）	さらに文献探索を続け、対象分野その周辺を俯瞰し、キーワードを整理する。	60
6	仮テーマ設定（5）	文献探索を重ねながら、研究目的を絞り込んで、焦点化する。	60
7	論文の書き方（1）	論文とは何か。論文のスタイルについて（文章の書き方、主語述語、言葉の定義、構成、要約、謝辞についてのポリシーなど）。	60
8	論文の書き方（2）	論文とは何か。論文のルールについて（引用方法と盗用、一次資料二次資料、個人情報保護、守秘義務と開示の了承など）。	60
9	論文の書き方（3）	論文とは何か。いろいろな分野・スタイル・手法の論文を見て、テーマ設定の方法や研究のプロセスを吟味し、論文のイメージを収集していく。	60
10	資料の探し方（1）	図書館の使い方（文献複写のルール、資料請求、貸し出しルール、貸し禁の資料など）	60
11	資料の探し方（2）	資料検索エンジン、政府省庁公開資料、自治体公開資料など	60
12	研究方法（1）	量的分析について（統計資料、アンケート調査、統計処理、初歩的な統計概念など）	60
13	研究方法（2）	質的分析について（事例研究、構造化・半構造化面接の方法、記述式データの分類・分析方法など）。	60
14	研究方法（3）	文献レビュー、メタ分析について	60
15	進捗報告Ⅰ	ここまで調べてきた内容をレポートにして報告する。	60
16	学外研究	地域の社会資源を調べ、施設見学をして、インタビューや情報収集を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
17	文献探索 (1)	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
18	文献探索 (2)	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
19	文献探索 (3)	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
20	文献探索 (4)	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
21	先行研究の調査 (1)	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
22	先行研究の調査 (2)	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
23	先行研究の調査 (3)	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
24	先行研究の調査 (4)	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
25	先行研究の調査 (5)	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
26	研究テーマの絞り込み (1)	研究目的、仮説、研究方法を構成する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
27	研究テーマの絞り込み (2)	データの収集方法 (アンケート、インタビュー、新聞記事収集等)、収集内容を決定する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
28	研究テーマの絞り込み (3)	データ収集の具体的準備 (施設見学やインタビューの対象選定、調査依頼、質問紙・面接票・分類表などの作成) と作業計画。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
29	研究テーマの絞り込み (4)	タイトル (仮) の決定。データ収集の開始。	文献探索、先行研究・情報収集など 60
30	レポート報告	タイトル (テーマ)、目的、仮説、調査方法などのアウトラインと次年度計画の発表または報告する。	文献探索、先行研究・情報収集など 60

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修
担当教員	近内 直美		
開講期	通年		
授業概要	・大学での学修の総まとめとして、興味あるテーマをもとに卒論のテーマを決定していく。		
達成目標	・テーマに関する知識を習得する。 ・テーマに即した研究の手法を取得し、自己の研究についてふさわしい手法を習得する。		
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%
教科書	特に無し		
参考書	随時紹介		
学生への要望	・社会福祉に関心を持ち、国施策や地方自治と住民の生活との関連性を意識し、課題に気づいてください。 ・自主的に学習に取り組み、意欲的に発表を行いながら内容を深めてください。		
オフィスタイム	前期：月曜日Ⅱ時限・Ⅲ時限、後期：月曜日Ⅱ時限・Ⅲ時限 創学館4階No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス	・卒業研究を進めるうえで必要な方法を知る。 ・卒業研究の全体像をイメージし、方向性を検討する。 ・2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向性の授業を行う。	・卒業研究について、興味のある事柄を調べる
2	卒業研究のテーマ設定について1	・卒業研究に関連した論文を読む。 ・学生が関心を持っているテーマについて関連した情報を得、知識を増やす。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
3	卒業研究のテーマ設定について2	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
4	論文の書き方について1	・文献などの探し方について学ぶ ・データの収集の仕方について学ぶ	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
5	論文の書き方について2	・参考文献の活用について学ぶ ・データの活用について学ぶ	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
6	論文の書き方について1	・参考文献を活用する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
7	論文の書き方について2	・アンケート調査に関する基本的知識について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
8	論文の書き方について3	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
9	論文の書き方について4	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
10	論文の書き方について5	・その他調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
11	テーマの検討1	・論文のテーマを検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
12	テーマの策定2	・論文のテーマを決定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
13	研究方法の策定	・研究テーマに沿った研究方法を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
14	研究計画書の作成1	・研究計画を検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う
15	研究計画書の作成2	・研究計画を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
16	既往論文の研究 1	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
17	既往論文の研究 2	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
18	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
19	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
20	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
21	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
22	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
23	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
24	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
25	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
26	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
27	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
28	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
29	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
30	研究の実施	・研究の中間評価を行い、改善点を見直す。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	研究テーマに関する疑問に対して、調査を実施し考察することで自らの答えを導き出す。 各学生毎に実施報告からそれらについてディスカッションをする。			
達成目標	研究テーマに対しての答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得すること。 1. 研究計画にそってデータを収集し調査、分析を行う。 2. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成する。 3. 他コースの方にもわかりやすいパワーポイントの作成と発表を行う。			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題70%、発表30%	
教科書	随時、印刷物の配布			
参考書	授業内で適宜紹介する			
学生への要望	諦めないで、研究をやり遂げること。			
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 I 時限 創学館4階 No.1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	調査依頼及び集計	調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
2	調査依頼及び集計	調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
3	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
4	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
5	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
6	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
7	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
8	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
9	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
10	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
11	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
12	引用文献	引用文献について整理をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
13	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、特徴を確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
14	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、抱えている課題について確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
15	学外学習（8～9月実施）	県内の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
16	学外学習（8～9月実施）	県内の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
17	学外学習（8～9月実施）	県内の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
18	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
19	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
20	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
21	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
22	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
23	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180
24	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180
25	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180
26	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180
27	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180
28	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180
29	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180
30	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。 180

平成31年度

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている			
達成目標	・卒業研究Ⅱでは、10月末の発表会で報告し、2年間の成果として論文をまとめる			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	報告・発表30%、論文70%	
教科書	特になし			
参考書	随時プリントを配布する 適切な論文を適宜紹介する 地域福祉情報、月刊福祉等を参考とする			
学生への要望	・研究計画に沿って、主体性を持って進めてください			
オフィスタイム	前期：月曜日及び金曜日の3時限 、後期：木曜日の1～3時限 創学館4階 No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	演習	・テーマに即した内容を調べ、発表し、ディスカッション		0
2	研究計画書の作成	・研究計画書を作成する ・論文の構成を考える		0
3	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
4	論文の作成	・テーマに関連する研究会等に参加する		0
5	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
6	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
7	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる		0
8	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる		0
9	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
10	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
11	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
12	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
13	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
14	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
15	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
16	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告		0
17	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
18	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
19	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
20	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
21	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
22	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
23	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
24	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
25	発表	・卒業研究発表会で発表する		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
26	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
27	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
28	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
29	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
30	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	通年			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>卒業研究Ⅰ（3年次）で作成した研究計画に沿って、調査を行い、データを処理し、論文を書いていきます。このゼミでは、心理学的手法（アンケート調査、統計処理、個人インタビュー、集団討論等）を使って研究する方法も必要に応じて指導します。担当教員の福祉施設や病院での実務経験を活かし、福祉や心理に関する今日的な問題を取り上げながら、実践に役立つ研究を指導します。授業（ゼミ）の中では、調べたことを発表したり、トピックスを議論したり、他の学生と情報交換を行ったり、学外の施設や機関に行き調査やインタビューを行うこともあります。</p> <p>実務経験：臨床心理士として医療機関、福祉機関に勤務。</p>			
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>①論理的で分かりやすい文章を丁寧に書き上げること。 ②研究のために必要な良質な文献を見つけ出し、十分に読み込んでいること。 ③調査やデータ処理を適切に行い、誠実な態度で結果の考察を行っていること。 ③引用の約束事を理解し、引用・参考文献の書き方を習得していること。</p> <p>なお、福祉コースの学生は、他のコース学生よりも3か月早い10月末に本発表が行われますので、この時期までに論文の完成を目指します。</p>			
受講資格	なし	成績評価 方法	論文の完成度（テーマ、構成、調査力、文章力、独自性、発想力、論理性、データ処理、文献資料の質と量など）（80%）、発表会への参加態度（10%）、ゼミの参加態度（10%）	
教科書	テーマ別に提示			
参考書	テーマ別に提示			
学生への要望	4年生は、定期的にゼミに出席して、研究の進捗を報告してください。そして、毎回のゼミで次の目標を設定し、コツコツと作業を積み上げていきましょう。進め方（計画作成）は、国家試験対策や就活とも合わせて、ひとりひとり自分で作ってもらいます。なるべくはやい時期から書き始めるようにしてください。			
オフィスタイトム	火曜Ⅰ限、水曜Ⅳ限 臨床心理学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	論文作成タイムスケジュールを作成する。	一年間の研究の計画づくり。	60
2	テーマやアウトラインの確認	仮タイトル、研究目的、仮説、研究方法、データ収集の進捗などを確認する。	研究に必要な文献や、先行研究、報道記事などを収集する。	60
3	データ処理（1）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
4	データ処理（2）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
5	データ処理（3）	アンケートデータの回収・集計、あるいはインタビューデータの文字起こしなど	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
6	データ処理（4）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
7	学外研究	地域の社会資源を調べ、施設見学等をして、インタビュー、アンケート、情報収集を行う。	施設へのアポイント、取材内容の確定。訪問後はお礼状を出し、取材内容を整理する。	60
8	データ処理（5）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
9	データ処理（6）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
10	データ処理（7）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
11	考察（1）論文の執筆（1）	データの分析結果から考察を行う。	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
12	考察（2）	データの分析結果から考察を行う。	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
13	考察（3）	データの分析結果から考察を行う。	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
14	考察（4）	データの分析結果から考察を行う。	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
15	考察（5）	データの分析結果から考察を行う。	データ収集のための作業、集計分析、あるいは文献・先行研究の収集	60
16	論文の執筆（1）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。	論文構成、執筆作業。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
17	論文の執筆（2）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。	論文構成、執筆作業。 120
18	論文の執筆（3）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。	論文構成、執筆作業。 120
19	論文の執筆（4）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。	論文構成、執筆作業。 120
20	論文の執筆（5）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。	論文構成、執筆作業。 120
21	論文の執筆（6）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。	論文構成、執筆作業。 120
22	中間発表（または本発表）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成） 120
23	論文の執筆（7）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす。	論文構成、執筆作業。 120
24	論文の執筆（8）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす。	論文構成、執筆作業。 120
25	論文の執筆（9）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす。	論文構成、執筆作業。 120
26	論文の執筆（10）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす。	論文構成、執筆作業。 120
27	論文の仕上げ（1）	引用文献の記載方法を確定し、そのルールに従って丁寧に文献表記を行う。	論文構成、執筆作業。 120
28	論文の仕上げ（2）	用語や訳語の統一、表・グラフ等の表記ルールに従った記載、引用文献の表記法、内容のチェックなど。	論文構成、執筆作業。 120
29	論文の仕上げ（3）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成） 120
30	本提出	完成した論文を最終チェック。特に27回、28回めの時に学んだチェックポイントを再点検し、誤字脱字、全体の統一性、さらに落丁のないことを確認して提出する。	仕上げ。 120

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	近内 直美		
開講期	通年		
授業概要	・大学での学修の総まとめとして知識の統合化を図り、卒論のテーマを決定し研究を進める。		
達成目標	・テーマに沿って研究方法を学び、研究を進め論文にまとめる。		
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	経過報告・演習等の発表30%、論文70%
教科書	特に無し		
参考書	随時紹介		
学生への要望	・研究テーマを明らかにし自主的に、計画的に論文の作成に取り組んでください。		
オフィスタイトム	前期：月曜日Ⅱ・Ⅲ時限 創学館4階No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	ガイダンス	研究計画書の見直しを行い、発表に向けた研究計画を策定する。 2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向型授業を行う。	60
2	先行研究の資料の収集1	テーマに即した先行研究を整理する。	60
3	先行研究の資料の収集2	テーマに即した先行研究を整理する。	60
4	資料を理解する	テーマに即した先行研究を理解し、卒業研究のテーマに基づきディスカッションを行う。	60
5	資料の収集	論文作成に向けた資料を集める。	60
6	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
7	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
8	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
9	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
10	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
11	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
12	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
13	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
14	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	60
15	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	120
16	論文の作成	社会資源の収集・調査資料の分析を行う。	120
17	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	120
18	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	120
19	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	120
20	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	120
21	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	120
22	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	120
23	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	120
24	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	120
25	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	120
26	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	120
27	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	120
28	論文の作成	発表の準備を行う。	60
29	論文の作成	論文の追加・加筆・修正を行う。	60
30	論文の提出	論文の追加・加筆・修正を行い最終提出をする。	60